

朝鮮臨時利得稅令

昭和十年四月二十日 制令第五號

改正 昭和二年第二號、一三年第一四號、一四年第四號、一五年第一三號、一六年第二七號

朝鮮臨時利得稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮臨時利得稅令

第一條 朝鮮ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者朝鮮ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條 臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付テ之ヲ賦課ス 一 法人ノ利得 二 朝鮮營業稅令第一條ニ掲グル營業(鐵業ヲ含ム)ニ因ル個人ノ利得

(普通利得ト稱ス以下同シ) 三 船舶(製造中ノ船舶ヲ含ム)又ハ鐵業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル個人ノ利得(讓渡利得ト稱ス以下同シ)

第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得トス

第五條 法人ノ現事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

法人ガ現事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ第一種ノ所得ニ對スル所得稅及臨時利得稅並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得、利益又ハ利息ノ配當及剩餘金ノ分配ニ對スル所得稅及配當稅ニシテ

朝鮮所得稅令第三十三條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

法人ノ現事業年度開始ノ日前三年內ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタ

ル損金ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノハ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ利益ハ朝鮮ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前三項ノ規定ニ準ジテ之ヲ計算ス

第五條ノ二 朝鮮ニ本店ヲ有スル法人ガ臺灣、樺太又ハ南洋羣島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル又ハ納付スベキ各當該地ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ朝鮮總督ノ指定スルモノハ之ヲ第一種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シテ前條第二項ノ規定ヲ適用ス

第五條ノ三 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條ノ四 朝鮮所得稅令第四條及第五條ノ規定ハ臨時利得稅ノ賦課ニ付テ之ヲ準用ス

第六條 法人ノ現事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ月平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第七條 本令ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

第一種ノ所得ニ對スル所得稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第五條ノ二ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ之ヲ第一種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第八條 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ利得ニ付テ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第八條ノ二 臨時利得稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ガ臨時利得稅法施行地、臺灣、關東州、樺太又ハ朝鮮ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ

前ニ取得シタルモノニ付テハ同日ニ於ケル價額ヲ以テ前項ノ取得價額トシ同日後ニ爲シタル設備又ハ改良ニ要シタル費用ノミヲ以テ前項ノ設備費又ハ改良費トス

前二項ノ計算ニ關シテハ相續、贈與又ハ遺贈ニ因リ取得シタルモノハ相續人、受贈者又ハ遺贈者ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シ讓渡後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ爲シタル讓渡ハ之ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス

前三項ニ定ムルモノノ外讓渡利得ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督ノ之ヲ定ム

第九條ノ七 讓渡利得ニ付テハ其ノ利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

第十條 朝鮮所得稅令第二十條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セザル法人ニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十一條 臨時利得稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ利得ニ付テハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十一條ノ二 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本令ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條ノ三 船舶ノ讓渡ニ因ル利益ニシテ第九條ノ個人ノ利益ニ屬スルモノ及昭和十四年一月一日以後ニ於テ設定セラレタル鐵業ニ關スル權利ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノノ讓渡ニ付テハ本令中讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十二條 法人ノ臨時利得稅ハ法人ノ利得ヲ左ノ部分ニ區分シ各部分ニ付左ノ稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス

一 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得

利得金額ノ百分ノ二十五

二 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘

定テ適用セズ

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ朝鮮總督ノ之ヲ定ム

第九條ノ五 個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ普通利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ

第九條ノ六 讓渡利得ハ船舶又ハ鐵業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル收入金額ヨリ取得價額、設備費、改良費及讓渡ニ關スル必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

船舶又ハ鐵業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十一年十二月三十一日以後

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ朝鮮ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スルトキハ前條ノ規定ヲ準用ス

第八條ノ三 朝鮮銀行法第二十七條ノ規定ニ依リ納付金額ハ第五條第一項ノ規定ニ依ル法人ノ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第九條 個人ノ利益ガ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ個人ノ普通利得トス

第九條ノ二 前條ノ規定ニ依リ個人ノ普通利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ七千圓又ハ現年ノ利益ノ三分ノ一ニ相當スル金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ニ達セザルトキハ其ノ多額ナル一方ノ金額ヲ以テ平均利益トス

第九條ノ三 個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

所得稅及臨時利得稅ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ 相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス



シテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得

三 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超ユル金額ヨリ成ル部分ノ利得

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限り前項ニ規定スル稅率百分ノ二十五ハ之ヲ百分ノ十五トシ同百分ノ四十五ハ之ヲ百分ノ三十五トシ同百分ノ六十五ハ之ヲ百分ノ五十五トス

第十二條ノ二 前條ノ規定ニ依リ現事業年度ノ資本金額ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合トス但シ其ノ割合が年百分ノ十未満ナルトキハ法人ノ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ終了シタルトキハ其ノ割合ヲ年百分ノ十トシ其ノ割合が年百分ノ二十ヲ超ユルトキハ之ヲ年百分ノ二十トス

第五條(第二項及第三項ヲ除ク)、第五條ノ三、第五條ノ四、第六條及第七條第一項ノ規定ハ前項ノ平均利益及平均資本金額算出ノ基礎タル昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度ノ利益及資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ當該事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベカリシ第一種ノ所得ニ對スル所得稅、第一種所得稅附加稅、朝鮮總督ノ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅及臨時利得稅並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅ニシテ朝鮮所得稅令ニ依リ其ノ額ヲ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ控除シタルモノハ當該事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第十二條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ガ年百分

分ノ十ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中ニ増加資本金額アルトキハ同項ノ規定ニ拘ラズ現事業年度ノ資本金額中増加資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト増加資本金額以外ノ部分ニ同項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ現事業年度ノ資本金額ニ對スル割合ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益率トス

前項ノ増加資本金額トハ現事業年度ノ資本金額ガ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額又ハ同日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過額ヲ謂フ

昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ同日ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ニ依リ之ヲ計算ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十二條ノ四 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益及平均資本金額並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十二條ノ五 個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

普通利得 利得金額ノ百分ノ二十五  
讓渡利得 利得金額ノ百分ノ二十三

第十三條 納稅義務アル法人ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十三條ノ二 普通利得ニ付テハ納稅義務アル個人ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

〔輯一一一〕

政府ニ申告スベシ

第十四條 法人ノ利得金額ハ第十三條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ個人ノ普通利得金額ハ朝鮮所得稅令ノ所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後個人ノ普通利得金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年ヨリ三年間ハ仍所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後個人ノ普通利得ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ利得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス

讓渡利得金額ハ前條第二項ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十四條ノ二 朝鮮所得稅令第四十三條及第四十四條ノ規定ハ個人ノ普通利得金額ノ決定ニ付之ヲ準用ス

第十五條 前二條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十六條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル利得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十七條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ朝鮮所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

朝鮮所得稅令第五十二條第二項及第五十三條第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

〔輯一一一〕

第十八條

法人ノ利得ニ付テハ事業年度毎ニ臨時利得稅ヲ徵收ス  
個人ノ普通利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ三分シ左ノ三期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ朝鮮外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限  
第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限  
第三期 翌年二月一日ヨリ末日限

個人ノ讓渡利得ニ付テハ船舶又ハ鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ノ際臨時利得稅ヲ徵收ス

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ個人ノ普通利得ニ付臨時利得稅ヲ逃脫シタル者ノ利得金額ハ朝鮮所得稅令ノ所得調査委員會ニ諮問セズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第二十條 臨時利得稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 大正元年制令第四號第一條但書ノ規定ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 朝鮮所得稅令第二十二條第二項、第三十九條第四項、第四十八條、第四十九條、第五十條第二項、第五十五條、第六十條、第六十二條乃至第六十五條及第六十九條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 左記各號ニ掲グル所得ニ付テハ本令ヲ適用セズ  
一 朝鮮所得稅令第三十一條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除セラルル所得



二 朝鮮鑛業令第六十條ニ規定スル特許鑛業ヨリ生ズル所得但シ其ノ特許條件ニ別段ノ定アル場合ニ限ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令ハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス  
本令ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リ、個人ノ普通利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年分限リ、讓渡利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル利得ニ對スル分限リトス

附則 (昭和十三年勅令第十四號)

第一條 本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第二條 法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

第三條 朝鮮臨時租稅徵令第七條ノ規定ハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅ニ付テハ之ヲ適用セズ  
第四條 朝鮮北支事件特別稅令第八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ法人ノ甲種利得ニ對スル稅率ヲ利得金額ノ百分ノ十五トシ算出シタル臨時利得稅額ヲ以テ同條ニ規定スル臨時利得稅額トス  
第五條 昭和十三年八月十一日迄ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ利得ニ對スル臨時利得特別稅額ハ當該利得ニ付第十二條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ之ヲ控除ス

附則 (昭和十五年勅令第十三號)

第一條 本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第二條 法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ普通利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

第三條 昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度分ノ第一種所得附加稅及朝鮮總督ノ指定スル第一種所得附加稅ニ相當スル租稅ハ之ヲ第一種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ朝鮮臨時利得稅令第五條第二項ノ改正規定ヲ適用ス法人ガ本令施行前ニ合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ合併ノ日ヲ含ム事業年度ガ本令施行後ニ終了スル場合ニ於ケル合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ第一種所得附加稅及朝鮮總督ノ指定スル第一種所得附加稅ニ相當スル租稅並ニ清算所得ニ對スル第一種所得附加稅ニ付亦同シ

第四條 昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度前ノ各事業年度分ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅及臨時利得稅ハ朝鮮臨時利得稅令第五條第二項ノ改正規定ニ拘ラズ法人ノ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第五條 昭和十四年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ因ル個人ノ利得ニ付テハ政府ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年分又ハ昭和十六年分ニ限リ臨時利得稅ヲ輕減若ハ免除シ又ハ普通利得金額ノ計算ニ關シテ特例ヲ設クルコトヲ得

第六條 朝鮮臨時利得稅令第十三條ノ二第一項ノ改正規定中三月十五日迄トアルハ昭和十五年ニ限リ四月三十日迄トス

●朝鮮臨時利得稅令施行規則

昭和十年四月二十日  
朝鮮總督府令第六十三號

修正 昭和十三年第五九號、一四年第四二號、一五年第五七號  
朝鮮臨時利得稅令施行規則左ノ通定ム

朝鮮臨時利得稅令施行規則

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ其ノ事業年度ノ利益計算上益金又ハ損金ニ之ヲ算入セズ

法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ朝鮮臨時利得稅令第五條第三項ニ規定スルモノノ外其ノ事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

朝鮮臨時利得稅令第五條ノ二ノ第一種所得附加稅ニ相當スル租稅ハ臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資產又ハ營業ニ對シ各當該地ノ法令ニ依リ其ノ資產又ハ營業ヨリ生ズル所得ヲ標準トシテ賦課スル租稅ヲ謂フ

第二條 朝鮮臨時利得稅令第五條第三項ノ規定ニ依リ現事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ算入スベキ金額ハ現事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ後ノ事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ算入セラレザル金額トス

第三條 朝鮮臨時利得稅令第四條ノ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ハ現事業年度ノ月數ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ朝鮮臨時利得稅令第十二條第一項ノ現事業年度ノ資本金



額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘シテ算出シタル金額、現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘シテ算出シタル金額又ハ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘シテ算出シタル金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四條 削除

第五條 削除

第六條 朝鮮ニ本店ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ總資産價額ニ對スル朝鮮ニ於ケル資産價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘ジ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資産價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ利益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第一項ノ總資本金額又ハ總資産價額ノ計算ニ付朝鮮臨時利得稅令第十三條ノ規定ニ依ル申告ヲ不相當ト認ムル場合ニ於テハ第一項ノ規定ニ拘ラズ朝鮮ニ於ケル固定資本及運轉資本ノ合計ヲ以テ同項ノ資本金額トス但シ他ヨリ借入レタルコト明ナルモノハ之ヲ控除ス

第七條及第八條 削除

第八條ノ二 朝鮮臨時利得稅令第九條ノ三第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ仕入品原料品ノ原價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料、元本ヲ得ルニ要シタル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及

之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第八條ノ三 個人ノ普通利得金額ヲ計算スル場合ニ於テ營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アルトキハ納稅義務者ノ申告ニ依リ前營業者ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ其ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ前營業者ガ法人ナルトキハ法人ノ營業ニ付朝鮮臨時利得稅令第九條ノ三第一項ノ規定ヲ準用シテ其ノ利益ヲ計算ス

第八條ノ四 個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ臨時利得稅ヲ課スベキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和十一年以前三年ニ屬スル各年ノ利益ヲ算出シテ平均利益ヲ計算ス

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第八條ノ五 讓渡利得金額ハ朝鮮臨時利得稅令第九條ノ六ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ計算ス

- 一 船舶又ハ鐵業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十一年十二月三十一日後ニ於テ取得シタルモノノ取得價額ハ製造又ハ創設ニ因リ取得シタルモノニ付テハ其ノ製造費又ハ創設費(探鑛ニ關スル費用ヲ含ム)ニ依リ他人ヨリ讓渡ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ對價(取得ニ關スル必要ノ經費ヲ含ム)ニ依ル
- 二 相續、贈與又ハ遺贈アリタル船舶又ハ鐵業ニ關スル權利若ハ設備ハ

之ヲ被相續人、贈與者又ハ遺言者ガ取得シタル時ニ於テ相續人、受贈者又ハ受遺者ノ爲シタルモノト看做シ被相續人、贈與者又ハ遺言者ノ

支出シタル設備費、改良費又ハ讓渡ニ關スル必要ノ經費ハ之ヲ相續人、受贈者又ハ受遺者ノ支出シタルモノト看做ス

三 被相續人ノ爲シタル讓渡ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス場合ニ於ケル讓渡利得金額ハ被相續人ノ爲シタル讓渡ニ付計算シタル讓渡利得金額ニ依ル

第八條ノ六 昭和十四年一月一日以後ニ於テ鐵區ノ合併、分割又ハ分合ニ因ラズシテ自己ガ原始的ニ取得シタル鐵業ニ關スル權利ノ讓渡ニ付テハ朝鮮臨時利得稅令第十一條ノ三ノ規定ニ依リ讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

第九條 朝鮮臨時利得稅令第十二條ノ二第一項ノ平均利益ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年以内ニ終了シタル各事業年度(既往各事業年度ト稱ス以下同シ)ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ既往各事業年度ノ期間ガ現事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往各事業年度ノ利益ハ既往各事業年度ノ月數ノ現事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ既往

各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ現事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス

第九條ノ二 朝鮮臨時利得稅令第十二條ノ二第一項ノ平均資本金額ハ既往各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ資本金額ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九條ノ三 朝鮮臨時利得稅令第十二條ノ二第一項ニ規定スル平均利益率ハ前條ノ規定ニ依リ計算シタル平均資本金額ヲ以テ第九條ノ規定ニ依リ計算シタル平均利益ヲ除シテ之ヲ計算ス

第九條ノ四 朝鮮臨時利得稅令第十二條ノ二第二項ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ臨時利得稅法施行地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ其ノ資産又ハ營業ヨリ生ズル所得ヲ標準トシテ賦課スル租稅トス

第九條ノ五 朝鮮臨時利得稅令第十二條ノ三第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ヲ計算スル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額以外ノ部分ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ハ朝鮮臨時利得稅令第十二條ノ二第一項但書ノ規定ヲ適用シタル割合トス

第九條ノ六 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往各事業年度ノ全部ノ平均資本金額及平均



利益並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ合併後存続スル

法人及合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ既往各事業年度ノ資本金額及利益

並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ヲ通算シテ之ヲ計算ス

第十條 法人ノ利得金額ハ每事業年度決算確定ノ日、合併ノ日又ハ清算著

手ノ日ヨリ三十日以内ニ利得算出ノ基礎ヲ明記シ之ヲ所轄稅務署ニ申告ス

ベシ但シ朝鮮所得稅令ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨

グズ

第十條ノ二 個人ノ普通利得ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所

在地、利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務署ニ申告スベシ此ノ

場合ニ於テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス

第十條ノ三 第八條ノ三ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前營業者ノ營業

ノ種類、營業場所所在地、氏名又ハ名稱及住所又ハ居所並ニ昭和十一年以

前三年ノ平均利益ヲ朝鮮臨時利得稅令第十三條ノ二第一項ノ申告ト同時

ニ所轄稅務署ニ申告スベシ

第十條ノ四 讓渡利得ニ付納稅義務アル者ハ讓渡ノ日ヨリ三十日以内ニ利得

金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

前項ノ規定ニ依ル申告書ニハ讓渡シタル船舶又ハ鑛業ニ關スル權利若ハ

設備ノ明細書ヲ添附スベシ

第十一條 稅務署長朝鮮臨時利得稅令第十四條、第十四條ノ二又ハ第十九

條第二項ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通

知スベシ

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分

ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ、合併ヲ爲シ又ハ清

算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ニ付テハ第十條ノ申告ハ

本令施行後三十日以内ニ之ヲ爲スベシ但シ本令施行前第十條ノ規定ニ依リ利

得金額ノ申告ヲ爲シタル法人ハ甲種利得金額ニ對スル申告ヲ省略スルコト

ヲ得

國稅徵收令施行規則第一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 個人ノ臨時利得稅

附則 (昭和十四年朝鮮總督府令第四十二號)

本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ニ終了スル事業年度分

ヨリ、個人ノ普通利得稅ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ、讓

渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ノ讓渡ニ因ル

第十二輯 財務 第二章 租稅 第三款ノ二 臨時利得稅

知スベシ

第十二條 朝鮮臨時利得稅令第十六條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル

者ハ事由ヲ具シ證書類ヲ添ヘ利得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經

由シ稅務監督局長ニ申出ヅベシ

第十三條 稅務監督局長朝鮮臨時利得稅令第十七條ノ規定ニ依リ利得金額

ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十三條ノ二 朝鮮臨時利得稅令第二十二條ニ於テ準用スル朝鮮所得稅令

第五十五條ノ規定ニ依リ臨時利得稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスルトキ

ハ事由ヲ具シ稅務署長ニ申請スベシ

前項ノ申請ハ災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困

知スベシ

第十二條 朝鮮臨時利得稅令第十六條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル

者ハ事由ヲ具シ證書類ヲ添ヘ利得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經

由シ稅務監督局長ニ申出ヅベシ

第十三條 稅務監督局長朝鮮臨時利得稅令第十七條ノ規定ニ依リ利得金額

ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十三條ノ二 朝鮮臨時利得稅令第二十二條ニ於テ準用スル朝鮮所得稅令

第五十五條ノ規定ニ依リ臨時利得稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスルトキ

ハ事由ヲ具シ稅務署長ニ申請スベシ

前項ノ申請ハ災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困

難トナリタル時ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ

朝鮮所得稅令施行規則第六十四條及第六十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付

之ヲ準用ス

第十四條 朝鮮所得稅令施行規則第四十八條乃至第五十條、第五十八條乃

至第六十條、第七十一條、第七十二條、第七十四條乃至第七十六條ノ規

定ハ臨時利得稅ニ付テ之ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十年一月一日ヲ含ム事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

利得ニ對スル分ヨリ本令ヲ適用ス

昭和十四年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ

清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ノ申告ハ既ニ之ヲ爲シ

タルト否ト問ハズ本令施行後三十日以内ニ之ヲ爲スベシ

昭和十四年一月一日以後同年三月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル讓渡利得ニ對ス

ル臨時利得稅ニ付テハ第十條ノ四ノ規定ニ拘ラズ利得金額ノ申告期限ヲ昭

和十四年四月三十日トス

國稅徵收令施行規則第一條第五號ヲ左ノ如ク改ム

五 個人ノ普通利得稅ニ對スル臨時利得稅

附則 (昭和十五年朝鮮總督府令第五十七號)

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業

年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

第三條 法人ノ現事業年度開始ノ日前三年内ニ開始シ本令施行前ニ終了シ

タル事業年度ニ於テ生ジタル損金ノ算定ニ關シテハ朝鮮臨時利得稅令第

五條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第四條 朝鮮臨時利得稅令附則第三條ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租

稅ハ臨時利得稅法施行地、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營

業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ其ノ資産又ハ營業ヨリ生ズル所得



ヲ標準トシテ賦課スル租稅ヲ謂フ

**第五條** 朝鮮臨時利得稅令附則第五條ノ規定ニ依ル昭和十五年分又ハ昭和十六年分ノ臨時利得稅ノ輕減若ハ免除又ハ普通利得金額ノ計算ニ關スル特例ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル

- 一 昭和十四年一月一日以後相續ニ因ルニ非ズシテ新ニ營業ヲ有スルニ至リタル者ニ對シ其ノ利益ヲ豫算シテ普通利得金額ヲ計算シ昭和十四年分臨時利得稅ノ賦課ヲ受ケタルトキハ昭和十四年中ニ於ケル其ノ營業ヨリ生ズル普通利得ニ付テハ昭和十五年分ノ臨時利得稅ヲ免除ス
- 二 昭和十三年十二月三十一日以後引續キ營業ヲ有シ昭和十四年中ニ於テ之ヲ有セザルニ至リタルトキハ其ノ營業ヨリ生ズル普通利得ニ付テハ昭和十五年分ノ臨時利得稅ヲ免除ス
- 三 昭和十五年一月一日以後昭和十五年分ノ普通利得金額決定前ニ營業ヲ廢止シタル者ニ付テハ其ノ營業ニ對スル普通利得金額ハ朝鮮臨時利得稅令第九條ノ三ノ規定ニ拘ラズ昭和十五年一月一日ヨリ營業ヲ廢止シタル時迄ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ヲ基礎トシテ計算シ之ヲ昭和十五年分普通利得金額トス
- 四 昭和十五年分ノ普通利得金額決定ノ日以後昭和十五年十二月三十一日迄ニ營業ヲ廢止シタル者ニ付テハ其ノ營業ニ對スル昭和十六年分ノ普通利得金額ハ昭和十五年一月一日ヨリ營業ヲ廢止シタル時迄ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ヲ以テ利益金額トシ之ヲ計算ス

### 臺灣臨時利得稅令

昭和十年四月十三日 律令第四號

修正 昭和十二年第九號、一三年第二號、一四年第三號、一五年第七號 臺灣臨時利得稅令大正十年法律第三號ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

#### 臺灣臨時利得稅令

- 第一條 臺灣ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者臺灣ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 第三條 臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス
  - 一 法人ノ利得
  - 二 左ニ掲グル營業ニ因ル個人ノ利得(營業利得ト稱ス以下同シ)
    - 一 物品販賣業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ販賣ヲ含ム)
    - 一 金錢貸付業
    - 一 物品貸付業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ貸付ヲ含ム)
    - 一 製造業(瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム)
    - 一 運送業(運送取扱ヲ含ム)
    - 一 倉庫業
    - 一 請負業
    - 一 印刷業
    - 一 出版業
    - 一 寫眞業
    - 一 席貸業

- 一 旅人宿業(下宿ヲ含ミ木賃宿ヲ含マズ)
  - 一 料理店業
  - 一 周旋業
  - 一 代理業
  - 一 仲立業
  - 一 問屋業
  - 一 鑛業
  - 三 船舶(製造中ノ船舶ヲ含ム)又ハ鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル個人ノ利得(讓渡利得ト稱ス以下同シ)
  - 第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得トス
  - 第五條 法人ノ現事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ相互保險會社ニ在リテハ現事業年度ノ剩餘金ニ依ル
- 法人ガ現事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅及臨時利得稅並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅及配當稅ニシテ臺灣所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ第一種所得稅額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル又ハ納付スベキ各當該地ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノ並ニ所得稅法施行地、朝鮮、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル各當該地ノ配當利子所得ニ對スル分類所得稅又ハ第二種所得稅ニシテ臺灣所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ第一種所得稅額ヨリ控除スベキモノニ付亦同シ



法人ノ現事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノハ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前二項ノ規定ハ相互保險會社ノ剩餘金ノ計算ニ付之ヲ準用ス  
臺灣ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ利益ハ臺灣ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前四項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス

第五條ノ二 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第六條 法人ノ現事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス  
臺灣ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 本令ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ  
第一種所得稅、第一種所得稅附加稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ樺太又ハ南洋群島ノ法令ニ依リ納付スベキ各當該地ノ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノニ付亦同シ

第八條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ利得ニ付臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第九條 個人ノ利益ガ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ營業利得トス

第九條ノ二 前條ノ規定ニ依リ營業利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ七千圓又ハ現年ノ利益ノ三分ノ一ニ相當スル金額

續人、受贈者又ハ受遺者ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シ讓渡後權續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ爲シタル讓渡ハ之ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス  
前三項ニ定ムルモノノ外讓渡利得ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣總督ノ定ム

第十一條ノ三 讓渡利得ニ付テハ其ノ利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

第十二條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十三條 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本令ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條ノ二 船舶ノ讓渡ニ因リ利益ニシテ第九條ノ個人ノ利益ニ屬スルモノ及昭和十四年一月一日以後ニ於テ設定セラレタル讓渡ニ關スル權利ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノノ讓渡ニ付テハ本令中讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十四條 法人ノ臨時利得稅ハ法人ノ利得ヲ左ノ部分ニ區分シ各部分ニ付左ノ稅ヲ適用シテ之ヲ賦課ス

一 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得

二 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得

利得金額ノ百分ノ二十五

利得金額ノ百分ノ四十五

第十條 個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費(收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子ヲ含ム以下同シ)ヲ控除シタル金額ニ依ル  
所得稅、所得稅附加稅及臨時利得稅ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス  
營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ營業利得ハ相續人ノ營業利得ト看做ス

第十條ノ二 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ臺灣總督ノ定ム

第十一條 個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ

第十一條ノ二 讓渡利得ハ船舶又ハ鐵業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因リ收入金額ヨリ取得價額、設備費、改良費及讓渡ニ關スル必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

船舶又ハ鐵業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十一年十二月三十一日以前ニ取得シタルモノニ付テハ同日ニ於ケル價額ヲ以テ前項ノ取得價額トシ同日後ニ爲シタル設備又ハ改良ニ要シタル費用ノミヲ以テ前項ノ設備費又ハ改良費トス

前二項ノ計算ニ關シテハ相續、贈與又ハ遺贈ニ因リ取得シタルモノハ相

三 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超ユル金額ヨリ成ル部分ノ利得  
利得金額ノ百分ノ六十五

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル稅率百分ノ二十五ハ之ヲ百分ノ十五トシ同百分ノ四十五ハ之ヲ百分ノ三十五トシ同百分ノ六十五ハ之ヲ百分ノ五十五トス

第十四條ノ二 前條ノ規定ニ依リ現事業年度ノ資本金額ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合トス但シ其ノ割合ガ年百分ノ十未滿ナルトキ又ハ法人ノ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ終了シタルトキハ其ノ割合ヲ年百分ノ十トシ其ノ割合ガ年百分ノ二十ヲ超ユルトキハ之ヲ年百分ノ二十トス

第五條(第二項及第三項ヲ除ク)乃至第六條及第七條第一項ノ規定ハ前項ノ平均利益及平均資本金額算出ノ基礎タル昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル各事業年度ノ利益及資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ當該事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベカリシ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、臺灣總督ノ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅及臨時利得稅並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅ニシテ臺灣所得稅令ニ依リ其ノ額ヲ第一種所得稅額ヨリ控除シタルモノハ當該事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第十四條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依ル既往事業年度ノ平均利益率ガ年百分ノ十ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中ニ增加資本金額アルトキハ同項ノ規定ニ拘ラズ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト增加資本金額以外ノ部分ニ同項ノ規定ニ依ル既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ヲ乘ジテ

利得金額ノ百分ノ六十五

利得金額ノ百分ノ三十五

利得金額ノ百分ノ五十五

利得金額ノ百分ノ二十

利得金額ノ百分ノ十



算出シタル金額トノ合計額ノ現事業年度ノ資本金額ニ對スル割合ヲ以テ  
既往事業年度ノ平均利益率トス  
前項ノ増加資本金額トハ現事業年度ノ資本金額ガ昭和十一年十二月三十  
一日ニ於ケル資本金額又ハ同日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部  
ノ平均資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其  
ノ超過額ヲ謂フ

昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ同日ニ於ケル拂込株式金  
額、出資金額又ハ基金及積立金額ニ依リ之ヲ計算ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十四條ノ四 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合  
併ニ因リテ設立シタル法人ノ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終  
了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益及平均資本金額並ニ昭和十一年十二  
月三十一日ニ於ケル資本金額ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十四條ノ五 個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

營業利得 利得金額ノ百分ノ三十  
讓渡利得 利得金額ノ百分ノ二十五

第十五條 納稅義務アル法人ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府  
ニ申告スベシ

第十六條 營業利得ニ付納稅義務アル個人ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ每  
年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

讓渡利得ニ付納稅義務アル個人ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ  
政府ニ申告スベシ

第十七條 法人ノ利得金額及營業利得金額ハ前二條ノ申告ニ依リ、申告ナ  
キトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之  
ヲ決定ス

營業利得金額ノ調査ニ關スル事項ハ臺灣所得稅令ノ所得調査委員會ニ之  
ヲ諮問ス

所得調査委員會閉會後營業利得金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタ  
ルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年以後ニ於ケル所得調査委員會  
ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後營業利得ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ利得  
金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於  
テ其ノ利得金額ヲ決定ス

讓渡利得金額ハ前條第二項ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相  
當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條 臺灣所得稅令第三十六條ノ規定ハ利得金額ノ決定ニ付之ヲ準用  
ス

第十九條 前二條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納  
稅義務者ニ通知スベシ

第二十一條 削除

第二十二條 法人ノ利得ニ付テハ事業年度毎ニ臨時利得稅ヲ徵收ス  
營業利得ニ付テハ其ノ臨時利得稅ノ納期ハ臺灣總督之ヲ定ム

讓渡利得ニ付テハ船舶又ハ鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ノ際臨時利  
得稅ヲ徵收ス

第二十三條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得稅ヲ逃脫シタル者ハ其  
ノ逃脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル  
者又ハ稅務官署ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ  
前項ノ場合ニ於テ營業利得ニ付臨時利得稅ヲ逃脫シタル者ノ利得金額ハ  
第十七條第三項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵

收ス

第二十四條 臨時利得稅ノ調査ニ關シ又ハ調査シタル者其ノ調査ニ關シ  
知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金  
ニ處ス

第二十五條 本令ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九  
條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第  
六十六條ノ例ヲ用ヒズ但シ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラ  
ズ

第二十六條 臺灣所得稅令第十三條、第二十三條ノ二、第四十條、第四十  
一條、第四十三條、第四十八條及第五十條乃至第五十二條ノ二ノ規定ハ  
臨時利得稅ニ付之ヲ準用ス

第二十六條ノ二 臨時利得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ  
主たる事務所ヲ有スル法人ノ利得ニ付テハ臨時利得稅ヲ課セズ  
臨時利得稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上  
居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅  
ヲ課セズ

第二十七條 州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ臨時利得稅ノ附加稅ヲ課ス  
ルコトヲ得ズ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ含ム  
事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ昭和十年分ヨリ之ヲ適用ス  
本令ニ依リ臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二  
月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リ、營業利得ニ付テハ支那事變終了  
ノ年ノ翌年分限リ、讓渡利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十  
一日迄ノ讓渡ニ因リ利得ニ對スル分限リトス

第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十年ニ限リ四月二十五日トス

附則 (昭和十二年律令第九號)

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十四條ノ改正規定ハ法人  
ニ付テハ昭和十二年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ  
昭和十二年分ヨリ之ヲ適用ス

附則 (昭和十三年律令第二號)

第一條 本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事  
業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用  
ス但シ第二十一條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ヨリ之ヲ適用  
ス

第三條 臺灣北支事件特別稅令第八條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ法人  
ノ甲種利得ニ對スル稅率ヲ利得金額ノ百分ノ十五トシ算出シタル臨時利  
得稅額ヲ以テ同條ニ規定スル臨時利得稅額トス

第四條 昭和十三年八月十一日迄ニ終了スル法人ノ各事業年度分ノ利得ニ  
對スル臨時利得特別稅額ハ當該利得ニ付第十四條ノ規定ニ依リ算出シタ  
ル稅額ヨリ之ヲ控除ス

第五條 臺灣臨時利得稅令第十六條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十三  
年ニ限リ四月十五日トス

附則 (昭和十五年律令第七號)

第一條 本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第二條 法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ終了スル事  
業年度分ヨリ、營業利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ  
本令ヲ適用ス



第三條 昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度前ノ各事業年度分ノ臨時利得稅ハ第五條第二項ノ改正規定ニ拘ラズ法人ノ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第四條 昭和十四年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ因ル個人ノ利得ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ昭和十五年分又ハ昭和十六年分ニ限リ臨時利得稅ヲ輕減若ハ免除シ又ハ營業利得金額ノ計算ニ關シ特例ヲ設クルコトヲ得

第五條 第十六條ノ改正規定中三月十五日トアルハ昭和十五年ニ限リ四月十五日トス

臺灣臨時利得稅令施行規則

昭和十年四月十三日 臺灣總督府令第二十號

改正 昭和十三年第三六號、一四年第三九號、一五年第五二號、一六年第九四號 臺灣臨時利得稅令施行規則左ノ通相定ム

臺灣臨時利得稅令施行規則

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損益金ハ其ノ事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第二條 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生シタル損益金ニシテ其ノ損益ノ生シタル事業年度以後ノ事業年度ノ利益ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ臺灣臨時利得稅令第

五條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第九條 營業利得金額ヲ計算スル場合ニ於テ營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アルトキハ納稅義務者ノ申告ニ依リ前營業者ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ其ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ト看做ス

第十條 個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ臨時利得稅ヲ課スベキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジテ以テ昭和十一年以前三年ニ屬スル各年ノ利益ヲ算出シテ平均利益ヲ計算ス

第十一條 個人ノ利益ハ臨時利得稅ヲ課スベキ營業ニ付テハ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第十二條 臺灣臨時利得稅令第十條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料、收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第十三條 臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ平均利益ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第十四條 臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第二項ノ平均利益ハ既往各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ現事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス

第十五條 臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第三項ノ平均利益ハ既往各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ資本金額ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

五條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ利益ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第六條 臺灣臨時利得稅令第四條ニ規定スル現事業年度ノ資本金額ニ對シテ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ハ現事業年度ノ月數ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

第七條 前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

第八條 前二項ノ規定ハ臺灣臨時利得稅令第十四條第一項ニ規定スル現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額、現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ノ計算ニ付テハ準用ス

第九條 臺灣ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ樺太又ハ南洋羣島ニ於ケル資產又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ臺灣臨時利得稅令第五條第二項及第七條第二項ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第十條 臺灣ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ總資產價額ニ對スル臺灣ニ於ケル資產價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘ジテ之ヲ計算ス

第十一條 前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルラ不適當トスルトキハ收入金又ハ利益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第十二條 前項ノ場合ニ於テ既往各事業年度ノ期間ガ現事業年度ノ期間ト異ナルトキハ既往各事業年度ノ利益ハ既往各事業年度ノ月數ノ現事業年度ノ月數ニ對スル割合ニ依リ之ヲ換算ス

第十三條 臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ平均利益ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

者又ハ受遺者ガ取得シタルモノト看做シ被相続人、贈與者又ハ遺言者ノ支出シタル設備費、改良費又ハ讓渡ニ關スル必要ノ經費ハ之ヲ相續人、受贈者又ハ受遺者ノ支出シタルモノト看做ス

第十四條 被相続人ノ爲シタル讓渡ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス場合ニ於ケル讓渡利得ノ金額ハ被相続人ノ爲シタル讓渡ニ付計算シタル讓渡利得ノ金額ニ依ル

第十五條 昭和十四年一月一日以後ニ於テ讓渡ノ分割、合併又ハ分合ニ因ラズシテ自己ガ原始的ニ取得シタル讓渡ニ關スル權利ノ讓渡ニ付テハ臺灣臨時利得稅令第十三條ノ二ノ規定ニ依リ讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十六條 臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ平均利益ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第十七條 臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第二項ノ平均利益ハ既往各事業年度ニ在リテハ之ヲ切捨テ現事業年度ニ在リテハ之ヲ一月トス

第十八條 臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第三項ノ平均利益ハ既往各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ資本金額ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス



第三條第二項ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十三條ノ四 臺灣ニ本店又ハ主ナル事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第二項ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第十四條 臺灣臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ヲ計算スル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額以外ノ部分ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ハ臺灣臨時利得稅令第十四條ノ二第一項但書ノ規定ヲ適用シタル割合トス

第十五條 法人ノ利得金額ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ利得算出ノ基礎ヲ明記シ之ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ但シ臺灣所得稅令ニ依リ所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十六條 營業利得ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務官署ニ申告スベシ此ノ場合ニ於テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス

第十七條 個人ノ利得ニ付納稅義務アル者ハ讓渡ノ日ヨリ二十日以内ニ利得金額及利得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第十八條 前項ノ申告書ニハ讓渡シタル船舶又ハ礦業ニ關スル權利者ハ設備ノ明細書ヲ添附スベシ

第十九條 個人ノ現事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シ本令施行前ニ終了シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ノ算定ニ關シテハ臺灣臨時利得稅令第五條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第二十條 昭和十五年律令第七號附則第四條ノ規定ニ依リ昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ臨時利得稅ノ輕減若ハ免除又ハ昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ營業利得金額ノ計算ニ關スル特別ノ左ノ各號ニ定ムル所ニ依リ一 昭和十四年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ新ニ開業シ又ハ相續ニ因ルニ非ズシテ營業ヲ繼續シ當該營業ノ外他ニ營業ヲ有セザル個人ニハ昭和十五年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス但シ昭和十四年ノ所得調査委員會閉會後ニ於テ個人ノ乙種利得ニ付納稅義務アルニ至リタル者ニシテ改正前ノ臺灣臨時利得稅令第十七條第四項ノ規定ニ依リ個人ノ乙種利得金額ノ決定ヲ受ケザリシモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十一條 昭和十四年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十五年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス

第二十二條 昭和十五年一月一日以後昭和十五年分營業利得金額決定前ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニ付テハ昭和十五年分ノ營業利得計算ノ基礎タル利益ハ其ノ年一月一日ヨリ營業ヲ廢止スル迄ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス

第二十三條 昭和十四年分營業利得金額決定後昭和十五年分營業利得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル個人ノ當該營業ノ營業利得金額ニ付テハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ拘ラズ當該營業ノ利得金額ニ對スル昭和十五年分ノ臨時利得稅ニ付當該營業ノ昭和十四年分ノ乙種利得ニ對スル臨時利得稅額ニ相當スル金額ヲ輕減ス

第二十四條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第二十五條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第二十六條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第二十七條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第二十八條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第二十九條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十一條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十二條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十三條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十四條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十五條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十六條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十七條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十八條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第三十九條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十一條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十二條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十三條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十四條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十五條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十六條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十七條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十八條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第四十九條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十一條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十二條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十三條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十四條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十五條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十六條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十七條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十八條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第五十九條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第六十條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第六十一條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第六十二條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第六十三條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第六十四條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第六十五條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第六十六條 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止ス

第十七條 第九條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前營業者ノ營業ノ種類、營業場所在地、氏名又ハ名稱及住所又ハ居所並ニ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ臺灣臨時利得稅令第十六條第一項ノ申告ト同時ニ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第十八條 知事又ハ廳長臺灣臨時利得稅令第十七條、第十八條又ハ第二十三條第二項ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十九條 營業利得ニ對スル臨時利得稅ノ納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ト認ムルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ニ付之ヲ輕減又ハ免除ス

第二十條 營業利得ニ對スル臨時利得稅ノ納稅義務者前條ノ規定ニ依リ營業利得ニ對スル臨時利得稅ノ輕減又ハ免除ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シ所轄稅務官署ニ申請スベシ

第二十一條 臺灣臨時利得稅令第二十六條ノ規定ニ依リ營業利得ニ對スル臨時利得稅ノ輕減又ハ免除ニ關スル申請アリタル場合ニ於テ知事若ハ廳長納稅困難ト認ムル能ハザルトキハ之ヲ却下スベシ

第二十二條 知事又ハ廳長臺灣臨時利得稅令第二十六條ノ規定ニ依リ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ輕減又ハ免除シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十三條 個人ノ利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ臺灣外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得稅ヲ徵收スルコトヲ得

前項 其ノ年十月一日ヨリ二十五日限

後項 翌年三月一日ヨリ二十五日限

特別ノ事情アル場合ニ於テハ知事又ハ廳長ハ臺灣總督ノ許可ヲ得テ前項

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕

〔輯一三五〕



シタル個人ニハ昭和十六年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス  
但シ其ノ營業人ニ繼續セシメタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

### 樺太臨時利得稅令

昭和十年四月十三日  
勅令第八十四號

改正 昭和二年第七一號、第二八四號、一三年第二一八號、一四年第一七三號、一五〇  
第一八二號、一六年第三〇〇號

樺太臨時利得稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、拓務大臣副署)

#### 樺太臨時利得稅令

- 第一條 樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者樺太ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 第三條 臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付テ之ヲ賦課ス
  - 一 法人ノ利得
  - 二 樺太廳長官ノ定ムル營業ニ因ル個人ノ利得(營業利得ト稱ス以下同ジ)
  - 三 船舶(製造中ノ船舶ヲ合ム)又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設

備ノ讓渡ニ因ル個人ノ利得(讓渡利得ト稱ス以下同ジ)

第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得トス

第五條 法人ノ現事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

法人ガ現事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及臨時利得稅並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅ニシテ樺太所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ第一種所得稅額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ臺灣又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル又ハ納付スベキ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ樺太廳長官ノ指定スルモノ、内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル配當利子所得ニ對スル分額所得稅及第二種所得稅並ニ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル配當稅ニ付亦同ジ

法人ノ現事業年度開始ノ日以前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ樺太廳長官ノ定ムルモノハ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ利益ハ樺太ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前三項ノ規定ニ準ジテ之ヲ計算ス

第五條ノ二 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

[輯一〇九]

[輯一〇九]

第六條 法人ノ現事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 本令ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ臺灣又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ納付スベキ第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ樺太廳長官ノ指定スルモノニ付亦同ジ

第八條 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ利得ニ付臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第九條 個人ノ利益ガ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ營業利得トス

第九條ノ二 前條ノ規定ニ依リ營業利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十一年以前三年ノ平均利益ガ七千圓又ハ現年ノ利益ノ三分ノ一ニ相當スル金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ニ達セザルトキハ其ノ多額ナル一方ノ金額ヲ以テ平均利益トス

第十條 個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費(收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子ヲ含ム以下同ジ)ヲ控除シタル金額ニ依ル

所得稅、所得稅附加稅及臨時利得稅ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ繼續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス

人ノ營業利得ハ相續人ノ營業利得ト看做ス

第十條ノ二 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ

第十一條ノ二 讓渡利得ハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル收入金額ヨリ取得價額、設備費、改良費及讓渡ニ關スル必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十一年十二月三十一日以前ニ取得シタルモノニ付テハ同日ニ於ケル價額ヲ以テ前項ノ取得價額トシ同日後ニ爲シタル設備又ハ改良ニ要シタル費用ノミヲ以テ前項ノ設備費又ハ改良費トス

前二項ノ計算ニ關シテハ相續、贈與又ハ遺贈ニ因リ取得シタルモノハ相續人、受贈者又ハ受遺者ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シ讓渡後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ爲シタル讓渡ハ之ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス

前三項ニ定ムルモノノ外讓渡利得ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依ル

第十一條ノ三 讓渡利得ニ付テハ其ノ利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス

第十二條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ樺太所得稅令其ノ他ノ法令ニ依



リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十三條 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本令ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條ノ二 船舶ノ讓渡ニ因リ利益ニシテ第九條ノ個人ノ利益ニ屬スルモノ及昭和十四年一月一日以後ニ於テ設定セラレタル鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル權利ニシテ樺太廳長官ノ定ムルモノノ讓渡ニ付テハ本令中讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

第十四條 法人ノ臨時利得稅ハ法人ノ利得ヲ左ノ部分ニ區分シ各部分ニ付左ノ稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス

一 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得

利得金額ノ百分ノ二十五

二 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得

利得金額ノ百分ノ四十五

三 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超ユル金額ヨリ成ル部分ノ利得

利得金額ノ百分ノ六十五

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限り前項ニ規定スル稅率百分ノ二十五ハ之ヲ百分ノ十五トシ同百分ノ四十五ハ之ヲ百分ノ三十五トシ同百分ノ六十五ハ之ヲ百分ノ五十五トス

シ同百分ノ六十五ハ之ヲ百分ノ五十五トス

第十四條ノ二 前條ノ規定ニ依リ現事業年度ノ資本金額ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合トス但シ其ノ割合が年百分ノ十未満ナルトキ又ハ法人ノ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ終了シタルトキハ其ノ割合ヲ年百分ノ十トシ其ノ割合が年百分ノ二十ヲ超ユルトキハ之ヲ年百分ノ二十トス

第五條(第二項及第三項ヲ除ク)乃至第六條及第七條第一項ノ規定ハ前項ノ平均利益及平均資本金額算出ノ基礎タル昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル各事業年度ノ利益及資本金額ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス此ノ場合ニ於テ當該事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベカリシ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、樺太廳長官ノ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅及臨時利得稅並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅ニシテ樺太所得稅令ニ依リ其ノ額ヲ第一種所得稅額ヨリ控除シタルモノハ當該事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第十四條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ガ年百分ノ十ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中ニ增加資本金額アルトキハ同項ノ規定ニ拘ラズ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト增加資本金額以外ノ部分ニ同項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ現事業年度ノ資本金額ニ對スル割合ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益率トス

一日ニ於ケル資本金額又ハ同日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過額ヲ謂フ

昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ同日ニ於ケル拂込株式金額、出資金額及積立金額ニ依リ之ヲ計算ス

第六條第二項ノ規定ハ前項ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス

第十四條ノ四 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ昭和十一年十二月三十一日以前三年内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益及平均資本金額並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十四條ノ五 個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

營業利得 利得金額ノ百分ノ三十

讓渡利得 利得金額ノ百分ノ二十五

第十五條 納稅義務アル法人ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十六條 營業利得ニ付納稅義務アル個人ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ每年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

讓渡利得ニ付納稅義務アル個人ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第十七條 法人ノ利得金額ハ第十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ營業利得金額ハ樺太所得稅令ノ所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

ルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年以後ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後營業利得ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ利得金額ノ増加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス

讓渡利得金額ハ前條第二項ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十八條 樺太廳支廳長ハ毎年營業利得ニ付納稅義務アリト認ムル者ノ利得金額ヲ調査シ其ノ調査書ヲ所得調査委員會ニ送付スベシ

前項ノ規定ハ前條第二項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 樺太所得稅令第三十六條ノ規定ハ利得金額ノ決定ニ付テ之ヲ準用ス

第二十條 第十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十一條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル利得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第二十二條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

樺太所得稅令第四十二條ノ三第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十三條 及第二十四條 削除

第二十五條 法人ノ利得ニ付テハ事業年度毎ニ臨時利得稅ヲ徵收ス

營業利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ四分ノ一ノ四期ニ於テ之ヲ徵收ス







前項ノ場合ニ於テ資産價格ノ割合ニ依リテ不適當トスルトキハ收入金又ハ利益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リテ之ヲ計算ス

第七條 棒太臨時利得稅令第三條第二號ノ營業ハ棒太營業收益稅規則第二條ニ掲グル營業トス

第十條 營業利得金額ヲ計算スル場合ニ於テ營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アルトキハ納稅義務者ノ申告ニ依リ前營業者ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ヲ其ノ昭和十一年以前三年ノ平均利益ト看做ス

第十一條 個人ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジテ其ノ利益ヲ計算ス

第十二條 個人ノ利益ハ臨時利得稅ヲ課スベキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第十三條 棒太臨時利得稅令第十條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料、收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第十四條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ平均資本金額ハ既往各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ資本金額ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第十五條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

第十六條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

第十七條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

第十八條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

第十九條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

第二十條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

第二十一條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

第二十二條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

第二十三條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ三第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

二月三十一日後ニ於テ取得シタルモノノ取得價額ハ製造又ハ創設ニ因リ取得シタルモノニ付テハ其ノ製造費又ハ創設費(鐵業又ハ砂鐵業ニ關スル權利ニ在リテハ採掘ノ費用ヲ含ム)ニ依リ他人ヨリ讓渡ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ對價(取得ニ關スル必要ノ經費ヲ含ム)ニ依ル

二 相續、贈與又ハ遺贈アリタル船舶又ハ鐵業若ハ砂鐵業ニ關スル權利若ハ設備ハ之ヲ被相續人、贈與者又ハ遺言者ガ取得シタル時ニ於テ相續人、受贈者又ハ受遺者ガ取得シタルモノト看做シ被相續人、贈與者又ハ遺言者ノ支出シタル設備費、改良費又ハ讓渡ニ關スル必要ノ經費ハ之ヲ相續人、受贈者又ハ受遺者ノ支出シタルモノト看做ス

三 被相續人ノ爲シタル讓渡ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス場合ニ於ケル讓渡利得ノ金額ハ被相續人ノ爲シタル讓渡ニ付計算シタル讓渡利得ノ金額ニ依ル

第十三條ノ三 昭和十四年一月一日以後ニ於テ左ニ掲グル原因ニ因ラズシテ自己ガ原始的ニ取得シタル鐵業又ハ砂鐵業ニ關スル權利ノ讓渡ニ付テハ棒太臨時利得稅令第十三條ノ二ノ規定ニ依リ讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

一 鐵區若ハ砂鐵區ノ合併、分割又ハ分合  
二 試掘權ノ設定アル鐵區ニ付テハ採掘權ノ取得  
三 試掘權ノ存續期間滿了ニ因ル更新

第十四條 棒太臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ平均利益率ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年內ニ終了シタル各事業年度(既往各事業年度ト稱ス以下同シ)ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ既往各事業年度ノ期間ガ現事業年度ノ期間ト異ルトキハ既往各事業年度ノ利益ハ既往各事業年度ノ月數ノ現事業年度ノ月數ニ

轉棒太臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乘ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益率除シテ之ヲ計算ス

第十七條 營業利得ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄棒太臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ規定スル平均利益率ニ依リ算出シ之ヲ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十七條ノ二 讓渡利得ニ付納稅義務アル者ハ讓渡ノ日ヨリ二十日內ニ利得金額及利得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄棒太臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ規定スル平均利益率ニ依リ算出シ之ヲ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

第十八條 第十條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前營業者ノ營業ノ種類、營業場所在地、氏名又ハ名稱及住所又ハ居所並ニ昭和十一年以前三年ノ平均利益率ヲ棒太臨時利得稅令第十六條第一項ノ申告ト同時ニ所轄棒太臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ規定スル平均利益率ニ通知スベシ

第十九條 棒太臨時利得稅令第十七條又ハ第十九條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十條 棒太臨時利得稅令第二十一條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ利得金額ノ決定ヲ爲シタル棒太臨時利得稅令第十四條ノ二第一項ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十一條 棒太臨時利得稅令第二十二條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十二條 營業利得ニ對スル臨時利得稅ノ納稅義務者ガ災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ト認ムルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ輕減又ハ免除ス

棒太臨時利得稅令第三十四條ノ二乃至第三十六條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ臨時利得稅ノ輕減又ハ免除ニ付テハ適用ス



第二十三條 削除

第二十四條 削除

第二十五條 樺太利得稅令施行規則第二十九條、第三十一條、第三十三條ノ四第二項、第三十三條ノ六、第四十一條乃至第四十六條及第四十九條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付テハ準用ス

第二十六條 内地、朝鮮、臺灣若ハ關東州ニ住所ヲ有スル個人又ハ樺太ニ住所ヲ有セズシテ内地、朝鮮、臺灣若ハ關東州ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ左ニ掲ケル場合ヲ除クノ外臨時利得稅ヲ課セズ

一 樺太ニ住所ヲ有スル者利得金額決定後内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ住所ヲ移轉シタルトキ  
二 内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ住所ヲ有スル者内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於ケル法令ニ依ル利得金額決定前樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ  
三 樺太、内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生ジタルトキ

第二十七條 詐偽其ノ他不正ノ行為ニ依リ臨時利得稅ヲ逃脫シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ樺太廳支廳長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ  
前項ノ場合ニ於テ營業利得ニ付臨時利得稅ヲ逃脫シタル者ノ利得金額ハ所得調査委員會ニ諮問セズ所轄樺太廳支廳長之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

樺太廳支廳長前項ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ  
第二十八條 臨時利得稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則 (昭和十五年樺太廳令第三十五號)  
第一條 本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第二條 法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

ヨリ、個人ノ甲種利得又ハ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年分ヨリ、讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ノ讓渡ニ因ル利得ニ對スル分ヨリ本令ヲ適用ス  
昭和十四年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ノ申告ハ既ニ之ヲ爲シタルト否ト問ハズ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日以内ニ、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日以内ニ之ヲ爲スベシ  
昭和十四年一月一日以後同年三月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ第十七條ノ二ノ規定ニ拘ラズ利得金額ノ申告期限ヲ昭和十四年四月二十日トス

附則 (昭和十五年樺太廳令第三十五號)

第一條 本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

第三條 法人ノ現事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シ本令施行前ニ終了シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ノ算定ニ關シテハ樺太臨時利得稅令第五條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第四條 昭和十五年勅令第八十一號附則第四條ノ規定ニ依ル昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ臨時利得稅ノ輕減若ハ免除又ハ昭和十五年分若ハ昭和十六年分ノ營業利得金額ノ計算ニ關スル特例ハ左ノ各號ニ定ムル所ニ依ル  
一 昭和十四年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ新ニ開業又ハ相續

第二十九條 樺太所得稅令施行規則第五十一條第一項、第五十二條及第五十四條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付テハ準用ス

第三十條 本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第十九條、第二十二條、第二十七條第二項及第三項ノ規定ヲ除クノ外租稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ法人ニ付テハ昭和十年一月一日ヲ合ム事業年度分ヨリ、個人ニ付テハ昭和十年分ヨリ之ヲ適用ス  
本令施行前決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ニ付テハ第十六條ノ申告ハ本令施行後十四日內又ハ二十日內ニ之ヲ爲スベシ  
第十八條ノ規定中三月十六日トアルハ昭和十年ニ限リ四月二十六日トス

附則 (昭和十三年樺太廳令第二十一號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年一月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ、個人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第十八條ノ二ノ規定ハ昭和十二年分臨時利得稅ヨリ之ヲ適用ス  
昭和十三年一月一日以後本令施行前ニ於テ決算確定シ若ハ合併ヲ爲シ又ハ清算ニ著手シタル法人ノ當該事業年度分ノ利得金額ノ申告ハ既ニ之ヲ爲シタルト否ト問ハズ本令施行ノ日ヨリ決算確定又ハ合併ノ場合ニ在リテハ十四日內ニ、清算著手ノ場合ニ在リテハ二十日內ニ之ヲ爲スベシ

附則 (昭和十四年樺太廳令第十八號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ臨時利得稅ニ付テハ昭和十四年一月一日以後ニ終了スル事業年度分

ニ因ルニ非ズシテ營業ヲ繼續シ當該營業ノ外他ニ營業ヲ有セザル個人ニハ昭和十五年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス但シ昭和十四年ノ所得調査委員會閉會後ニ於テ個人ノ乙種利得ニ付納稅義務アルニ至リタル者ニシテ改正前ノ樺太臨時利得稅令第十七條第三項ノ規定ニ依リ個人ノ乙種利得金額ノ決定ヲ受ケザリシモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二 昭和十四年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十五年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス

三 昭和十五年一月一日以後昭和十五年分營業利得金額決定前ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニ付テハ昭和十五年分ノ營業利得計算ノ基礎タル利益ハ其ノ年一月一日ヨリ營業ヲ廢止スル迄ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依リ之ヲ計算ス

四 昭和十四年分營業利得金額決定後昭和十五年分營業利得金額決定前ニ於テ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル個人ノ當該營業ノ營業利得金額ニ付テハ第二號又ハ第三號ノ規定ニ依ラズ當該營業ノ營業利得金額ニ對スル昭和十五年分ノ臨時利得稅ニ付當該營業ノ昭和十四年分ノ乙種利得ニ對スル臨時利得稅ニ相當スル金額ヲ輕減ス

五 昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十六年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス但シ其ノ營業ヲ法人ニ繼續セシメタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

昭和十年四月十九日  
樺太廳令第十七號



樺太臨時利得稅令施行規則第二十五條ニ依リ稅務官吏ノ携帶スベキ檢査章  
様式左ノ通定ム

用紙厚質白紙 横一七、五釐

第 號
檢 査 章
支 廳 印
樺太廳「何」支廳
官 氏 名

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

### 關東州臨時利得稅令

昭和十六年三月二十九日  
勅令第二百九十七號

(總理大  
臣副署)

關東州臨時利得稅令

- 關東州臨時利得稅令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 第一條 關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
  - 第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者關東州ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキハ其ノ利得ニ付テノミ臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス
  - 第三條 臨時利得稅ハ左ノ利得ニ付之ヲ賦課ス
    - 一 法人ノ利得
    - 二 滿洲國駐劄特命全權大使ノ定ムル營業ニ因ル個人ノ利得(營業利得ト稱ス以下同シ)
    - 三 船舶(製造中ノ船舶ヲ含ム)又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル個人ノ利得(讓渡利得ト稱ス以下同シ)
  - 第四條 法人ノ現事業年度ノ利益ガ現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ以テ法人ノ利得トス
  - 第五條 法人ノ現事業年度ノ利益ハ現事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ相互保險會社及會員組織ノ取引所ニ在リテハ現事業年度ノ剩餘金ニ依ル
- 法人ガ現事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ第一種所得稅及臨時利得稅並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅ニシテ關東州所

〔輯一三二〕

得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

法人ノ現事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ大使ノ定ムルモノハ現事業年度ノ利益ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前二項ノ規定ハ相互保險會社又ハ會員組織ノ取引所ノ剩餘金ノ計算ニ付之ヲ準用ス

關東州ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ利益ハ關東州ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前四項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス

第六條 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第七條 法人ノ現事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ贈金及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

關東州ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ大使ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本令ニ於テ積立金額トハ積立金共ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ各事業年度ノ利益中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

第一種所得稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第九條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ利得ニ付臨時利得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十條 個人ノ利益ガ昭和十三年以前二年ノ平均利益ヲ超過スル場合ニ於テ其ノ超過額ヲ營業利得トス

〔輯一三二〕

第十一條 前條ノ規定ニ依リ營業利得ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十三年以前二年ノ平均利益ガ七千圓又ハ現年ノ利益ノ三分ノ一ニ相當スル金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ニ達セザルトキハ其ノ多額ナル一方ノ金額ヲ以テ平均利益トス

第十二條 個人ノ利益ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費(收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子ヲ含ム以下同シ)ヲ控除シタル金額ニ依ル

所得稅及臨時利得稅ハ前項ノ必要ノ經費ニ之ヲ算入セズ

相續シタル營業ニ付テハ相續人ガ引續キ之ヲ爲シタルモノト看做シテ其ノ利益ヲ計算ス

營業ヲ讓渡シ又ハ廢止シタル後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ營業利得ハ相續人ノ營業利得ト看做ス

第十三條 營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アル個人ニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ前營業者ノ平均利益ヲ其ノ平均利益ト看做ス

個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於ケル平均利益ノ計算ニ付テハ大使之ヲ定ム

第十四條 個人ノ利益ガ一萬圓未滿ナルトキハ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ課セズ

第十五條 讓渡利得ハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ニ因ル收入金額ヨリ取得價額、設備費、改良費及讓渡ニ關スル必要ノ經費ヲ控除シタル金額ニ依ル

船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十二年六月三十日以前ニ取得シタルモノニ付テハ同日ニ於ケル價額ヲ以テ前項ノ取得價額トシ同日後ニ爲シタル設備又ハ改良ニ要シタル費用ノミヲ以テ前項ノ設備費又ハ改良費トス



前二項ノ計算ニ關シテハ相續、贈與又ハ遺贈ニ因リ取得シタルモノハ相續人、受贈者又ハ受遺者ガ引續キ之ヲ有シタルモノト看做シ讓渡後相續ノ開始アリタル場合ニ於テハ被相續人ノ爲シタル讓渡ハ之ヲ相續人ノ爲シタル讓渡ト看做ス  
前三項ニ定ムルモノノ外讓渡利得ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ大使之ヲ定ム

第十六條 讓渡利得ニ付テハ其ノ利得ノ金額ヨリ二千圓ヲ控除ス  
第十七條 營利ノ目的トセザル法人ニシテ關東州所得稅令其ノ他ノ命令ニ依リ所得稅ヲ課セラザルモノニハ臨時利得稅ヲ課セズ

第十八條 個人ノ自己ノ收穫シタル農産物、林産物、畜産物若ハ水産物ノ販賣又ハ之ヲ原料トスル製造ノ利益ニ付テハ本令ヲ適用セズ但シ特ニ營業場ヲ設ケテ爲ス販賣又ハ製造ノ利益ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 船舶ノ讓渡ニ因リ利益ニシテ第十條ノ個人ノ利益ニ屬スルモノ及昭和十六年一月一日以後ニ於テ設定セラレタル債權又ハ砂礦業ニ關スル權利ニシテ大使ノ定ムルモノノ讓渡ニ付テハ本令中讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

第二十條 法人ノ臨時利得稅ハ法人ノ利得ヲ左ノ部分ニ區分シ各部分ニ付左ノ稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス

一 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得  
利得金額ノ百分ノ十六  
二 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ既往事業年度ノ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超エ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得  
利得金額ノ百分ノ十六

前項ノ增加資本金額トハ現事業年度ノ資本金額ハ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額又ハ同日以前三年以内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均資本金額ノ何レカ多額ナル一方ノ金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過額ヲ謂フ  
昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ同日ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ積立金額ニ依リ之ヲ計算ス  
第七條第二項ノ規定ハ前項ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十三條 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ昭和十一年十二月三十一日以前三年以内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益及平均資本金額並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ大使ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第二十四條 個人ノ臨時利得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス  
營業利得 利得金額ノ百分ノ二十  
讓渡利得 利得金額ノ百分ノ十六

第二十五條 納稅義務アル法人ハ大使ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ  
第二十六條 營業利得ニ付納稅義務アル個人ハ大使ノ定ムル所ニ依リ毎年三月十五日迄ニ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ  
讓渡利得ニ付納稅義務アル個人ハ大使ノ定ムル所ニ依リ利得金額ヲ政府ニ申告スベシ

第二十七條 法人ノ利得金額ハ第二十五條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ營業利得ノ金額ハ關東州所得稅令ノ所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十二輯 財務 第二章 租稅 第三款ノ二 臨時利得稅

合ヲ乘ジテ算出シタル金額以下ノ金額ヨリ成ル部分ノ利得  
利得金額ノ百分ノ三十  
三 利益金額中現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ヲ超ユル金額ヨリ成ル部分ノ利得  
利得金額ノ百分ノ四十五

現事業年度ノ資本金額十萬圓以下ナル法人ニ限リ前項ニ規定スル稅率百分ノ十六ハ之ヲ百分ノ六トシ同百分ノ三十八ハ之ヲ百分ノ二十トシ同百分ノ四十五ハ之ヲ百分ノ三十五トス

第二十一條 前條ノ規定ニ依リ現事業年度ノ資本金額ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年以内ニ終了シタル事業年度ノ全部ノ平均利益ノ平均資本金額ニ對スル割合トス但シ其ノ割合年百分ノ十未滿ナルトキ又ハ法人ノ第一次事業年度ガ昭和十二年一月一日以後ニ終了シタルトキハ其ノ割合ヲ年百分ノ十トシ其ノ割合年百分ノ二十ヲ超ユルトキハ之ヲ年百分ノ二十トス

第五條(第三項ヲ除ク)乃至第七條及第八條第一項ノ規定ハ前項ノ平均利益及平均資本金額算出ノ基礎タル昭和十一年十二月三十一日以前三年以内ニ終了シタル各事業年度ノ利益及資本金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ガ年百分ノ十ノ割合ヲ超ユル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中ニ增加資本金額アルトキハ同項ノ規定ニ拘ラズ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ト增加資本金額以外ノ部分ニ同項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ現事業年度ノ資本金額ニ對スル割合ヲ以テ既往事業年度ノ平均利益率トス

所得調査委員會閉會後營業利得ノ金額ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年以後ニ於ケル所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定スルコトヲ得  
所得調査委員會閉會後營業利得ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又ハ利得金額ノ增加アルコトヲ申出テタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ利得金額ヲ決定ス

讓渡利得金額ハ前條第二項ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス  
第二十八條 關東州所得稅令第三十八條ノ規定ハ營業利得金額ノ決定ニ付之ヲ準用ス

第二十九條 第二十七條又ハ前條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ  
第三十條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル利得金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ關東州所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス  
第三十二條 關東州所得稅令第四十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第三十三條 法人ノ利得ニ付テハ事業年度毎ニ臨時利得稅ヲ徵收ス  
營業利得ニ付テハ臨時利得稅ノ年額ヲ三分シ左ノ三期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ關東州外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得稅ヲ徵收スルコトヲ得



第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第三期 翌年二月一日ヨリ末日限

讓渡利得ニ付テハ船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ノ讓渡ノ際臨時利得稅ヲ徵收ス

第三十三條 稅務署長若ハ民政署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ營業ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第三十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ臨時利得稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長若ハ民政署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ  
前項ノ場合ニ於テ營業利得ニ付臨時利得稅ヲ逃脫シタル者ノ利得金額ハ第二十七條第二項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第三十五條 第三十三條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十六條 臨時利得稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十七條 大正十一年勅令第二百號第一條ノ規定ハ第三十五條又ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第三十八條 關東州所得稅令第三十一條第四項、第四十二條、第四十三條

第二項、第四十八條、第五十三條及第五十五條乃至第五十七條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付テハ準用ス

第三十九條 臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主ナル事務所ヲ有スル法人ノ利得ニ付テハ臨時利得稅ヲ課セズ

第九條ノ規定ハ臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主ナル事務所ヲ有スル法人カ臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ本店又ハ主ナル事務所ヲ有スル法人ト合併シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ關東州ニ本店又ハ主ナル事務所ヲ有スル場合ニ付テハ準用ス

臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ大使ノ定ムル所ニ依リ臨時利得稅ヲ課セズ

第四十條 關東州所得稅令第二十三條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除セラレル所得ニ付テハ本令ヲ適用セズ

第四十一條 本令ニ於テハ法人ニ非ザル社團モ亦之ヲ法人ト看做ス  
前項ノ社團其ノ財産ヲ以テ臨時利得稅ヲ完納スルコト能ハザルトキハ其ノ稅金ニ付社員連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第四十二條 市、會其ノ他ノ公共團體ハ臨時利得稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
法人ニ非ザル社團ノ利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十六年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス

●關東州臨時利得稅令施行規則

昭和十六年三月二十九日  
關東局令第二十五號

關東州臨時利得稅令施行規則左ノ通改正ス

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル利益金ハ其ノ事業年度ノ利益ノ計算上利益金ニ之ヲ算入セズ  
法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損失金ハ關東州臨時利得稅令（以下稅令ト稱ス）第五條第三項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ利益ノ計算上損失金ニ之ヲ算入セズ

第二條 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損失金ニシテ其ノ損失ノ生ジタル事業年度以後ノ事業年度ノ利益ノ計算上總利益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ稅令第五條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ利益ノ計算上損失金ニ之ヲ算入ス

第三條 稅令第四條ニ規定スル現事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ハ現事業年度ノ月數ヲ現事業年度ノ資本金額ニ乘ジテ算出シタル金額ハ現事業年度ノ月數ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ稅令第二十條第一項ニ規定スル現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額、現事業年度ノ資本金額ニ平均利益率ヲ乘ジテ算出シタル金額又ハ現事業年度ノ資本金額ニ年百分ノ三十ノ割合ヲ乘ジテ算出シタル金額ノ計算ニ付テハ準用ス

營業利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十六年分ヨリ本令ヲ適用ス  
讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十六年一月一日以後ノ讓渡ニ因ル利得ニ對シ本令ヲ適用ス  
本令ニ依ル臨時利得稅ノ賦課ハ法人ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リ、營業利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年分限リ、讓渡利得ニ付テハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ノ讓渡ニ因ル利得ニ對スル分限リトス  
第二十六條ノ改正規定中三月十五日トアルハ昭和十六年分ニ限リ四月二十五日トス  
昭和十五年一月一日ヨリ昭和十六年一月一日ニ至ル期間引續キ爲シタルニ非ザル營業ニ因ル個人ノ利得ニ付テハ政府ハ大使ノ定ムル所ニ依リ昭和十六年分ニ限リ臨時利得稅ヲ免除スルコトヲ得



第四條 關東州ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ資本金額ハ總資產價額ニ對スル關東州ニ於ケル資產價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乗ジテ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルテ不適當トスルトキハ收入金又ハ利益ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リテ之ヲ計算ス

第五條 關東州ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人稅令第二十五條ノ申告ヲ爲サザルトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ法人ノ總資產價額ニ對スル關東州ニ於ケル資產價額ノ割合又ハ法人ノ總收入金額ニ對スル關東州ニ於ケル資產又ハ營業ヨリ生ズル收入金額ノ割合ヲ總利益金額ニ乗ジタル金額ヲ以テ其ノ利益ト爲スコトヲ得

第六條 稅令第三條第二號ノ營業ハ左ニ掲グル營業トス

- 一 物品販賣業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ販賣ヲ含ム)
- 二 銀行業
- 三 無盡業
- 四 金錢貸付業
- 五 物品貸付業(動植物其ノ他普通ニ物品ト稱セザルモノノ貸付ヲ含ム)
- 六 製造業(瓦斯電氣ノ供給、物品ノ加工修理ヲ含ム)
- 七 運送業(運送取扱ヲ含ム)
- 八 倉庫業
- 九 請負業
- 十 印刷業
- 十一 出版業
- 十二 寫眞業

- 十三 席貨業
- 十四 料理店業
- 十五 貸座敷業
- 十六 旅人宿業(下宿業ヲ含ム)
- 十七 飲食店業
- 十八 周旋業
- 十九 問屋業
- 二十 代理業
- 二十一 兩替業
- 二十二 仲立業
- 二十三 洗濯業
- 二十四 湯屋業
- 二十五 理髮業(美容及髮結業ヲ含ム)
- 二十六 遊技場業
- 二十七 興行場業(寄席ヲ含ム)
- 二十八 藝妓置屋業
- 二十九 鑛業
- 三十 砂鑛業

第七條 營業利得金額ヲ計算スル場合ニ於テ營業ヲ繼續シ又ハ營業繼續ト認ムベキ事實アルトキハ納稅義務者ノ申告ニ依リ前營業者ノ昭和十三年以前二年ノ平均利益ヲ其ノ昭和十三年以前二年ノ平均利益ト看做ス前項ノ場合ニ於テ前營業者ガ法人ナルトキハ法人ノ營業ニ付稅令第十二條第一項ノ規定ヲ準用シテ其ノ利益ヲ計算ス

第八條 個人ノ營業ノ期間ガ一年未滿ナル場合ニ於テハ臨時利得稅ヲ課スベキ年ノ營業ノ期間ノ月數ニ應ジ月割ヲ以テ昭和十三年以前二年ニ屬スル各年ノ利益ヲ算出シテ平均利益ヲ計算ス

第九條 個人ノ利益ハ臨時利得稅ヲ課スベキ營業ニ付其ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第十條 稅令第十二條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除スベキ經費ハ仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ營業ニ係ル公課、雇人ノ給料、收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第十一條 讓渡利得ノ金額ハ稅令第十五條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ニ依リテ之ヲ計算ス

- 一 船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ニシテ昭和十二年六月三十日以後ニ於テ取得シタルモノノ取得價格ハ製造又ハ創設ニ因リ取得シタルモノニ付テハ其ノ製造費又ハ創設費(鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル權利ニ在リテハ探鑛ノ費用ヲ含ム)ニ依リ他人ヨリ讓渡ヲ受ケタルモノニ付テハ其ノ對價(取得ニ關スル必要ノ經費ヲ含ム)ニ依ル
- 二 相續、贈與又ハ遺贈アリタル船舶又ハ鑛業若ハ砂鑛業ニ關スル權利若ハ設備ハ之ヲ被相續人、贈與者又ハ遺言者ガ取得シタルトキニ於テ相續人、受贈者又ハ受遺者ガ取得シタルモノト看做シ被相續人、贈與者又ハ遺言者ノ支出シタル設備費、改良費又ハ讓渡ニ關スル必要ノ經費ハ之ヲ相續人、受贈者又ハ受遺者ノ支出シタルモノト看做ス

第十二條 昭和十六年一月一日以後ニ於テ左ニ掲グル原因ニ因ラズシテ自己ノ原始的ニ取得シタル鑛業又ハ砂鑛業ニ關スル權利ノ讓渡ニ付テハ稅令第十九條ノ規定ニ依リ讓渡利得ニ關スル規定ヲ適用セズ

- 一 鑛區又ハ砂鑛區ノ合併、分割又ハ分合
- 二 試掘權ノ設定アル鑛區ニ付テノ探掘權ノ取得
- 三 試掘權ノ存續期間滿了ニ因ル更新

第十三條 稅令第二十一條第一項ノ平均利益ハ昭和十一年十二月三十一日以前三年以内ニ終了シタル各事業年度(以下既往各事業年度ト稱ス)ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ利益ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第十四條 稅令第二十一條第一項ノ平均資本金額ハ既往各事業年度ノ總數ヲ以テ其ノ各事業年度ノ資本金額ノ合計額ヲ除シテ之ヲ計算ス

第十五條 稅令第二十一條第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乗ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益ヲ除シテ之ヲ計算ス

第十六條 稅令第二十二條第一項ノ規定スル平均利益率ハ現事業年度ノ月數ヲ平均資本金額ニ乗ジテ之ヲ十二分シタル金額ヲ以テ平均利益ヲ除シテ之ヲ計算ス



第十六條

稅令第二十二條第一項ノ規定ニ依リ既往事業年度ノ平均利益率ヲ計算スル場合ニ於テ現事業年度ノ資本金額中增加資本金額以外ノ部分ニ乘ズベキ既往事業年度ノ平均利益率ニ相當スル割合ハ稅令第二十一條第一項但書ノ規定ヲ適用シタル割合トス

第十七條

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ既往各事業年度ノ全部ノ平均資本金額及平均利益並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ既往各事業年度ノ資本金額及利益並ニ昭和十一年十二月三十一日ニ於ケル資本金額ヲ合算シテ之ヲ計算ス

第十八條

稅令第四十一條ノ法人ニ付テハ其ノ一損益決算期間ヲ以テ一事業年度トス但シ一年ヨリ長キ期間ヲ以テ一損益決算期間ト爲スモノニ在リテハ一年以内ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第十九條

法人ノ利得金額ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ利得算出ノ基礎ヲ明記シ之ヲ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告スベシ但シ關東州所得稅令ニ依リ所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨グズ

第二十條

營業利得ニ付納稅義務アル者ハ營業ノ種類、營業場所在地、利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告スベシ此ノ場合ニ於テハ前條但書ノ規定ヲ準用ス

第二十一條

讓渡利得ニ付納稅義務アル者ハ讓渡ノ日ヨリ二十日以内ニ利得金額及利得算出ノ基礎ヲ明記シ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告スベシ前項ノ申告書ニハ讓渡シタル船舶又ハ鐵業若ハ砂鐵業ニ關スル權利若ハ

設備ノ明細書ヲ添附スベシ

第二十二條

第七條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ前營業者ノ營業ノ種類、營業場所在地、氏名又ハ名稱及住所又ハ居所並ニ昭和十三年以前二年ノ業平均利益ヲ稅令第二十六條第一項ノ申告ト同時ニ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告スベシ

第二十三條

稅務署長又ハ民政署長稅令第二十七條、第二十八條又ハ第三十四條第二項ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十四條

稅令第三十條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ利得金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長又ハ民政署長ヲ經由シ關東州廳長官ニ申出ヅベシ

第二十五條

關東州廳長官稅令第三十一條ノ規定ニ依リ利得金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第二十六條

前條ノ規定ニ依リ關東州廳長官ノ通知シタル利得金額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ其ノ事由ヲ具シ滿洲國駐劄特命全權大使ニ再審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第二十七條

前項ノ規定ニ依リ再審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ證據書類ヲ添ヘ關東州廳長官ヲ經由シ大使ニ申請スベシ

第二十八條

營業利得ニ對スル臨時利得稅ノ納稅義務者災害、失業其ノ他發豫セズ

タルトキ

附則

本令ハ昭和十六年勅令第二百九十七號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ本令施行前ニ爲シタル行為ニ關スル罰則ノ適用ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

營業利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十六年分ヨリ本令ヲ適用ス

讓渡利得ニ對スル臨時利得稅ニ付テハ昭和十六年一月一日以後ノ讓渡ニ因ル利得ニ對シ本令ヲ適用ス

昭和十五年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部ヲ廢止シタル個人ニハ昭和十六年分ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ免除ス但シ其ノ營業ヲ法人ニ繼續セシメタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ト認ムルトキハ納稅義務者ノ申請ニ依リ其ノ營業利得ニ對スル臨時利得稅ヲ輕減又ハ免除ス

關東州所得稅令施行規則第五十七條乃至第五十八條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル臨時利得稅ノ輕減又ハ免除ニ付テハ準用ス

第二十九條

稅令第四十一條ノ法人新ニ納稅義務ヲ生ジタルトキハ關東州所得稅令施行規則第七十條ニ掲グル事項ヲ詳記シ之ヲ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告スベシ其ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第三十條

關東州所得稅令施行規則第二十條、第四十條、第四十二條、第四十五條、第五十一條、第五十三條及第六十三條乃至第六十九條ノ規定ハ臨時利得稅ニ付テハ準用ス

第三十一條

臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ關東州ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ利得ニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外臨時利得稅ヲ課セズ

一 關東州ニ住所ヲ有スル者利得金額決定後臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二 臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ利得金額決定前關東州ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 關東州、臨時利得稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生ジ



第四款 資本利子稅

●資本利子稅法施行細則

大正十五年四月一日  
大藏省令第十六號

資本利子稅法施行細則左ノ通定ム  
資本利子稅法施行細則  
第一條 資本利子稅法施行規則第八條ノ規定ニ依ル拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スヘシ  
第二條 日本銀行ニ於テ甲種ノ資本利子ニ付資本利子稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者

資本利子稅拂込書

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	資本利子稅	何稅務署

Y

頭書ノ金額拂込候也

何縣何市長

何 某 團

(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)

日本銀行何店宛

大正何年何月何日

ノ提出シタル計算書ヲ添付シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スヘシ  
第三條 甲種ノ資本利子ニ付資本利子稅ノ過誤納アリタル爲之カ下戻ヲ請求セムトスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スヘシ  
附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第一號書式(用紙適宜輪廓縱四寸五分橫三寸三分)

備考  
一本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スヘシ

〔輯一二五〕

第二號書式(用紙適宜輪廓縱四寸五分橫三寸三分二枚接續)

通知書

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	資本利子稅	何稅務署

何縣何市長

何 某 納

(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)

Y

【大正】何年何月何日領收

日本銀行何店宛

何稅務署長官氏名殿

領收證書

第何號	何年度	資本利子稅
-----	-----	-------

何縣何市長

何 某 納

(其ノ他ノ公共團體又ハ會社等之ニ準ス)

Y

【大正】何年何月何日領收

日本銀行何店宛

備考

一 日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得  
第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款 資本利子稅

第三號書式甲(用紙縱五寸五分)

【大正】何年何月分  
資本利子稅徵收高計算書  
貸付信託以外ノ分

區分	支拂フヘキ金額	支拂濟金額		支拂未濟金額	稅額	摘要
		課稅	非課稅			
何公債利子						
何社債利子						
何產業債券利子						
銀行預金	定期預金					
	特別當座預金					
	通知預金					
	當座預金					
利子	計					
合計						

【大正】何年何月何日  
何縣、市町村又ハ會社

備考

支拂フヘキ金額ノ總ニハ其ノ月ニ於テ支拂フヘキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未濟金額トノ合計ヲ掲グルモノトス但シ銀行預金利子ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ

七〇六ノ一

〔輯七四〕







ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十一條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本利子金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十二條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ朝鮮所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

朝鮮所得稅令第五十二條第二項及第五十三條第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十三條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

乙種ノ資本利子ニ付テハ資本利子稅ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年九月一日ヨリ三十日限

第二期 其ノ年十二月一日ヨリ二十八日限

第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵收スベキ資本利子稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十五條 乙種ノ資本利子ニ付テハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ納稅地ヲ以テ資本利子稅ノ納稅地トス

第十六條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ資本利子ノ支拂ヲ受ケ若ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ資本利子ニ關スル帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

第十七條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ資本利子稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル税金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ乙種ノ資本利子ニ付資本利子稅ヲ逃脫シタル者ノ資本利子金額ハ朝鮮所得稅令ノ所謂調査委員會ニ諮問セズ政府ニ於テ之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第十八條 資本利子ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十六條ノ規定ニ依リ稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者、帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 道、府邑面其ノ他ノ公共團體ハ資本利子稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

乙種ノ資本利子ニ付テハ昭和十二年分資本利子稅ヨリ本令ヲ適用ス

朝鮮資本利子稅令施行規則

昭和十二年三月三十一日 朝鮮總督府令第三十四號

改正 昭和十五年第五一號、一六年第二九五號

朝鮮資本利子稅令施行規則左ノ通改正ス

朝鮮資本利子稅令施行規則

第一條 朝鮮資本利子稅令第六條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ合同運用信託ノ利益ニ對スル資本利子稅額ヨリ控除スベキ資本利子稅額又ハ金額ハ信託會社ニ於テ合同運用信託ノ利益ニ對スル資本利子稅徵收ノ際之ヲ控除スベシ

第二條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル信託會社ニ對シ其ノ計算ヲ證明スベキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款 資本利子稅

提出ヲ命ズルコトヲ得

第三條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ資本利子ノ金額及算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄稅務署ニ申告スベシ

前項ノ申告ハ朝鮮所得稅令ニ依リ所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スベシ

第四條 稅務署長朝鮮資本利子稅令第八條、第九條又ハ第十七條第二項ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第五條 朝鮮資本利子稅令第十一條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ資本利子金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ヅベシ

第六條 稅務監督局長朝鮮資本利子稅令第十二條ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第七條 朝鮮所得稅令施行規則第四十八條乃至第五十條及第五十八條乃至第六十條ノ規定ハ乙種ノ資本利子ニ關スル所得調査委員會又ハ所得審査委員會ノ議事ニ付之ヲ準用ス

第八條 朝鮮資本利子稅令第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子稅ヲ課セラレザル者無記名ノ公債、社債又ハ朝鮮金融債券ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ遲滞ナク其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スベシ但シ朝鮮所得稅令施行規則第六十七條ノ規定ニ依リ通知ヲ爲シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第九條 朝鮮所得稅令施行規則第三十二條ノ二ノ規定ハ朝鮮資本利子稅令第五條第三號ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十條 甲種ノ資本利子ニ付其ノ金額ノ支拂者資本利子稅ヲ徵收シタルト



キハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書及第三號書式ノ計算書ヲ送ヘ之ヲ  
最寄ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ

第十條 日本銀行代理店ニ於テ甲種ノ資本利子ニ付資本利子稅ノ拂込ヲ受  
ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ  
拂込者ノ提出シタル計算書及明細書ヲ添附シ之ヲ歳入徴收官ニ送付スベ  
シ

第十一條 甲種ノ資本利子ニ付資本利子稅ノ過誤納アリタル爲之カ下戻ヲ  
請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子支拂地ノ所轄稅務局長ヲ經  
由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スベシ

附則  
本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
(書式省略)

### 臺灣資本利子稅令

昭和十二年三月三十一日  
律令第五號

改正 昭和十三年第三號  
臺灣資本利子稅令大正十年法律第三號ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

#### 臺灣資本利子稅令

第一條 臺灣ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本令ニ依リ資本利子稅  
ヲ課ス

第二條 資本利子稅ハ臺灣ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課  
ス

甲種 公債、社債又ハ銀行預金(臺灣拓殖株式會社ノ預金ヲ含ム)ノ利  
子

乙種 第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有スル者ノ第三種ノ所得中營業ニ非  
ザル貸金又ハ預金ノ利子

第三條 甲種ノ資本利子ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル  
公債又ハ社債ニ付元本ノ所有者ニ非ザル者ガ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ  
元本ノ所有者ガ支拂ヲ受クルモノト看做ス但シ利子ノ生ズル期間中ニ元  
本ノ所有者ニ異動アリタルトキハ最後ノ所有者ヲ以テ利子ノ支拂ヲ受ク  
ル者ト看做ス

第四條 乙種ノ資本利子ハ前年中ノ收入金額ニ依ル  
被相続人ノ收入金額ハ之ヲ相續人ノ收入金額ト看做ス

第五條 甲種ノ資本利子ニシテ左ニ掲グルモノニハ資本利子稅ヲ課セズ  
一 臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ノ  
支拂ヲ受クル利子

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款 資本利子稅

二 貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子

第六條 資本利子稅ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ二トス但シ貯蓄銀行ノ所  
有スル國債ノ利子ニ對スル資本利子稅ノ稅率ハ資本利子金額百分ノ一ト  
ス

第七條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ  
毎年三月十五日迄ニ其ノ資本利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

第八條 乙種ノ資本利子金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告  
ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

乙種ノ資本利子金額ノ調査ニ關スル事項ハ臺灣所得稅令ノ所得調査委員  
會ニ之ヲ諮問ス

所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シ  
タルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年以後ニ於ケル所得調査委員  
會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定スルコトヲ得

所得調査委員會閉會後乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アルコトヲ申出テ又  
ハ資本利子金額ノ増加アルコトヲ申出タルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラ  
ズ政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定ス

第九條 臺灣所得稅令第三十六條ノ規定ハ資本利子金額ノ決定ニ付之ヲ準  
用ス

第十條 前二條ノ規定ニ依リ乙種ノ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ政府  
ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十一條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子  
稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

乙種ノ資本利子ニ付テハ其ノ資本利子稅ノ納期ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十二條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵收スベキ資本利子稅ヲ徵收セザルト











政府ニ於テ其ノ資本利子金額ヲ決定ス

第九條 樺太所得稅令第三十條ノ二及第三十六條ノ規定ハ資本利子金額ノ決定ニ付之ヲ準用ス

第十條 前二條ノ規定ニ依リ乙種ノ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十一條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本利子金額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十二條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

樺太所得稅令第四十二條ノ三第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十三條 甲種ノ資本利子ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ資本利子稅ヲ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

乙種ノ資本利子ニ付テハ資本利子稅ノ年額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 其ノ年八月一日ヨリ三十一日限

第二期 其ノ年十一月一日ヨリ三十日限

第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵收スベキ資本利子稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十五條 乙種ノ資本利子ニ付テハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ納稅地

ヲ以テ資本利子稅ノ納稅地トス

第十六條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ資本利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第十七條 市町村ハ資本利子稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十八條 本令ニ定ムルモノノ外資本利子稅ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

乙種ノ資本利子ニ付テハ昭和十二年分資本利子稅ヨリ本令ヲ適用ス

第七條ノ規定中三月十五日トアルハ昭和十二年ニ限リ四月二十日トス

● 樺太資本利子稅令施行規則

昭和十二年四月三日 樺太廳令第十九號

樺太資本利子稅令施行規則左ノ通定ム

樺太資本利子稅令施行規則

第一條 乙種ノ資本利子ニ付納稅義務アル者ハ資本利子ノ金額及算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

前項ノ申告ハ樺太所得稅令ニ依リ所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スベシ

第二條 樺太廳支廳長樺太資本利子稅令第八條又ハ第九條ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第三條 樺太資本利子稅令第十一條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ資本利子金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ申出ヅベシ

第四條 樺太廳長官樺太資本利子稅令第十二條ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第五條 樺太資本利子稅令第五條第一號ノ規定ニ依リ資本利子稅ヲ課セラレザル者無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ、讓渡シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スベシ但シ樺太所得稅令施行規則第三十八條ノ規定ニ依リ通知ヲ爲シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六條 甲種ノ資本利子ニ付其ノ金額ノ支拂者資本利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書及第三號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行又ハ郵便官署ニ拂込ムベシ

第七條 日本銀行又ハ郵便官署ニ於テ甲種ノ資本利子ニ付資本利子稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通

知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歳入徵收官又ハ歳入徵收分掌官ニ送付スベシ

第八條 甲種ノ資本利子ニ付資本利子稅ノ過誤納アリタル爲之ガ下戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子支拂地ノ所轄樺太廳支廳長ニ請求書ヲ提出スベシ

第九條 樺太所得稅令施行規則第二十九條、第三十一條、第三十三條ノ四第二項及第三十三條ノ六ノ規定ハ資本利子稅ニ付之ヲ準用ス

第十條 稅務官吏樺太資本利子稅令第十六條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スベシ

第十一條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ資本利子稅ヲ逃脫シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ樺太廳支廳長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ乙種ノ資本利子ニ付資本利子稅ヲ逃脫シタル者ノ資本利子金額ハ所得調査委員會ニ諮問セズ所轄樺太廳支廳長之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

樺太廳支廳長前項ノ規定ニ依リ資本利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十二條 樺太資本利子稅令第十六條ノ規定ニ依リ帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 資本利子ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス



第十四條 第十一條第一項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第十五條 本令中權太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第二條、第三條、第十一條第二項及第三項ノ規定ヲ除クノ外租稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和十二年勅令第七十四號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第一條第二項ノ規定ハ昭和十二年ニ限り之ヲ適用セズ

第一號書式(用紙適宜輪廓 縦一三・七種 横一〇・七種)

資本利子稅拂込書

第何號	何年度	拓務省所管
權太租資資資本何支應 歲入稅利子利子利子(何出張所)		
Y		
頭書ノ金額拂込候也		
何銀行代表者		
何 某團		
(其ノ他之ニ準ズ)		
日本銀行 何店宛		
(又ハ郵便局)		
昭和何年何月何日		

第二號書式(用紙適宜輪廓 縦一三・七種 横二枚接續)

通知書

第何號	何年度	拓務省所管
權太租資資資本何支應 歲入稅利子利子利子(何出張所)		
何銀行代表者		
何 某納		
(其ノ他之ニ準ズ)		
Y		
昭和何年何月何日領收		
日本銀行 何店宛		
(又ハ郵便局)		
何支廳(何出張所)		
歳入徵收官(分掌官) 氏名宛		

領收證書

第何號	何年度	資本利子稅
何銀行代表者		
何 某納		
(其ノ他之ニ準ズ)		
Y		
昭和何年何月何日領收		
日本銀行 何店宛		
(又ハ郵便局)		

昭和何年何月分  
資本利子稅徵收高計算書

區分	支拂フベ キ金額	支拂済金額		支拂未 済金額	稅額	摘要
		課稅	非課稅			
何公債利子						
何社債利子						
、 、 、 、						
銀行預金 利子	定期預金					
	特別當座預金					
	通知預金					
	當座預金					
	、 、 、 、					
計						
合計						

第三號書式(用紙 縦二四・三種 横一六・七種)

備考

- 一、支拂フベキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フベキコトノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲グルモノトス但シ銀行預金利子ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ゲナシ
- 二、非課稅ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添附スルモノトス
- 三、第二種所得稅徵收高計算書ノ稅額欄ノ次ニ資本利子稅額ノ一欄ヲ設ケテ併用シ本計算書ヲ省略スルコトヲ得



### 第四款ノ二 法人稅

#### ● 法人稅法

昭和十五年三月二十九日  
法律第二十五號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル法人稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、大藏大臣副署)

#### 法人稅法

第一條 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人及本法施行地ニ  
資産又ハ營業ヲ有スル法人ハ本法ニ依リ法人稅ヲ納ムル義務アルモノト  
ス

第二條 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ對シテハ其ノ  
所得及資本ノ全部ニ付法人稅ヲ賦課シ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務  
所ヲ有セザル法人ニ對シテハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ノ所得及  
之ニ關スル資本ニ付テノミ法人稅ヲ賦課ス

第三條 前條ノ規定ニ依リ法人稅ヲ賦課スル所得及資本ハ左ニ掲グルモノ  
トス

- 一 各事業年度ノ所得
- 二 清算所得
- 三 各事業年度ノ資本

第四條 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ各事業年度ノ  
所得ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル但シ相互  
保險會社及會員組織ノ取引所ニ在リテハ各事業年度ノ剩餘金ニ依ル  
法人ノ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ法人稅及臨時利得稅  
ハ前項ノ所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジ  
タル損金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ第一項ノ所得ノ計算上之ヲ損金  
ニ算入ス

前二項ノ規定ハ相互保險會社又ハ會員組織ノ取引所ノ剩餘金ノ計算ニ付  
之ヲ準用ス

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ各事業年度ノ所得  
ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前四項ノ規定ニ準シ計算シタル  
金額ニ依ル

第五條 所得稅法第六條及第七條ノ規定ハ法人稅ノ賦課ニ付之ヲ準用ス  
信託會社ノ各事業年度ノ所得ノ計算ニ付テハ合同運用信託ニ因ル收入及  
支出ハ其ノ總益金及總損金ヨリ各之ヲ控除ス

第六條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ剩餘財産ノ價額ガ解散當時ノ拂込  
株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過  
金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ  
社員ガ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ  
因リテ取得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金銭ノ總額ガ合併ニ因  
リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額  
ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタ  
ル法人ノ清算所得ト看做ス

第七條 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ各事業年度ノ  
資本ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ  
積立金額ヨリ各月末ニ於ケル繰越損金額ヲ控除シタル金額ノ月

〔輯一三三〕

〔輯一〇九〕

割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ十二分シテ計算シタル  
金額ニ依ル

本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人ノ各事業年度ノ資本  
ハ本法施行地ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前項ノ規定ニ準シ命令ノ定ムル  
所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

第八條 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於  
テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年  
度ト看做ス

第九條 本法ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人  
ノ各事業年度ノ所得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ  
法人稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ  
之ヲ算入セズ

第十條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因  
リテ消滅シタル法人ノ所得及資本ニ付法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十一條 北海道、府縣、市町村其ノ他命令ヲ以テ指定スル公共團體、神  
社及民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人ニハ法人稅ヲ課セズ

第十二條 命令ヲ以テ指定スル重要物産ノ製造、採掘又ハ採取ヲ爲ス法人  
ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ製造、採掘又ハ採取ノ事業ヲ開始シタル年及  
其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生ズル所得ニ付法人稅ヲ免除ス

第十三條 第四條ノ規定ニ依リ法人ノ各事業年度ノ所得ヲ計算スル場合ニ  
於テ法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル  
期間ノ利子額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ  
所得ヨリ控除ス但シ國債ノ利子ガ外貨債特別稅又ハ配當利子特別稅ヲ課

セラルルモノナルトキハ其ノ控除額ハ其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子  
額ヨリ其ノ利子額ニ對スル外貨債特別稅相當額又ハ配當利子特別稅相當  
額ヲ控除シタル殘額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額トス  
前項ノ規定ハ法人ノ清算所得ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十四條 法人ノ各事業年度分ノ臨時利得稅額ハ當該事業年度ノ所得金額  
ヨリ之ヲ控除ス

法人稅ヲ課スベキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ所得金額ヨリ控  
除スベキ臨時利得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第十五條 法人ノ清算期間中ニ於テ生ジ又ハ合併ニ因リ生ジタル所得ニシ  
テ本法其ノ他ノ法律ニ依リ法人稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ法人ノ清  
算所得金額ヨリ之ヲ控除ス

第十六條 法人稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス

- 一 各事業年度ノ所得
  - 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人  
所得金額ノ百分ノ十八
  - 本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有セザル法人  
所得金額ノ百分ノ二十八
- 二 清算所得
  - 所得金額ノ百分ノ十八
- 三 各事業年度ノ資本
  - 資本金額ノ千分ノ一・五

法人ノ各事業年度ニ於テ納付シタル所得稅法第十條ニ規定スル配當利子  
所得ニ對スル分類所得稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ所得



ニ對スル法人稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スベキ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得稅ハ法人ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セズ  
前二項ノ規定ハ清算所得ニ對スル法人稅ニ付之ヲ準用ス  
第一項ノ規定ニ依リ算出シタル各事業年度ノ資本ニ對スル法人稅額ガ年十圓ニ滿タザルトキハ年十圓トス

第四條ノ規定ニ依リ計算シタル所得金額ナキ法人ノ當該事業年度ノ資本ニ對スル法人稅ハ之ヲ免除ス第一項及前項ノ規定ニ依リ算出シタル各事業年度ノ資本ニ對スル法人稅額ガ其ノ事業年度ノ所得金額ヨリ其ノ事業年度ノ所得ニ對スル法人稅額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル各事業年度ノ資本ニ對スル法人稅ニ付亦同シ

第十七條 同族會社ガ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其ノ事業年度ノ所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ二十、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ四十、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ五十、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ六十五ヲ乘シタル合計金額ノ所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額(各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方)ニ付適用シテ算出シタル稅額ヲ各事業年度ノ所得ニ對スル法人稅ニ加算スルコトヲ得  
一 各事業年度ノ所得中留保シタル金額ガ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ三ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額  
二 各事業年度ノ所得中留保シタル金額ヨリ其ノ事業年度ニ於ケル所得ノ十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタル殘額及其ノ事業年度末ニ於ケル積立金額ノ合計ガ其ノ事業年度末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額但シ其ノ事業年度末ニ於ケル積立金額ガ拂込株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ超過額ハ之ヲ控除ス

前項ノ各事業年度ノ所得及所得中留保シタル金額ハ其ノ事業年度ノ所得及資本ニ課セラルベキ法人稅額(前項ノ規定ニ依リ加算スル稅額ヲ含マズ)及第十四條ノ規定ニ依リ控除スベキ臨時利得稅額ヲ其ノ事業年度ノ所得及其ノ所得中留保シタル金額ノ双方ヨリ控除シタル殘額ニ依リ本法ニ於テ同族會社ト稱スルハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人、命令ヲ以テ定ムル出資關係アル法人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計ガ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

第十八條 納稅義務アル法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算書若ハ合併ニ關スル計算書並ニ第四條乃至第九條ノ規定ニ依リ計算シタル所得金額及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得金額及資本金額ヲ政府ニ申告スベシ尙本法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ハ右ノ外本法施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得金額ノ明細書及本法施行地ニ於ケル資產又ハ營業ニ關スル資本金額ノ明細書ヲ添附スベシ  
前項ノ規定ハ第一條ニ規定スル法人ニ法人稅ヲ課スベキ所得又ハ資本ナキ場合ニ付之ヲ準用ス  
第十九條 法人ノ所得金額及資本金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ

又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第二十條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務アル法人又ハ納稅義務アリト認ムル法人ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第二十一條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ納稅義務アル法人若ハ納稅義務アリト認ムル法人ニ金錢若ハ物品ヲ支持フノ義務ヲ有スト認ムル者ニ對シ又ハ納稅義務アル法人若ハ納稅義務アリト認ムル法人ヨリ金錢若ハ物品ノ支持ヲ受クルノ權利ヲ有スト認ムル者ニ對シ其ノ金額、數量、價格、支拂期日等ニ付質問スルコトヲ得

第二十二條 第十九條ノ規定ニ依リ法人ノ所得金額及資本金額ヲ決定シタルトキ又ハ第十七條ノ規定ニ依リ稅額加算ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

第二十三條 納稅義務アル法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額、資本金額又ハ加算稅額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得  
前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第二十四條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス  
所得稅法第三十八條及第六十八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第二十五條 前條第一項ノ決定ニ對シ不服アル法人ハ訴訟ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 法人稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス但シ清算所得ニ對スル法人稅ハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

第二十七條 法人解散シタル場合ニ於テ各事業年度ノ所得若ハ資本ニ對スル法人稅又ハ清算所得ニ對スル法人稅ヲ納付セズシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第二十八條 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ法人稅連脫ノ目的アリト認ムラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ所得金額及資本金額ヲ計算スルコトヲ得

第二十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ法人稅ヲ連脫シタル者ハ其ノ連脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第三十條 第二十條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 法人ノ所得又ハ資本ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第二十九條ノ罰ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ  
第三十三條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ法人稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則



第三十四條 本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
第三十五條 各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人稅ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本法ヲ適用ス

第三十六條 昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ之ヲ法人稅ト看做シ第四條第二項ノ規定ヲ適用ス法人ガ本法施行前ニ合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ合併ノ日ヲ含ム事業年度ガ本法施行後ニ終了スル場合ニ於ケル合併ニ因リ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ第一種所得稅、第一種所得稅附加稅、法人資本稅及命令ヲ以テ指定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅並ニ清算所得ニ對スル第一種所得稅及第一種所得稅附加稅ニ付亦同シ

第三十七條 昭和十五年四月一日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度前ノ各事業年度分ノ臨時利得稅ハ第四條第二項ノ規定ニ拘ラズ法人ノ各事業年度ノ所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第三十八條 本法施行後終了スル事業年度ニ於テ又ハ本法施行後ニ於ケル解散ニ因ル清算ノ期間中ニ法人ノ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額及資本利子稅額ハ之ヲ所得稅法第十條ニ規定スル配當利子所得ニ對スル分類所得稅額ト看做シ第十六條第二項乃至第四項ノ規定ヲ適用ス

第三十九條 本法施行後終了スル事業年度ニ於テ法人ノ納付シタル礦產稅額、特別礦產稅額又ハ取引所營業稅額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ全部

ル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第四條 法人稅法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ總資產價額ニ對スル同法施行地ニ於ケル資產價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第五條 左ニ掲グル公共團體ニハ法人稅法第十一條ノ規定ニ依リ法人稅ヲ課セズ

一 府縣組合、市町村組合、町村組合、市町村内ノ區、町村制ヲ施行セザル地ニ於ケル町村ニ準ズベキ團體、市町村學校組合、町村學校組合、學區、水利組合、水利組合聯合、耕地整理組合、耕地整理組合聯合、北海道土功組合、重要物產同業組合、重要物產同業組合聯合會、森林組合、森林組合聯合會、酒造組合、酒造組合聯合會、酒造組合中央會、水產組合、水產組合聯合會、外國領海水產組合、外國領海水產組合聯合會、畜產組合、畜產組合聯合會、農會、水產會、商工會議所其ノ他此等ノ公共團體ニ準ズベキモノ

二 朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ノ公共團體ニシテ各其ノ地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セザルモノト指定セラレタルモノ

法人タル宗教團體ニハ宗教團體法第二十二條ノ規定ニ依リ法人稅ヲ課セズ

第六條 左ニ掲グル物產ノ製造業ヲ營ム法人ニハ法人稅法第十二條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅ヲ免除ス

一金、銀、銅、鉛、亞鉛、錫、ニッケル、クロム、コバルト、鐵、アルミニウム及マグネシウムノ地金並ニ水銀

二 鐵ノ條、竿、丁形山形類、軌條、板、線及管(鑄鐵管ヲ除ク)

三 銅ノ合金ノ條、竿、板及管

四 アルミニウムノ合金及マグネシウムノ合金

五 球軸受、コロ軸受及同部分品

六 汽罐、原動機(機關車ヲ含ム)及動力ヲ以テ運轉スル鐵製ノ機械

七 アルミナ、クリオリット、チタン白、カーボンブラック、石灰窒素、硫酸カリ、磷酸アンモン、硫酸アンモン、硝酸(アンモニア酸化ニ依ルモノ)、石炭酸、グリコール、グリセリン、メタノール、アセトン、アタノール、合成イソブチルアルコール、合成ベンゼン、合成トルエン、アセチレンセルロース、人造ゴム、人造レジン(フェニール樹脂ヲ除ク)、人造タンニン、タンニンエキス及タンニン代用エキス(バルブ廢液ヨリ製造スルモノ)

八 纖維素バルブ、蛋白人造纖維、ガラス纖維、岩石纖維及石棉

九 光學用ガラス

十 コンテンズドミルク、カゼイン、大豆カゼイン及落花生カゼイン

十一 感光性乳劑用セラチン

十二 鯨革及鯨革

又ハ一部ヲ當該事業年度ノ所得ニ對スル法人稅額ヨリ控除ス

第四十條 法人ガ本法施行後終了スル事業年度ニ於テ公債及社債利子稅ヲ課セラレル國債ヲ所有スルトキハ其ノ國債ヲ所有シタル期間分ノ利子額ニ對スル公債及社債利子稅ヲ配當利子特別稅ト看做シ第十三條ノ規定ヲ適用ス

第四十一條 宗教團體法第二十二條中「所得稅」ノ下ニ「及法人稅」ヲ加フ宗教團體法第三十五條第一項ノ佛堂ニ對シテハ法人稅ヲ課セズ

### ● 法人稅法施行規則

昭和十五年三月三十一日  
勅令第三百三十五號

朕法人稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、大藏)  
(大臣副署)

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損益金ハ其ノ事業年度ノ所得ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損益金ハ法人稅法第四條第三項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ所得ノ計算上損益金ニ之ヲ算入セズ

第二條 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生シタル損益金ニシテ其ノ損益金ノ生シタル事業年度以後ノ事業年度ノ所得ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ法人稅法第四條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ所得ノ計算上損益金ニ之ヲ算入ス

第三條 法人稅法第七條第一項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザ



三 砂鐵

第七條 前條ノ製造、採掘若ハ採取ノ事業ヲ繼續シ又ハ其ノ繼續ト認ムベキ事實アル法人ハ其ノ製造、採掘又ハ採取ノ事業ニ付所得ニ對スル法人税ノ免除期間ノ殘存スルトキニ限り其ノ免除期間ヲ繼承ス

第八條 法人税法第十二條ノ規定ニ依リ法人税ノ免除ヲ受ケントスル法人ハ同法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第九條 法人税法第十三條ノ規定ニ依リ法人ノ各事業年度ノ所得金額ヨリ所有國債ノ利子額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ノ控除ヲ受ケントスル法人ハ法人税法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第十條 法人税ヲ課スベキ所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スル法人ノ所得金額ヨリ控除スベキ臨時利得稅額ハ法人税ヲ課スベキ所得金額ノ總所得金額ニ對スル割合ヲ臨時利得稅總額ニ乘シテ計算ス

第十一條 法人税法第十四條ノ規定ハ同法第十五條ノ規定スル法人ノ清算期間中ニ於テ生シ又ハ合併ニ因リ生シタル所得ニシテ法人税法其ノ他ノ法律ニ依リ法人税ヲ課セラザルモノノ金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十二條 法人税法第十六條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税額ヨリ控除スベキ所得稅法第十條ノ規定スル配當利子所得ニ對スル

ル分類所得稅額中公債若ハ社債ノ利子又ハ法人ヨリ受ケル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配(利益ノ配當ト稱ス以下同シ)ニ對スルモノハ其ノ元本ヲ所有シタル期間ノ利子又ハ利益ノ配當ニ對スルモノニ限ル

一 元本ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル分類所得稅額ハ其ノ納付シタル分類所得稅額ヲ其ノ元本タル公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セザリシ期間ノ利子額トニ按分シテ之ヲ計算ス

二 元本ヲ所有シタル期間ノ利益ノ配當ニ對スル分類所得稅額ハ其ノ納付シタル分類所得稅額ヲ其ノ元本ヲ所有シタル期間ニ應ジ割當テタル利益ノ配當額ト所有セザリシ期間ニ應ジ割當テタル利益ノ配當額トニ按分シテ之ヲ計算ス

第十三條 法人税法第十六條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人税額ヨリ分類所得稅額ノ控除ヲ受ケントスル法人ハ法人税法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

第十四條 稅務署長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ申請ヲ爲シタル法人ニ對シ其ノ計算ヲ證明スベキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十五條 法人税法第十六條第五項ノ年十圓ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ十圓ニ乘シテ之ヲ十二分シタル金額ニ依ル

第三條ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第十六條 法人税法第十七條ノ規定ニ依リ所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ其ノ所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

第十七條 左ノ各號ニ掲グル關係アル場合ニ於テ各號ニ規定スル出資者ノ出資持分ノ割合ガ百分ノ五十以上ナルトキハ各號ニ掲グル法人ハ其ノ相手方ニ對シ法人税法第十七條第三項ニ規定スル出資關係アル法人トス

一 法人ト其ノ出資者(株主又ハ社員ヲ謂フ以下同シ)トノ關係  
二 法人ト其ノ出資者ノ親族、使用人等出資者ト特殊ノ關係アル個人(同族關係者ト稱ス以下同シ)トノ關係  
三 法人ト其ノ出資者ノ同族關係者ヲ出資者トスル他ノ法人トノ關係  
四 出資者ガ同一人ナル二以上ノ法人ノ相互間ノ關係

第十八條 法人ノ各事業年度ノ所得及資本ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第十九條 解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ殘餘財産ヲ數回ニ分チテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スベキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スベシ

第二十條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ十四日以内ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ繼承シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

第二十一條 稅務署長又ハ其ノ代理官法人税法第二十條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帯スベシ

第二十二條 稅務署長法人税法第十九條ノ規定ニ依リ法人ノ所得金額及資本金額ヲ決定シタルトキ又ハ同法第十七條ノ規定ニ依リ稅額加算ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

第二十三條 法人税法第二十三條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル法人ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ法人ノ所得金額又ハ資本金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ヅベシ

第二十四條 所得稅法施行規則第七十九條ノ規定ハ法人税ニ付之ヲ準用ス

第二十五條 稅務監督局長法人税法第二十四條ノ規定ニ依リ法人ノ所得金額、資本金額又ハ稅額加算ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

第二十六條 本令ハ法人税法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條 各事業年度ノ所得及資本ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル法人税ニ付テハ昭和十五年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ本令ヲ適用ス

第二十八條 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シ本令施行前ニ



終了シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ノ算定ニ關シテハ法人稅法第四條第二項ノ規定ヲ適用セズ

第二十九條 法人稅法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ法人稅法第三十六條ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第三十條 法人稅法第三十九條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅額ヨリ控除スベキ礦產稅額及特別礦產稅額ハ本令施行後終了スル事業年度ニ於テ產出シタル礦產物ニ對シ納付シタル礦產稅額及特別礦產稅額ノ合計額ヨリ當該事業年度ニ於ケル礦業ノ純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘ジタル金額ヲ控除シタル殘額ニ限ル但シ其ノ控除額ハ當該事業年度ニ於ケル礦業ノ所得金額ニ百分ノ十八ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

法人稅法第三十九條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅額ヨリ控除スベキ取引所營業稅額ハ本令施行後終了スル事業年度ニ於テ爲シタル賣買取引ニ基ク賣買手數料收入金額ニ對シ納付シタル取引所營業稅額ノ百分ノ三ニ相當スル金額ヨリ當該事業年度ニ於ケル取引所ノ純益金額ニ百分ノ一・五ヲ乘ジタル金額ヲ控除シタル殘額ニ限ル但シ其ノ控除額ハ當該事業年度ニ於ケル取引所ノ所得金額ニ百分ノ十八ヲ乘ジタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

前二項ノ規定及營業稅法施行規則第三十五條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅額及營業稅額ヨリ控除スベキ礦產稅額、特別礦產稅額又ハ取引所營業稅額ハ法人ノ各事業年度ノ所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第三十一條 法人稅法第三十九條ノ規定ニ依リ所得ニ對スル法人稅額ヨリ礦產稅額、特別礦產稅額又ハ取引所營業稅額ヲ控除ヲ受ケントスル法人ハ法人稅法第十八條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ礦產稅及特別礦產稅ニ在リテハ礦產物ノ所得稅令第六條第一項乃至第三項ノ規定ニ依リ法人ノ普通所得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

第一種ノ所得ニ對スル所得稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

朝鮮所得稅令第七條ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ之ヲ第一種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

第六條 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ資本ニ付法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第七條 法人稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ法人稅法施行地、臺灣、關東州、樺太又ハ朝鮮ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ朝鮮ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ資本ニ付法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中法人稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ノ資本ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル資本ニ對スル法人稅額又ハ法人資本稅額ニ相當スル金額ヲ以テ法人資本稅ノ稅額トス

第八條 朝鮮所得稅令第二十條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル法人ニハ法人資本稅ヲ課セズ

第九條 法人稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ朝鮮ニ於ケル資本ニ付テハ法人資本稅ヲ課セズ

第十條 法人資本稅ノ稅率ハ百分ノ一・五トス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ年十圓ニ滿タザルトキハ年十圓ト

朝鮮法人資本稅令

昭和十二年三月三十一日 制令第三號

改正 昭和十五年第一〇號 朝鮮法人資本稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮法人資本稅令 第一條 朝鮮ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ハ本令ニ依リ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル法人朝鮮ニ資本ヲ有スルトキハ其ノ資本ニ付テノミ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第三條 法人資本稅ハ法人ノ資本ニ付テ之ヲ賦課ス

第四條 第一條ノ規定ニ該當スル法人ノ資本ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ヨリ各月末ニ於ケル繰越款損金額ヲ控除シタル金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ二分シテ計算シタル金額ニ依ル

第二條ノ規定ニ該當スル法人ノ朝鮮ニ於ケル資本ハ前項ノ規定ニ準ジ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 本令ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ朝鮮

所得金額ナキ法人ノ法人資本稅ハ之ヲ免除ス前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ事業年度ノ所得金額ヨリ其ノ事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヲ控除シタル殘額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル法人資本稅ニ付亦同シ

朝鮮所得稅令第七條ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ之ヲ第一種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シテ前項ノ規定ヲ適用ス

朝鮮所得稅令第六條ノ規定ハ第三項ノ所得金額ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス

第十一條 納稅義務者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ資本稅額ヲ政府ニ申告スベシ

第十二條 資本稅額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十三條 前條ノ規定ニ依リ資本稅額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十四條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本稅額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ朝鮮所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

朝鮮所得稅令第五十二條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テ之ヲ準用ス

第十六條 法人資本稅ハ法人ノ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十七條 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ法人資本稅連脫ノ目的アリト認メラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ資本稅額ヲ計算スルコトヲ得

前項ニ於テ同族會社トハ朝鮮所得稅令ニ規定スル同族會社ヲ謂フ



**第十八條** 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ法人資本稅ヲ逋脱シタル者ハ其ノ逋脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

**第十九條** 資本ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

**第二十條** 朝鮮所得稅令第四十八條、第四十九條、第六十二條、第六十四條及第六十九條ノ規定ハ法人資本稅ニ付テ之ヲ準用ス

**第二十一條** 朝鮮鑛業令第六十條ニ規定スル特許鑛業ニ屬スル資本ニ付テハ本令ヲ適用セズ但シ其ノ特許條件ニ別段ノ定アル場合ニ限ル

**第二十二條** 道、府邑面其ノ他ノ公共團體ハ法人資本稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

**附則**

本令ハ昭和十二年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

**附則** (昭和十五年勅令第十號)

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

昭和十五年三月三十一日以前ニ終了スル事業年度分ノ第一種所得稅附加稅ハ第五條第二項ノ所得稅ト看做シ同項ノ規定ヲ適用ス

**朝鮮法人資本稅令施行規則**

昭和十二年三月三十一日 朝鮮總督府令第三十二號

朝鮮法人資本稅令施行規則左ノ通定ム

**第一條** 朝鮮法人資本稅令第四條第一項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

**第二條** 朝鮮ニ本店ヲ有セザル法人ノ朝鮮法人資本稅令第四條第二項ノ資

七十六條及第七十八條ノ規定ハ法人資本稅ニ付テ之ヲ準用ス

**附則**

本令ハ昭和十二年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

**附則** (昭和十五年勅令第五十四號)

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

朝鮮法人資本稅令第十條第五項ノ規定ニ依リ同令同條第三項ノ所得金額ヲ計算スル場合ニ於テ昭和十五年四月一日ヲ合ム事業年度前ノ事業年度分又ハ本令施行前合併ニ因リ消滅シタル法人ノ合併ノ日以前ノ事業年度分ノ租稅アルトキハ其ノ所得金額ノ計算ハ朝鮮所得稅令附則第四條、第六條及朝鮮所得稅令施行規則附則第四條ノ例ニ依リ之ヲ爲スベシ

**臺灣法人資本稅令**

昭和十二年三月三十一日 律令第二號

臺灣法人資本稅令大正十年法律第三號ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

**第一條** 臺灣ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ハ本令ニ依リ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

**第二條** 前條ノ規定ニ該當セザル法人臺灣ニ資本ヲ有スルトキハ其ノ資本ニ付テノ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

**第三條** 法人資本稅ハ法人ノ資本ニ付テ之ヲ賦課ス

**第四條** 第一條ノ規定ニ該當スル法人ノ資本ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ヨリ各月末ニ於ケル繰越欠損金額ヲ控除シタル金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ二分シテ計算シタル金額ニ依ル

**第五條** 前條ノ規定ニ該當スル法人ノ臺灣ニ於ケル資本ハ前項ノ規定ニ準シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

法人ノ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看メ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看

**做ス**

**第五條** 本令ニ於テ積立金額トハ臺灣所得稅令第十一條ノ二ニ規定スルモノヲ謂フ

**第六條** 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ資本ニ付テ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

**第七條** 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ハ法人資本稅ヲ課セズ

**第八條** 法人資本稅ノ稅率ハ千分ノ一・五トス

**第九條** 前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ年十圓ニ滿タザルトキハ年十圓ト所得金額ナキ法人ノ法人資本稅ハ之ヲ免除ス前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ事業年度ノ所得ニ對スル第一種所得稅、第一種所得稅附加稅及樟太又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依ル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ臺灣總督ノ指定スルモノヲ控除シタル殘額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル法人資本稅ニ付テ之ヲ課ス

**第十條** 臺灣所得稅令第四條ノ規定ハ前項ノ所得金額ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス

**第十一條** 納稅義務アル法人ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ資本金額ヲ政府ニ申告スベシ

**第十二條** 前項ノ規定ハ法人ニ法人資本稅ヲ課スベキ資本ナキ場合ニ付テ之ヲ準用ス

**第十三條** 資本金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

**第十四條** 稅務官吏ハ調査ニ必要アルトキハ納稅義務アル法人又ハ納稅義務アリト認ムル法人ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

**第十五條** 第十條ノ規定ニ依リ資本金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

**第十六條** 法人資本稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

**第十七條** 法人資本稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

**第十八條** 法人解散シタル場合ニ於テ法人資本稅ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

**第十九條** 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ法人資本稅逋脱ノ目的アリト認メラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認



ムル所ニ依リ資本金額ヲ計算スルコトヲ得  
 前項ニ於テ同族會社トハ臺灣所得稅令ニ規定スル同族會社ヲ謂フ  
 第十五條 詐偽其ノ他不正ノ行為ニ依リ法人資本稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル者ハ其ノ逋脫シ又ハ逋脫セントシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務官署ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ  
 第十六條 第十一條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十一條ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
 第十七條 資本ノ調査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス  
 第十八條 第十五條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ  
 第十九條 法人稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ臺灣ニ於ケル資本ニ付テハ法人資本稅ヲ課セズ  
 第二十條 法人稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ガ法人稅法施行地、朝鮮、關東州、樺太又ハ臺灣ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ臺灣ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ資本ニ付テハ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス  
 前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中法人稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有シタル法人ノ資本ニ付テハ第八條ノ規定ニ拘ラズ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル資本ニ對

臺灣法人資本稅令施行規則

昭和十二年四月一日  
臺灣總督府令第二十七號

スル法人稅額又ハ法人資本稅額ニ相當スル金額ヲ以テ法人資本稅ノ稅額トス  
 第二十一條 州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ法人資本稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ  
 附則  
 本令ハ昭和十二年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス  
 改正 昭和五年第四八號  
 臺灣法人資本稅令施行規則左ノ通定ム  
 臺灣法人資本稅令施行規則  
 第一條 臺灣法人資本稅令第四條第一項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ  
 第二條 臺灣法人資本稅令第二條ノ規定ニ該當スル法人ノ同令第四條第二項ノ資本金額ハ總資產價額ニ對スル臺灣ニ於ケル資產價額ノ割合ヲ總資本金額ニ乘ジ之ヲ計算ス  
 前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ營業收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス  
 第三條 臺灣法人資本稅令第八條第二項ノ年十圓ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ十圓ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ依ル  
 第一條ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス  
 第三條ノ二 臺灣ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ樺太又ハ南洋群島ニ於ケル資產又ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ臺灣法人資本稅令第八條第三項ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス  
 第四條 臺灣所得稅令施行規則第一條乃至第二條ノ二ノ規定ハ臺灣法人資本稅令第八條第四項ノ所得金額ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス  
 第五條 法人ノ資本金額ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ但シ

〔輯一一一〕

臺灣所得稅令ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨ケズ  
 第六條 知事又ハ廳長臺灣法人資本稅令第十條ノ規定ニ依リ資本金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ  
 第七條 稅務官吏臺灣法人資本稅令第十一條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ臺灣所得稅令施行規則第五十一條ニ定ムル様式ノ検査章ヲ携帯スベシ  
 第八條 法人資本稅ハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ其ノ納稅地トス  
 附則  
 本令ハ昭和十二年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

樺太法人資本稅令

昭和十二年三月三十一日  
勅令第七十三號

改正 昭和二年第二八四號、一五年第一八三號  
朕樺太法人資本稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、拓務)

樺太法人資本稅令

第一條 樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ハ本令ニ依リ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス  
 第二條 前條ノ規定ニ該當セザル法人樺太ニ資本ヲ有スルトキハ其ノ資本ニ付テノミ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス  
 第三條 法人資本稅ハ法人ノ資本ニ付テ之ヲ賦課ス  
 第四條 第一條ノ規定ニ該當スル法人ノ資本ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額又ハ基金及積立金額ヨリ各月末ニ於ケル繰越缺損金額ヲ控除シタル金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジタ

ルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル  
 第二條ノ規定ニ該當スル法人ノ樺太ニ於ケル資本ハ前項ノ規定ニ準ジ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル  
 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス  
 第五條 本令ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ樺太所得稅令第四條ノ規定ニ依ル法人ノ普通所得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ  
 樺太所得稅令第八條第二項ノ規定ハ前項ノ留保シタル金額ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス  
 第六條 合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ資本ニ付テ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス  
 第七條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ樺太所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ法人資本稅ヲ課セズ  
 第八條 法人資本稅ノ稅率ハ千分ノ一・五トス  
 前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ年十圓ニ滿タザルトキハ年十圓ト所得金額ナキ法人ノ法人資本稅ハ之ヲ免除ス前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ事業年度ノ所得金額ヨリ其ノ事業年度ノ所得ニ對スル第一種所得稅、第一種所得稅附加稅及臺灣又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依ル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ニシテ樺太廳長官ノ指定スルモノヲ控除シタル殘額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル法人資本稅ニ

〔輯一一一〕



付亦同シ

榊太所得稅令第四條ノ規定ハ前項ノ所得金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第九條 納稅義務者ハ榊太廳長官ノ定ムル所ニ依リ資本額ヲ政府ニ申告スベシ

第十條 資本額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十一條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第十二條 第十條ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十三條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十四條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ榊太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十五條 榊太所得稅令第四十二條ノ三第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第十五條 法人資本稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十六條 法人解散シタル場合ニ於テ法人資本稅ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第十七條 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ法人資本稅通脫ノ目的アリト認メラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認

ムル所ニ依リ資本額ヲ計算スルコトヲ得

前項ニ於テ同族會社トハ榊太所得稅令ニ規定スル同族會社ヲ謂フ

第十七條 内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ榊太ニ於ケル資本ニ付テハ法人資本稅ヲ課セズ

第十八條 内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ガ内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ榊太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ榊太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スルトキハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ資本ニ付テハ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有シタル法人ノ資本ニ付テハ第八條ノ規定ニ拘ラズ各該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル資本ニ對スル法人稅額又ハ法人資本稅額ニ相當スル金額ヲ以テ法人資本稅ノ稅額トス

第十九條 市町村ハ法人資本稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第二十條 本令ニ定ムルモノノ外法人資本稅ニ關シ必要ナル規定ハ榊太廳長官之ヲ定ム

附則 本令ハ昭和十二年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

●榊太法人資本稅令施行規則

昭和十二年四月三日 榊太廳令第二十號

榊太法人資本稅令施行規則左ノ通定ム

第一條 榊太法人資本稅令第四條第一項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ切捨ツ

第二條 榊太法人資本稅令第二條ノ規定ニ該當スル法人ノ同令第四條第二項ノ資本ノ額ハ總資產價額ニ對スル榊太ニ於ケル資產價額ノ割合ヲ總資本額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 榊太法人資本稅令第八條第二項ノ年十圓ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ十圓ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ依ル

第一條ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三條ノ二 榊太ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ臺灣又ハ南洋群島ニ於ケル資產又ハ營業ニ對シ各該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ之ヲ榊太法人資本稅令第八條第三項ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第四條 榊太所得稅令施行規則第一條及第二條ノ規定ハ榊太法人資本稅令第八條第四項ノ所得金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第五條 法人ノ資本額ハ毎事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄榊太廳長ニ申告スベシ但シ榊太所得稅令ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨グズ

第六條 榊太廳支廳長榊太法人資本稅令第十條ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定

シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第七條 稅務官吏榊太法人資本稅令第十一條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スベシ

第八條 榊太法人資本稅令第十三條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ資本額ノ決定ヲ爲シタル榊太廳支廳長ヲ經由シ榊太廳長官ニ申出ヅベシ

第九條 榊太所得稅令施行規則第三十三條ノ六ノ規定ハ法人資本稅ニ付之ヲ準用ス

第十條 榊太廳長官榊太法人資本稅令第十四條ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十一條 法人資本稅ノ所得稅ノ納稅地ヲ以テ其ノ納稅地トス

第十二條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ法人資本稅ヲ通脫シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ榊太廳支廳長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十三條 榊太法人資本稅令第十一條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 資本ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第十二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第十六條 本令中榊太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第六條ノ規定ヲ除クノ外租稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス



附則  
本令ハ昭和十二年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

### 關東州法人資本稅令

昭和十三年四月一日  
勅令第二百一十一號

改正 昭和十五年第一七四號

朕關東州法人資本稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大 臣副署)

#### 關東州法人資本稅令

- 第一條 關東州ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ハ本令ニ依リ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 第二條 前條ノ規定ニ該當セザル法人關東州ニ資本ヲ有スルトキハ其ノ資本ニ付テノミ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 第三條 法人資本稅ハ法人ノ資本ニ付テ之ヲ賦課ス
- 第四條 第一條ノ規定ニ該當スル法人ノ資本ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込株式金額、出資金額、基金又ハ積立金及積立金額ヨリ各月末ニ於ケル繰越積損金額ヲ控除シタル金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘シタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル
- 第二條ノ規定ニ該當スル法人ノ關東州ニ於ケル資本ハ前項ノ規定ニ準ジ滿洲國駐劄特命全權大使ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ニ依ル
- 法人ノ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 本令ニ於テ積立金額トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ關東州所得稅令第四條第一項ノ規定ニ依ル法人ノ普通所得中其ノ留保シタル金額ヲ謂フ

第一種所得稅及臨時利得稅トシテ納付スベキ金額ハ前項ノ留保シタル金額ニハ之ヲ算入セズ

第六條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ資本ニ付テ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第七條 法人稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ハ法人稅法施行地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ關東州ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ資本ニ付テ法人資本稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中法人稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有シタル法人ノ資本ニ付テハ第十條ノ規定ニ拘ラズ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル資本ニ對スル法人稅額又ハ法人資本稅額ニ相當スル金額ヲ以テ法人資本稅ノ稅額トス

第八條 營利ヲ目的トセザル法人ニシテ關東州所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザルモノニハ法人資本稅ヲ課セズ

第九條 法人稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ關東州ニ於ケル資本ニ付テハ法人資本稅ヲ課セズ

【輯一〇九】

【輯一一二】

メラルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認

ムル所ニ依リ資本稅ヲ計算スルコトヲ得

前項ニ於テ同族會社トハ關東州所得稅令ニ規定スル同族會社ヲ謂フ

第十九條 關東州所得稅令第四十三條第二項、第五十五條及第五十六條ノ規定ハ法人資本稅ニ付テ之ヲ準用ス

第二十條 本令ニ於テハ法人ニ非ザル社團モ亦之ヲ法人ト看做ス

前項ノ社團其ノ財產ヲ以テ法人資本稅ヲ完納スルコト能ハザルトキハ其

ノ稅金ニ付社員連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第二十一條 市、會其ノ他ノ公共團體ハ法人資本稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第二十二條 大使ハ本令ニ定ムルモノヲ除クノ外法人資本稅ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ昭和十三年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

關東州法人資本稅令施行規則左ノ通定ム

### 關東州法人資本稅令施行規則

昭和十三年四月一日  
關東局令第二十六號

改正 昭和十五年第二〇號

關東州法人資本稅令施行規則左ノ通定ム

關東州法人資本稅令施行規則

第一條 關東州法人資本稅令以下法人資本 第四條第一項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨ツ

第二條 法人資本稅令第二條ノ規定ニ該當スル法人ノ同令第四條第二項ノ

第十條 法人資本稅ノ稅率ハ萬分ノ六トス

前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ年十圓ニ滿タザルトキハ年十圓トス

所得金額ナキ法人ノ法人資本稅ハ之ヲ免除ス前二項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ガ其ノ事業年度ノ所得金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過額ニ相當スル法人資本稅ニ付亦同シ

關東州所得稅令第四條ノ規定ハ前項ノ所得金額ノ計算ニ付テ之ヲ準用ス

第十一條 納稅義務者ハ大使ノ定ムル所ニ依リ資本稅額ヲ申告スベシ

第十二條 資本稅額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十三條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務アリ

ト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第十四條 第十二條ノ規定ニ依リ資本稅額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十五條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル資本稅額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日內ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ

審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ稅金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十六條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ關東州所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

關東州所得稅令第四十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付テ之ヲ準用ス

第十七條 法人資本稅ハ法人ノ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十八條 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ法人資本稅通脫ノ目的アリト認

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ二 法人資本稅



資本ノ額ハ總資產價額ニ對スル關東州ニ於ケル資產價額ノ割合ヲ總資本額ニ乘シ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ資產價額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ收入金又ハ所得ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

第三條 法人資本稅令第十條第二項ノ年十圓ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ十圓ニ乘シ之ヲ十二分シタル金額ニ依ル

第一條ノ規定ハ前項ノ月數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四條 關東州所得稅令施行規則第一條及第二條ノ規定ハ法人資本稅令第十條第四項ノ所得金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第五條 法人ノ資本額ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日內又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日內ニ之ヲ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告スベシ但シ關東州所得稅令ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨グズ

第六條 稅務署長又ハ民政署長法人資本稅令第十二條ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第七條 稅務官吏法人資本稅令第十三條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帶スベシ

第八條 法人資本稅令第十五條第一項ノ規定ニ依ル審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證書類ヲ添ヘ資本額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長又ハ民政署長ヲ經由シ關東州廳長官ニ申出ヅベシ

第九條 關東州廳長官法人資本稅令第十六條第一項ノ規定ニ依リ資本額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十條 法人資本稅ハ所得稅ノ納稅地ヲ以テ其ノ納稅地トス

第十一條 關東州所得稅令施行規則第五十三條、第六十三條、第六十六條乃至第七十條及第七十六條ノ規定ハ法人資本稅ニ付之ヲ準用ス

第十二條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ法人資本稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長若ハ民政署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス

第十三條 法人資本稅令第十三條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 法人ノ資本ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得シタル秘密ヲ正常ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ昭和十三年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

第四款ノ三 特別法人稅

昭和十五年三月二十九日 法律第二十六號

改正 昭和十五年第一〇六號、一六年第四七號 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル特別法人稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、大藏、拓務大臣副署)

特別法人稅法

第一條 本法施行地ニ主タル事務所ヲ有スル特別ノ法人ハ本法ニ依リ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 本法ニ於テ特別ノ法人トハ左ニ掲グル法人ヲ謂フ

- 一 産業組合及産業組合聯合會
- 一ノ二 貸家組合、貸家組合聯合會、貸室組合及貸室組合聯合會
- 二 商業組合及商業組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)
- 三 工業組合及工業組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)
- 四 貿易組合及貿易組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)
- 五 漁業協同組合及漁業組合聯合會
- 六 蠶絲共同施設組合
- 七 自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)
- 八 産業組合中央金庫
- 九 商工組合中央金庫

第三條 特別法人稅ハ特別ノ法人ノ剩餘金ニ付之ヲ賦課ス

第四條 特別ノ法人ノ剩餘金ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

特別ノ法人ガ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スベキ金額ハ前項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

特別ノ法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ特別法人稅ハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

特別ノ法人ノ各事業年度開始前三年以內ニ開始シタル事業年度ニ於テ生シタル損金ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前三項ノ規定スルモノノ外第一項ノ剩餘金ノ計算ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 前條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ヲ計算スル場合ニ於テ特別ノ法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間分ノ利子額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ剩餘金ヨリ控除ス

第六條 特別ノ法人ノ前條ノ規定ニ依ル控除前ノ剩餘金額ガ其ノ拂込濟出資金額ニ對シ年百分ノ三ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超エザルトキハ特別法人稅ヲ課セズ

前項ノ拂込濟出資金額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 特別ノ法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第八條 合併後存續スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル特別ノ法



人ハ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金ニ付特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

分割ニ因リテ設立シタル特別ノ法人ハ分割ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金又ハ分割後存續スル特別ノ法人ノ分割前ノ剩餘金ニ付分割ニ因リテ設立シタル他ノ特別ノ法人又ハ分割後存續スル特別ノ法人ト連帶シテ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前二項ノ規定ハ合併若ハ分割後存續スル法人又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立シタル法人ガ特別ノ法人ニ非ザル場合ニ付之ヲ準用ス

第九條 特別法人稅ノ稅率ハ百分ノ六トス

第十條 納稅義務アル特別ノ法人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ財産目録、貸借對照表、損益計算書並ニ第四條及第六條第二項ノ規定ニ依リ計算シタル剩餘金額及拂込濟出資金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ剩餘金ヲ政府ニ申告スベシ

前項ノ規定ハ特別ノ法人ニ特別法人稅ヲ課スベキ剩餘金ナキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條 特別ノ法人ノ剩餘金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十二條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ特別ノ法人ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ特別ノ法人ニ通知スベシ

第十四條 特別ノ法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル剩餘金額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政

府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得稅法ノ所得審査委員會ノ決議ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十六條 前條第一項ノ決定ニ對シ不服アル特別ノ法人ハ訴訟ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十七條 特別法人稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十八條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ特別法人稅ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ特別法人稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第二十條 第十二條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條 特別ノ法人ノ剩餘金ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第十九條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十

三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

本法ニ依リ特別法人稅ノ賦課ハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リトス

明治四十年法律第二十一號第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ  
二十 特別法人稅

●特別法人稅法施行規則

昭和十五年三月三十一日  
勅令第三百三十六號

朕特別法人稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、大藏、大臣副署)

特別法人稅法施行規則

第一條 特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル利益金ハ其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ特別法人稅法第四條第四項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第二條 特別ノ法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ損金ノ生ジタル事業年度以後ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ特別法人稅法第四條第四項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

算入ス

第三條 大藏大臣ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ特別ノ法人ノ剩餘金ノ計算上大藏大臣ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金ニ算入セズ

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ大藏大臣之ヲ告示ス

第四條 産業組合、商業組合、工業組合若ハ貿易組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ其ノ剩餘金中留保シタル金額ノ全部又ハ一部ヲ輸出振興ノ爲ニ必要ナル資金ニ充テタルトキハ之ヲ其ノ剩餘金額ヨリ控除ス

第五條 産業組合、商業組合、工業組合若ハ貿易組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ各事業年度ノ留保金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル輸出振興ノ爲ニ必要ナル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ剩餘金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「輸出振興留保金」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ

前項ノ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ現金、預金又ハ有價證券ノ外之ヲ運用スルコトヲ得ズ

第六條 産業組合、商業組合、工業組合若ハ貿易組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興以外ノ目的ニ支出シタルトキ又ハ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興ノ爲ニ支出セズシテ解散シタルトキハ其ノ支出金又ハ繰入金ニ相當スル金額ヲ支出ノ日又ハ解散ノ日ノ屬スル事業年度ノ益金ニ算入ス

第七條 漁業協同組合ガ漁業權ノ抛棄又ハ讓渡ニ因リ生ジタル利益金額ノ全部又ハ一部ヲ組合員ニ對シ補償トシテ交付シ又ハ増殖施設、船溜若ハ



船揚場ノ設置ノ爲支出シタルトキハ其ノ交付金額又ハ支出金額ハ特別法人ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第八條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生シタル利益金額ノ全部又ハ一部ヲ増殖施設又ハ船揚場ノ設置ニ必要ナル資金ニ充テタルトキハ其ノ剩餘金額ヨリ控除ス

第九條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生シタル利益金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル増殖施設又ハ船揚場ノ設置ニ必要ナル資金ニ充テントストキハ當該事業年度ノ剩餘金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「増殖施設等設置留保金」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ「増殖施設等設置留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニ付之ヲ準用ス

第十條 第六條ノ規定ハ漁業協同組合ガ「増殖施設等設置留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ増殖施設又ハ船揚場ノ設置以外ノ目的ニ支出シタル場合又ハ「増殖施設等設置留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ増殖施設又ハ船揚場ノ設置ノ爲支出セズシテ解散シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條 特別法人稅法第五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヨリ國債利子ノ控除ヲ受ケントストル特別法人ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スベシ

前項ノ申請ハ特別法人稅法第十條ノ申告ト同時ニ控除ニ關スル明細書ヲ添附シテ之ヲ爲スベシ

第十二條 特別法人稅法第六條第二項ノ規定ニ依ル拂込濟出資金額ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込濟出資金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ

月數ヲ乘ジタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル  
前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

損失ノ填補ニ充ツル爲拂込濟出資金額ヲ減少シタル特別法人ノ第一項ノ拂込濟出資金額ハ其ノ減少ナカリシモノト看做シテ之ヲ計算ス

第十三條 特別法人ノ各事業年度ノ剩餘金ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄稅務署ニ申告スベシ

前項ノ申告ハ特別法人ガ分割ニ因リ解散シタル場合ニ於テハ分割ノ日ヨリ十四日以内ニ所轄稅務署ニ之ヲ爲スベシ

第十四條 稅務署長又ハ其ノ代理官特別法人稅法第十二條ノ規定ニ依リ特別法人ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スベシ

第十五條 稅務署長特別法人稅法第十三條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別法人ニ通知スベシ

第十六條 特別法人稅法第十四條ノ審査ノ請求ヲ爲サントストル特別法人ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ剩餘金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長ヲ經由シ稅務監督局長ニ申出ヅベシ

第十七條 所得稅法施行規則第七十九條ノ規定ハ特別法人稅ニ付之ヲ準用ス

第十八條 稅務監督局長特別法人稅法第十五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別法人ニ通知スベシ

附則

本令ハ特別法人稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

朝鮮特別法人稅令

昭和十五年三月三十一日  
制令第四號

改正 昭和十六年第六號、第一號  
朝鮮特別法人稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮特別法人稅令

第一條 朝鮮ニ主タル事務所ヲ有スル特別法人ハ本令ニ依リ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 本令ニ於テ特別法人トハ左ニ掲グル法人ヲ謂フ

一 金融組合及朝鮮金融組合聯合會

二 産業組合及産業組合聯合會

三 工業組合及工業組合聯合會(所屬ノ組員、組合又ハ聯合會ニシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

四 自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會(所屬ノ組員、組合又ハ聯合會ニシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

第五 商業組合及商業組合聯合會(所屬ノ組員、組合又ハ聯合會ニシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

第三條 特別法人稅ハ特別法人ノ剩餘金ニ付之ヲ賦課ス

第四條 特別法人ノ剩餘金ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

特別法人ガ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スベキ金額ハ前項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

特別法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ特別法人稅ハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

特別法人ノ各事業年度開始前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生シタル損金ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前項ノ規定スルモノノ外第一項ノ剩餘金ノ計算ニ關シテハ朝鮮總督ノ定ムル

第五條 前條ノ規定ニ依リ特別法人ノ各事業年度ノ剩餘金ヲ計算スル場合ニ於テ特別法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間分ノ利子額ノ百分之七十ニ相當スル金額ヲ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ剩餘金ヨリ控除ス

第六條 特別法人ノ前條ノ規定ニ依ル控除前ノ剩餘金額ガ其ノ拂込濟出資金額ニ對シ年百分ノ三・五ノ割合ヲ以テ算出シタル金額(五千圓ニ滿タザルトキハ之ヲ五千圓トス)ヲ超エザルトキハ特別法人稅ヲ課セズ

前項ノ拂込濟出資金額ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 特別法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第八條 合併後存續スル特別法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル特別法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル特別法人ノ剩餘金ニ付特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

分割ニ因リテ設立シタル特別法人ハ分割ニ因リテ消滅シタル特別法人ノ剩餘金又ハ分割後存續スル特別法人ノ分割前ノ剩餘金ニ付分割ニ因リテ設立シタル他ノ特別法人又ハ分割後存續スル特別法人ト連帶シテ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第九條 特別法人稅ノ稅率ハ百分ノ五トス

第十條 納稅義務アル特別法人ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書並ニ第四條及第六條第二項ノ規定ニ依リ計算シ



ニル剩餘金額及拂込濟出資金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ剩餘金額ヲ政府ニ申告スベシ

前項ノ規定ハ特別ノ法人ニ特別法人稅ヲ課スベキ剩餘金額ナキ場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條 特別ノ法人ノ剩餘金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十二條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ特別ノ法人ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ特別ノ法人ニ通知スベシ

第十四條 特別ノ法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル剩餘金額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ朝鮮所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十六條 特別法人稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十七條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ特別法人稅ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第十八條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ特別法人稅ヲ連脱シタル者ハ其ノ連脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十九條 第十二條ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ百圓以

下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 特別ノ法人ノ剩餘金額ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得シタル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 道、府邑面其ノ他ノ公共團體ハ特別法人稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

本令ニ依リ特別法人稅ノ賦課ハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リトス

附則 (昭和十六年訓令第六號)

本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム

(昭和十六年朝鮮總督府令第十五號ヲ以テ昭和十六年二月一日ヨリ施行)

●朝鮮特別法人稅令施行規則

改正 昭和十六年第六九號

朝鮮特別法人稅令施行規則左ノ通定ム

朝鮮特別法人稅令施行規則

第一條 特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル利益金ハ其ノ事業年度ノ剩餘金額ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ朝鮮特別法人稅令第四條

〔輯一二四〕

第四項ノ規定ニ該當スルモノノ外其ノ事業年度ノ剩餘金額ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第二條 朝鮮特別法人稅令第四條第四項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ剩餘金額ノ計算上損金ニ算入スベキ金額ハ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生シタル損金ニシテ其ノ後ノ事業年度ノ剩餘金額計算上損金ニ算入セラレザル金額トス

第三條 朝鮮總督ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ朝鮮特別法人稅令第四條ノ規定ニ依リ剩餘金額ノ計算上朝鮮總督ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ總益金ニ算入セズ

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第四條 産業組合、工業組合若ハ商業組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ其ノ剩餘金額中留保シタル金額ノ全部又ハ一部ヲ輸出振興ノ爲ニ必要ナル資金ニ充テタルトキハ之ヲ其ノ剩餘金額ヨリ控除ス

第五條 産業組合、工業組合若ハ商業組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ各事業年度ノ留保金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ剩餘金額ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「輸出振興留保金」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ

前項ノ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ現金、預金又ハ有價證券ノ保有ノ外之ヲ運用スルコトヲ得ズ

第一項ノ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ前項ノ方法ニ依リ運用シタルトキハ他ノ財産ト分別シテ之ヲ經理スベシ

第六條 産業組合、工業組合若ハ商業組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興以外ノ目的ニ支出シタル

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ三 特別法人稅



餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ  
第十三條 稅務官吏方朝鮮特別法人稅令第十二條ノ規定ニ依リ特別ノ法人  
ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スベシ

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

### 臺灣特別法人稅令

昭和十五年三月三十一日  
律令第三號

改正 昭和十六年第五號

臺灣特別法人稅令制定ノ件大正十年法律第三號ニ依リ勅諭ヲ得テ茲ニ之ヲ  
公布ス

臺灣特別法人稅令

第一條 臺灣ニ主タル事務所ヲ有スル特別ノ法人ハ本令ニ依リ特別法人稅

〔轉一二三〕

〔轉一二三〕

ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 本令ニ於テ特別ノ法人トハ左ニ掲グル法人ヲ謂フ

一 産業組合

二 漁業協同組合

三 自動車運送事業組合及自動車運送事業組合聯合會(所屬ノ組合員、  
組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

第三條 特別法人稅ハ特別ノ法人ノ剩餘金ニ付テ之ヲ賦課ス

第四條 特別ノ法人ノ剩餘金ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタ  
ル金額ニ依ル

特別ノ法人ガ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當  
スベキ金額ハ前項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

特別ノ法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ特別法人稅ハ  
第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

特別ノ法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於  
テ生シタル損金ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノハ第一項ノ剩餘金ノ計算上  
之ヲ損金ニ算入ス

前項ノ規定スルモノノ外第一項ノ剩餘金ノ計算ニ關シテハ臺灣總督之  
ヲ定ム

第五條 前條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ヲ計算スル場  
合ニ於テ特別ノ法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ  
所有シタル期間分ノ利子額ノ百分ノ七十二相當スル金額ヲ臺灣總督ノ定  
ムル所ニ依リ其ノ剩餘金ヨリ控除ス

第六條 前條ノ規定ニ依リ控除前ノ剩餘金額ガ其ノ拂込濟出資金額ニ對シ  
年百分ノ三ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超エザルトキハ特別法人稅ヲ  
課セズ

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ三 特別法人稅

前項ノ拂込濟出資金額ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 特別ノ法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場  
合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一  
事業年度ト看做ス

第八條 合併後存續スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル特別ノ法  
人ハ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金ニ付テ特別法人稅ヲ納ム  
ル義務アルモノトス

分割ニ因リテ設立シタル特別ノ法人ハ分割ニ因リテ消滅シタル特別ノ法  
人ノ剩餘金又ハ分割後存續スル特別ノ法人ノ分割前ノ剩餘金ニ付テ分割ニ  
因リテ設立シタル他ノ特別ノ法人又ハ分割後存續スル特別ノ法人ト連帶  
シテ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前二項ノ規定ハ合併若ハ分割後存續スル法人又ハ合併若ハ分割ニ因リテ  
設立シタル法人ガ特別ノ法人ニ非ザル場合ニ付テ之ヲ準用ス

第九條 特別法人稅ノ稅率ハ百分ノ五トス

第十條 納稅義務アル特別ノ法人ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、  
貸借對照表、損益計算書並ニ第四條及第六條第二項ノ規定ニ依リ計算シ  
タル剩餘金額及拂込濟出資金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ剩餘金ヲ政府ニ申  
告スベシ

前項ノ規定ハ特別ノ法人ニ特別法人稅ヲ課スベキ剩餘金ナキ場合ニ付之  
ヲ準用ス

第十一條 特別ノ法人ノ剩餘金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ  
申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十二條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ特別ノ法人ニ質問ヲ爲シ又ハ



其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ剩餘金額ヲ決定シタルトキ

ハ政府ハ之ヲ特別ノ法人ニ通知スベシ

第十四條 特別法人稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十五條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ特別法人稅ヲ納付セズシテ殘

餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アル

モノトス

第十六條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ特別法人稅ノ通脫ヲ圖リ又ハ通脫

シタル者ハ其ノ通脫シ又ハ通脫セントシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金

又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シ又ハ稅務官署ニ申出テ

タル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十七條 第十二條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ、妨

グ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓

以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條 特別ノ法人ノ剩餘金ノ調査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其

ノ調査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百

圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第

三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三

條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ

第二十條 州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ特別法人稅ノ附加稅ヲ課スル

コトヲ得ズ

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

本令ニ依ル特別法人稅ノ賦課ハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄

ニ終了スル事業年度分限リトス

臺灣特別法人稅令施行規則

昭和十五年四月一日 臺灣總督府令第四十九號

臺灣特別法人稅令施行規則左ノ通定ム

第一條 臺灣特別法人稅令施行規則

第二條 特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損益金ハ其ノ事業年度ノ剩

餘金ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損益金ハ臺灣特別法人稅令第四條

第四項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上損益金ニ

之ヲ算入セズ

第三條 特別ノ法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年

度ニ於テ生シタル損益金ニシテ其ノ損益金ノ生シタル事業年度以後ノ事業年

度ノ剩餘金ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ臺灣特別

法人稅令第四條第四項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ剩餘金ノ計算上損益金ニ

之ヲ算入ス

第四條 臺灣總督ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ特別ノ法人ノ剩餘金ノ計

算上臺灣總督ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金ニ算入セズ

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ臺灣總督之ヲ告示ス

第五條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生シタル利益金額ノ

書ヲ添附シテ之ヲ爲スベシ

第九條 臺灣特別法人稅令第六條第二項ノ規定ニ依リ拂込濟出資金額ハ各

事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込濟出資金額ノ月割平均額ニ當該事業年度

ノ月數ヲ乘シタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依リ

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生シタルトキハ

之ヲ一月トス

損失ノ填補ニ充ツル爲拂込濟出資金額ヲ減少シタル特別ノ法人ノ第一項

ノ拂込濟出資金額ハ其ノ減少ナカリシモノト看做シテ之ヲ計算ス

第十條 特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ

合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄稅

務官署ニ申告スベシ

前項ノ申告ハ特別ノ法人ガ分割ニ因リ解散シタル場合ニ於テハ分割ノ日

ヨリ十四日以内ニ所轄稅務官署ニ之ヲ爲スベシ

第十一條 稅務官吏臺灣特別法人稅令第十二條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ

帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ臺灣所得稅令施行規則第五十一

條ニ定ムル様式ノ検査章ヲ携帯スベシ

第十二條 知事又ハ廳長臺灣特別法人稅令第十三條ノ規定ニ依リ剩餘金額

ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

附則

本令ハ臺灣特別法人稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ剩餘金額ヲ決定シタルトキ

ハ政府ハ之ヲ特別ノ法人ニ通知スベシ

第十四條 特別法人稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十五條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ特別法人稅ヲ納付セズシテ殘

餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アル

モノトス

第十六條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ特別法人稅ノ通脫ヲ圖リ又ハ通脫

シタル者ハ其ノ通脫シ又ハ通脫セントシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金

又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シ又ハ稅務官署ニ申出テ

タル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十七條 第十二條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ、妨

グ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓

以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十八條 特別ノ法人ノ剩餘金ノ調査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其

ノ調査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百

圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第

三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三

條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ

第二十條 州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ特別法人稅ノ附加稅ヲ課スル

コトヲ得ズ

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

本令ニ依ル特別法人稅ノ賦課ハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄

ニ終了スル事業年度分限リトス

臺灣特別法人稅令施行規則

昭和十五年四月一日 臺灣總督府令第四十九號

臺灣特別法人稅令施行規則左ノ通定ム

第一條 臺灣特別法人稅令施行規則

第二條 特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損益金ハ其ノ事業年度ノ剩

餘金ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損益金ハ臺灣特別法人稅令第四條

第四項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上損益金ニ

之ヲ算入セズ

第三條 特別ノ法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年

度ニ於テ生シタル損益金ニシテ其ノ損益金ノ生シタル事業年度以後ノ事業年

度ノ剩餘金ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ臺灣特別

法人稅令第四條第四項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ剩餘金ノ計算上損益金ニ

之ヲ算入ス

第四條 臺灣總督ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ特別ノ法人ノ剩餘金ノ計

算上臺灣總督ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金ニ算入セズ

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ臺灣總督之ヲ告示ス

第五條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生シタル利益金額ノ

書ヲ添附シテ之ヲ爲スベシ

第九條 臺灣特別法人稅令第六條第二項ノ規定ニ依リ拂込濟出資金額ハ各

事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込濟出資金額ノ月割平均額ニ當該事業年度

ノ月數ヲ乘シタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依リ

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生シタルトキハ

之ヲ一月トス

損失ノ填補ニ充ツル爲拂込濟出資金額ヲ減少シタル特別ノ法人ノ第一項

ノ拂込濟出資金額ハ其ノ減少ナカリシモノト看做シテ之ヲ計算ス

第十條 特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ

合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄稅

務官署ニ申告スベシ

前項ノ申告ハ特別ノ法人ガ分割ニ因リ解散シタル場合ニ於テハ分割ノ日

ヨリ十四日以内ニ所轄稅務官署ニ之ヲ爲スベシ

第十一條 稅務官吏臺灣特別法人稅令第十二條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ

帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ臺灣所得稅令施行規則第五十一

條ニ定ムル様式ノ検査章ヲ携帯スベシ

第十二條 知事又ハ廳長臺灣特別法人稅令第十三條ノ規定ニ依リ剩餘金額

ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

附則

本令ハ臺灣特別法人稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス



●樺太特別法人稅令

昭和十五年三月三十一日  
勅令第百八十號

改正 昭和十五年第六二三號

朕樺太特別法人稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、拓務大臣副署)

樺太特別法人稅令

- 第一條 樺太ニ主タル事務所ヲ有スル特別ノ法人ハ本令ニ依リ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 第二條 本令ニ於テ特別ノ法人トハ左ニ掲グル法人ヲ謂フ
  - 一 産業組合及産業組合聯合會
  - 二 漁業協同組合及漁業組合聯合會
  - 三 商業組合及商業組合聯合會(所屬ノ組員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)
- 第三條 特別法人稅ハ特別ノ法人ノ剩餘金ニ付之ヲ賦課ス但シ貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セズ
- 第四條 特別ノ法人ノ剩餘金ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル
  - 特別ノ法人ガ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スベキ金額ハ前項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス
  - 特別ノ法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ特別法人稅ハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ
  - 特別ノ法人ノ各事業年度開始前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生シタル損金ニシテ樺太廳長官ノ定ムルモノハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前三項ニ規定スルモノノ外第一項ノ剩餘金ノ計算ニ關シテハ樺太廳長官之ヲ定ム

- 第五條 前條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ヲ計算スル場合ニ於テ特別ノ法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間分ノ利子額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ剩餘金ヨリ控除ス
- 第六條 特別ノ法人ノ前條ノ規定ニ依ル控除前ノ剩餘金額ガ其ノ拂込濟出資金額ニ對シテ年百分ノ三ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超エザルトキハ特別法人稅ヲ課セズ
- 第七條 前項ノ拂込濟出資金額ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス
- 第七條 特別ノ法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス
- 第八條 合併後存續スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル特別ノ法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金ニ付特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 第九條 合併後存續スル特別ノ法人ハ分割ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金又ハ分割後存續スル特別ノ法人ノ分割前ノ剩餘金ニ付分割ニ因リテ設立シタル他ノ特別ノ法人又ハ分割後存續スル特別ノ法人ト連帶シテ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス
- 前二項ノ規定ハ合併若ハ分割後存續スル法人又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立シタル法人ガ特別ノ法人ニ非ザル場合ニ付之ヲ準用ス
- 第九條 特別法人稅ノ稅率ハ百分ノ五トス
- 第十條 納稅義務アル特別ノ法人ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書並ニ第四條及第六條第二項ノ規定ニ依リ計

【轉一一五】

【轉一一七】

算シタル剩餘金額及拂込濟出資金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ剩餘金ヲ政府ニ申告スベシ

- 前項ノ規定ハ特別ノ法人ニ特別法人稅ヲ課スベキ剩餘金ナキ場合ニ付之ヲ準用ス
- 第十一條 特別ノ法人ノ剩餘金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス
- 第十二條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ特別ノ法人ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得
- 第十三條 第十一條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ特別ノ法人ニ通知スベシ
- 第十四條 特別ノ法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル剩餘金額ニ對シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 第十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ樺太所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス
- 第十六條 樺太所得稅令第四十二條ノ三第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス
- 第十七條 特別法人稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス
- 第十八條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ特別法人稅ヲ納付セズシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス
- 第十九條 市町村ハ特別法人稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ
- 第二十條 本令ニ定ムルモノノ外特別法人稅ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則  
本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス  
本令ニ依ル特別法人稅ノ賦課ハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リトス

●樺太特別法人稅令施行規則

昭和十五年三月三十一日  
樺太廳令第三十四號

改正 昭和十五年第一〇三號

樺太特別法人稅令施行規則左ノ通定ム

- 第一條 特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金ハ其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ
- 特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ樺太特別法人稅令第四條第四項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ
- 第二條 特別ノ法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生シタル損金ニシテ其ノ損金ノ生シタル事業年度以後ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ樺太特別法人稅令第四條第四項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス
- 第三條 樺太廳長官ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ特別ノ法人ノ剩餘金ノ計算上樺太廳長官ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金ニ算入セズ



前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ樺太廳長官之ヲ告示ス

第四條 產業組合、商業組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ其ノ剩餘金中留保シタル金額ノ全部又ハ一部ヲ輸出振興ノ爲ニ必要ナル資金ニ充テタルトキハ之ヲ其ノ剩餘金額ヨリ控除ス

第五條 產業組合、商業組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ各事業年度ノ留保金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル輸出振興ノ爲ニ必要ナル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ剩餘金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「輸出振興留保金」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ

前項ノ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ現金、預金又ハ有價證券ノ外之ヲ運用スルコトヲ得ズ

第一項ノ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ他ノ財産ト分別シテ之ヲ計理スベシ

第六條 產業組合、商業組合又ハ此等ノ組合ノ聯合會ガ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興以外ノ目的ニ支出シタルトキ又ハ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興ノ爲ニ支出セズシテ解散シタルトキハ其ノ支出金又ハ繰入金ニ相當スル金額ヲ支出ノ日又ハ解散ノ日ノ屬スル事業年度ノ益金ニ算入ス

第七條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生シタル利益金額ノ全部又ハ一部ヲ組合員ニ對シ補償トシテ交付シ又ハ増殖施設、船溜若ハ船揚場ノ設置ノ爲ニ支出シタルトキハ其ノ交付金額又ハ支出金額ハ特別ノ法人ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第八條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生シタル利益金額ノ全部又ハ一部ヲ増殖施設又ハ船溜若ハ船揚場ノ設置ニ必要ナル資金ニ充

テタルトキハ其ノ剩餘金額ヨリ控除ス

第九條 漁業協同組合ガ漁業權ノ拋棄又ハ讓渡ニ因リ生シタル利益金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル増殖施設又ハ船溜若ハ船揚場ノ設置ニ必要ナル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ剩餘金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「増殖施設等設置留保金」勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ

第五條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ「増殖施設等設置留保金」勘定ニ繰入レタル金額ニ付之ヲ準用ス

第十條 第六條ノ規定ハ漁業協同組合ガ「増殖施設等設置留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ増殖施設又ハ船溜若ハ船揚場ノ設置以外ノ目的ニ支出シタル場合又ハ「増殖施設等設置留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ増殖施設又ハ船溜若ハ船揚場ノ設置ノ爲ニ支出セズシテ解散シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第十一條 樺太特別法人稅令第五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヨリ國債利子ノ控除ヲ受ケントスル特別ノ法人ハ其ノ旨所轄樺太廳支廳長ニ申請スベシ

第十二條 樺太特別法人稅令第六條第二項ノ規定ニ依リ拂込濟出資金額ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込濟出資金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘シタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生シタルトキハ之ヲ一月トス

第十三條 特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算着手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

前項ノ申告ハ特別ノ法人ガ分割ニ因リ解散シタル場合ニ於テハ分割ノ日ヨリ十四日以内ニ所轄樺太廳支廳長ニ之ヲ爲スベシ

第十四條 稅務官吏樺太特別法人稅令第十二條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スベシ

第十五條 樺太廳支廳長樺太特別法人稅令第十三條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

第十六條 樺太特別法人稅令第十四條ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル特別ノ法人ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ剩餘金額ノ決定ヲ爲シタル樺太廳支廳長ヲ經由シ樺太廳長官ニ申出ヅベシ

第十七條 樺太所得稅令施行規則第三十三條ノ六ノ規定ハ特別法人稅ニ付之ヲ準用ス

第十八條 樺太廳長官樺太特別法人稅令第十五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ特別法人稅ヲ遁脱シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徴收ス但シ自首シ又ハ樺太廳支廳長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第二十條 樺太特別法人稅令第十二條ノ規定ニ依ル帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ隠避シ又ハ虚偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條 特別ノ法人ノ剩餘金ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事

關東州特別法人稅令

昭和十六年三月二十九日 勅令第二百九十六號 (總理大臣副署)

關東州特別法人稅令 關東州特別法人稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 關東州ニ主タル事務所ヲ有スル特別ノ法人ハ本令ニ依リ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 本令ニ於テ特別ノ法人トハ左ニ掲グル法人ヲ謂フ 一 實業組合及實業組合聯合會

シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得シタル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 第十九條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第二十三條 本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第十五條及第十八條ノ規定ヲ除クノ外租稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

附則 本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

本令ニ依リ特別法人稅ノ賦課ハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リトス



二 金融組合及金融組合聯合會

第三條 特別法人稅ハ特別ノ法人ノ剩餘金ニ付テハ賦課ス

第四條 特別ノ法人ノ剩餘金ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

特別ノ法人ガ取扱ヒタル物ノ數量、價額其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スベキ金額ハ前項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

特別ノ法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ特別法人稅ハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

特別ノ法人ノ各事業年度開始前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生シタル損金ニシテ滿洲國駐劄特命全權大使ノ定ムルモノハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

前三項ニ規定スルモノノ外第一項ノ剩餘金ノ計算ニ關シテハ大使之ヲ定ム

第五條 前條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ヲ計算スル場合ニ於テ特別ノ法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間分ノ利子額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ大使ノ定ムル所ニ依リ其ノ剩餘金ヨリ控除ス

第六條 特別ノ法人ノ前條ノ規定ニ依リ控除前ノ剩餘金額ガ其ノ拂込濟出資金額ニ對シテ百分ノ三ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超エザルトキハ特別法人稅ヲ課セズ

前項ノ拂込濟出資金額ハ大使ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 特別ノ法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一

事業年度ト看做ス

第八條 合併後存續スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル特別ノ法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金ニ付テ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

分割ニ因リテ設立シタル特別ノ法人ハ分割ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金又ハ分割後存續スル特別ノ法人ノ分割前ノ剩餘金ニ付テ分割ニ因リテ設立シタル他ノ特別ノ法人又ハ分割後存續スル特別ノ法人ト連帶シテ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前二項ノ規定ハ合併若ハ分割後存續スル法人又ハ合併若ハ分割ニ因リテ設立シタル法人ガ特別ノ法人ニ非ザル場合ニ付テハ準用ス

第九條 特別法人稅ノ稅率ハ百分ノ三トス

第十條 納稅義務アル特別ノ法人ハ大使ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書並ニ第四條及第六條第二項ノ規定ニ依リ計算シタル剩餘金額及拂込濟出資金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ剩餘金ヲ政府ニ申告スベシ

前項ノ規定ハ特別ノ法人ニ特別法人稅ヲ課スベキ剩餘金ナキ場合ニ付テハ準用ス

第十一條 特別ノ法人ノ剩餘金額ハ前條ノ申告ニ依リ申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十二條 稅務署長若ハ民政署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ特別ノ法人ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ剩餘金額ヲ決定シタルトキ

ル者ニ付テハ之ヲ通用セズ

第十四條 市、會其ノ他ノ公共團體ハ特別法人稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則

本令ハ昭和十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十六年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

本令ニ依リ特別法人稅ノ賦課ハ支那事變終了ノ年ノ翌年十二月三十一日迄ニ終了スル事業年度分限リトス

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則

關東州特別法人稅令施行規則



人ノ剩餘金ノ計算上大使ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金ニ算入セズ

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ大使之ヲ告示ス

第四條 實業組合又ハ實業組合聯合會ガ其ノ剩餘金中留保シタル金額ノ全部又ハ一部ヲ輸出振興ノ爲必要ナル資金ニ充テタルトキハ之ヲ其ノ剩餘金額ヨリ控除ス

第五條 實業組合又ハ實業組合聯合會ガ各事業年度ノ留保金額ノ全部又ハ一部ヲ前條ニ定ムル輸出振興ノ爲必要ナル資金ニ充テントスルトキハ當該事業年度ノ剩餘金ノ處分ニ當リ其ノ金額ヲ確定シ之ヲ「輸出振興留保金」(勘定(貸方勘定)ニ繰入ルベシ

前項ノ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ現金、預金又ハ有價證券ノ外之ヲ運用スルコトヲ得ズ

第一項ノ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ハ他ノ財産ト分別シテ之ヲ計理スベシ

第六條 實業組合又ハ實業組合聯合會ガ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興以外ノ目的ニ支出シタルトキ又ハ「輸出振興留保金」勘定ニ繰入レタル金額ヲ輸出振興ノ爲支出セズシテ解散シタルトキハ其ノ支出金又ハ繰入金ニ相當スル金額ヲ支出ノ日又ハ解散ノ日ノ屬スル事業年度ノ益金ニ算入ス

第七條 稅令第五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヨリ國債利子ノ控除ヲ受ケントスル特別ノ法人ハ其ノ旨所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申請スベシ

前項ノ申請ハ稅令第十條ノ申告ト同時ニ控除ニ關スル明細書ヲ添附シテ之ヲ爲スベシ

第八條 稅令第六條第二項ノ規定ニ依リ拂込濟出資金額ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込濟出資金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘シタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

損失ノ填補ニ充ツル爲拂込濟出資金額ヲ減少シタル特別ノ法人ノ第一項ノ拂込濟出資金額ハ其ノ減少ナカリシモノト看做シテ之ヲ計算ス

第九條 特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告スベシ

前項ノ申告ハ特別ノ法人ガ分割ニ因リ解散シタル場合ニ於テハ分割ノ日ヨリ十四日以内ニ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ之ヲ爲スベシ

第十條 稅務署長若ハ民政署長又ハ其ノ代理官稅令第十二條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ關東州所得稅令施行規則第七十六條ノ規定ニ依リ検査ヲ携帶スベシ

第十一條 稅務署長又ハ民政署長稅令第十三條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

第十二條 稅令第十四條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル特別ノ法人ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ剩餘金額ノ決定ヲ爲シタル稅務署長又ハ民政署長ヲ經由シ關東州廳長官ニ申出ズベシ

第十三條 關東州廳長官稅令第十五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

〔輯一二五〕

〔輯一二五〕

### 南洋群島特別法人稅令

昭和十五年三月三十一日  
勅令第九十三號

(總理、拓務  
大臣副署)

本令ハ關東州特別法人稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
本令ハ昭和十六年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

南洋群島特別法人稅令

第一條 南洋群島ニ主タル事務所ヲ有スル特別ノ法人ハ本令ニ依リ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 本令ニ於テ特別ノ法人トハ左ニ掲グル法人ヲ謂フ

一 產業組合  
二 實業組合及實業組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ケ)

第三條 特別法人稅ハ特別ノ法人ノ剩餘金ニ付之ヲ賦課ス但シ貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セズ

第四條 特別ノ法人ノ剩餘金ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

特別ノ法人ガ取扱ヒタル物ノ數量、價格其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配當スベキ金額ハ前項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

特別ノ法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ特別法人稅ハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

特別ノ法人ノ各事業年度開始前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ南洋廳長官ノ定ムルモノハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之

ヲ損金ニ算入ス  
前三項ニ規定スルモノノ外第一項ノ剩餘金ノ計算ニ關シテハ南洋廳長官ノ之ヲ定ム

第五條 前條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ヲ計算スル場合ニ於テ特別ノ法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間分ノ利子額ノ百分之七十二ニ相當スル金額ヲ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ剩餘金ヨリ控除ス

第六條 特別ノ法人ノ前條ノ規定ニ依リ控除前ノ剩餘金額ガ其ノ拂込濟出資金額ニ對シテ年百分ノ三ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超エザルトキハ特別法人稅ヲ課セズ

第七條 特別ノ法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第八條 合併後存續スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル特別ノ法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金ニ付特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第九條 特別法人稅ノ稅率ハ百分ノ三・三トス

第十條 納稅義務アル特別ノ法人ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ財産目錄、貸借對照表、損益計算書並ニ第四條及第六條第二項ノ規定ニ依リ計算シタル剩餘金額及拂込濟出資金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ剩餘金ヲ政府ニ申告スベシ

前項ノ規定ハ特別ノ法人ニ特別法人稅ヲ課スベキ剩餘金ナキ場合ニ付之



ヲ準用ス

第十一條 特別ノ法人ノ剩餘金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十二條 當該官吏ハ調査上必要アルトキハ特別ノ法人ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ特別ノ法人ニ通知スベシ

第十四條 特別ノ法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル剩餘金額ニ對シノ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ南洋群島所得稅令ノ所得審査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

南洋群島所得稅令第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 特別法人稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十七條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ特別法人稅ヲ納付セズシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第十八條 本令ニ定ムルモノノ外特別法人稅ニ關シ必要ナル規定ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

### ●南洋群島特別法人稅令施行規則

昭和十五年四月一日  
南洋廳令第八號

南洋群島特別法人稅令施行規則左ノ通定ム

南洋群島特別法人稅令施行規則

第一條 特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル利益金ハ其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ南洋群島特別法人稅令(以下特別法人稅令ト稱ス)第四條第四項ニ規定スルモノヲ除クノ外其ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第二條 特別ノ法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ損金ノ生ジタル事業年度以後ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ特別法人稅令第四條第四項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第三條 南洋廳長官ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ特別ノ法人ノ剩餘金ノ計算上南洋廳長官ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金ニ算入セズ

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ南洋廳長官之ヲ告示ス

第四條 特別法人稅令第五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヨリ國債利子ノ控除ヲ受ケントスル特別ノ法人ハ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

前項ノ申請ハ特別法人稅令第十條ノ申告ト同時ニ控除ニ關スル明細書ヲ添附シテ之ヲ爲スベシ

〔輯一二五〕

〔輯一一一〕

第五條 特別法人稅令第六條第二項ノ規定ニ依リ拂込濟出資金額ハ各事業年度ノ各月末ニ於ケル拂込濟出資金額ノ月割平均額ニ當該事業年度ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

損失ノ填補ニ充ツル爲拂込濟出資金額ヲ減少シタル特別ノ法人ノ第一項ノ拂込濟出資金額ハ其ノ減少ナカリシモノト看做シテ之ヲ計算ス

第六條 特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ハ每事業年度決算確定ノ日若ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算著手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ

第七條 當該官吏特別法人稅令第十二條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ南洋群島所得稅令施行規則別表ニ定ムル検査章ヲ携帶スベシ

第八條 支廳長特別法人稅令第十三條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

第九條 特別法人稅令第十四條ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル特別ノ法人ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添へ剩餘金額ノ決定ヲ爲シタル支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ申出ヅベシ

第十條 南洋群島所得稅令施行規則第五十五條ノ規定ハ特別法人稅ニ付之ヲ準用ス

第十一條 南洋廳長官特別法人稅令第十五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知ス

第十二條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ特別法人稅ノ遁脫ヲ圖リ又ハ遁脫

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ三 特別法人稅

シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ税金ヲ追徴ス但シ自首シタル者又ハ當該官吏ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十三條 特別法人稅令第十二條ノ規定ニ依リ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 特別法人稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 大正十一年勅令第二百號第一條ノ規定ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條 本令中支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第八條ノ規定ヲ除クノ外支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第十七條 本令ノ規定ニ依リ支廳長ニ提出スベキ申告書又ハ支廳長ヲ經由シテ南洋廳長官ニ提出スベキ申請書ハ支廳出張所ノ管轄區域内ニ在リテハ所轄支廳出張所長ニ之ヲ提出スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行ノ日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス



### 第四款ノ四 配當利子特別稅

#### ●配當利子特別稅法

昭和十五年三月二十九日  
法律第二十七號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル配當利子特別稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム  
(總理、大藏大臣副署)

#### 配當利子特別稅法

- 第一條 本法施行地ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者及本法施行地ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ配當利子特別稅ヲ課ス
- 第二條 配當利子特別稅ハ利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付之ヲ賦課ス
- 第三條 利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル
- 第四條 左ニ掲グル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニハ配當利子特別稅ヲ課セズ

一 所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ノ受クル利益ノ配當又ハ其ノ所有ニ屬スル公債若ハ社債ノ利子

二 配當率年一割以下ノ利益ノ配當

三 利率年四分以下ノ國債ノ利子又ハ利率年四分五厘以下ノ國債以外ノ公債若ハ社債ノ利子

四 外貨債特別稅法第一條第二項ニ規定スル外貨債ノ利子

第五條 配當利子特別稅ノ稅率左ノ如シ

一 利益ノ配當

配當金中配當率年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五

二 公債又ハ社債ノ利子

甲 國債

利子金額中利率年四分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五

乙 國債以外ノ公債又ハ社債

利子金額中利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五

第六條 配當利子特別稅ハ配當又ハ利子支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第七條 前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ配當利子特別稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ配當又ハ

〔輯一〇九〕

#### ●配當利子特別稅法施行規則

昭和十五年三月三十一日  
勅令第三百三十七號

朕配當利子特別稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、大藏大臣副署)

#### 配當利子特別稅法施行規則

第一條 配當利子特別稅法第四條第一號ノ規定ニ依リ配當利子特別稅ヲ課セラレザル者無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ、讓渡シ又ハ喪失シタルトキハ其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱者ニ通知スベシ但シ所得稅法施行規則第九十八條ノ規定ニ依リ通知ヲ爲シタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第二條 配當又ハ利子ノ支拂者配當利子特別稅法第六條ノ規定ニ依リ配當利子特別稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ拂込書及計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行ノ本店、支店又ハ代理店ニ拂込ムベシ

#### 附則

本令ハ配當利子特別稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

#### ●配當利子特別稅法施行細則

昭和十五年四月一日  
大藏省令第十一號

配當利子特別稅法施行細則左ノ通定ム

#### 配當利子特別稅法施行細則

第一條 配當利子特別稅法施行規則第二條ノ規定ニ依リ拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式ニ依リ調製スベシ

利子ノ支拂者ヨリ之ヲ徵收ス

第八條 稅務署長又ハ其ノ代理官ハ調査上必要アルトキハ利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ對シ質問スルコトヲ得

第九條 所得稅法第八十六條ノ規定ハ配當利子特別稅ニ付之ヲ準用ス

第十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ配當利子特別稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シ又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十一條 配當又ハ利子ノ支拂ヲ爲スト認ムル者第八條ノ規定ニ依ル稅務署長又ハ其ノ代理官ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十二條 第十條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第十三條 配當利子特別稅ヲ課セルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ配當利子特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

#### 附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

支那事變特別稅法ニ依リ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ課スル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付テハ當該利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ配當利子特別稅ト看做シ第十三條ノ規定ヲ適用ス



第二條 日本銀行ニ於テ配當利子特別稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歳入徴收官ニ送付スベシ

第三條 配當利子特別稅ノ過誤納アリタル爲之ガ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スベシ

附則 本令ハ配當利子特別稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙適宜輪廓縱四寸五分 横三寸三分)

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	配當利子特別稅	何稅務署
圓 Y		
頭書ノ金額拂込候也		
何縣何郡何町何番地		
何會社 代表者 何 某團		
(其ノ他之ニ準ズ)		
日本銀行何店宛		
昭和何年何月何日		

備考 本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スベシ

第二號書式(用紙適宜輪廓縱四寸五分 横三寸三分二枚接續)

第何號	何年度	大藏省主管
租稅	配當利子特別稅	何稅務署
何縣何郡何町何番地		
何會社 代表者 何 某納		
(其ノ他之ニ準ズ)		
圓 Y		
昭和何年何月何日領收		
日本銀行何店宛		
何稅務署長官氏名殿		

領收證書

第何號	何年度	配當利子特別稅
何縣何郡何町何番地		
何會社 代表者 何 某納		
(其ノ他之ニ準ズ)		
圓 Y		
昭和何年何月何日領收		
日本銀行何店宛		

備考 日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

備考

一、支拂フべき金額ノ額ニハ其ノ月ニ於テ支拂フべきキコトノ確定シタル金額ノ前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲グルモノトス  
 二、非課稅ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

區分	支拂フべき金額	昭和何年何月何日		課稅	支拂未済金額	稅額	所轄稅務署	何稅務署	摘要
		課稅	非課稅						
何公債利子		四分又ハ一分割以下	四分又ハ一分割						
何社債利子									
配當									
計									

第三號書式(用紙縱五寸五分 横八寸五分)

昭和何年何月何日

何縣、何市町村又ハ何會社



### ●朝鮮利益配當稅令

昭和十五年三月三十一日  
制令第七號

朝鮮利益配當稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

#### 朝鮮利益配當稅令

- 第一條 朝鮮ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニハ本令ニ依リ利益配當稅ヲ課ス
- 第二條 利益配當稅ハ利益ノ配當ニ付之ヲ賦課ス
- 第三條 利益ノ配當ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル
- 第四條 左ニ掲グル利益ノ配當ニハ利益配當稅ヲ課セズ
  - 一 朝鮮所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ノ受クル利益ノ配當
  - 二 配當率年一割以下ノ利益ノ配當
- 第五條 利益配當稅ハ配當金中配當率年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ニ百分ノ十五ヲ乘シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス
- 第六條 利益配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ
- 第七條 前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ利益配當稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ配當金ノ支拂者ヨリ之ヲ徵收ス
- 第八條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ利益ノ配當ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スル

#### コトヲ得

- 第九條 朝鮮所得稅令第六十五條ノ規定ハ利益配當稅ニ付之ヲ準用ス
- 第十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ利益配當稅ヲ遺脱シタル者ハ其ノ遺脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ
- 第十一條 第八條ノ規定ニ依リ稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者、帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第十二條 道、府邑面其ノ他ノ公共團體ハ利益配當稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ
- 第十三條 利益配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當ニ付所得稅（第一種所得稅ヲ除ク）又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額ヨリ利益配當稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額ト看做ス
- 前項ノ規定ハ臺灣、關東州若ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ利益配當稅、配當利子特別稅法ニ依リ配當利子特別稅又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ超過配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當ニ付之ヲ準用ス

#### 附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス  
朝鮮支那事變特別稅令、支那事變特別稅法又ハ南洋群島利益配當稅令ニ依リ利益配當稅ヲ課スル利益ノ配當ニ付テハ當該利益配當稅ヲ第十三條第一項ノ利益配當稅ト看做シ同條同項ノ規定ヲ適用ス

〔輯一一一〕

### ●朝鮮利益配當稅令施行規則

昭和十五年三月三十一日  
朝鮮總督府令第五十二號

朝鮮利益配當稅令施行規則左ノ通定ム

#### 朝鮮利益配當稅令施行規則

- 第一條 朝鮮利益配當稅令第六條ノ規定ニ依リ配當ノ支拂者利益配當稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書又ハ朝鮮總督府選信官署現金受拂規則第八號書式ノ納付書ニ第三號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ選信官署ニ拂込ムベシ
- 第二條 日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ選信官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ利益配當稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式又ハ朝鮮總督府選信官署現金受拂規則第八號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ第二號書式又ハ朝鮮總督府選信官署現金受拂規則第八號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歳入徵收官ニ送付スベシ
- 第三條 第一條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲シタル利益配當稅ニ付過誤納アリタル爲之ガ下戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ配當ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スベシ
- 第四條 稅務官吏ガ朝鮮利益配當稅令第八條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帶スベシ

#### 附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（書式省略）

〔輯一一二〕

### ●朝鮮公債及社債利子稅令

昭和十五年三月三十一日  
制令第八號

朝鮮公債及社債利子稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

#### 朝鮮公債及社債利子稅令

- 第一條 朝鮮ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本令ニ依リ公債及社債利子稅ヲ課ス
- 第二條 公債及社債利子稅ハ公債又ハ社債ノ利子ニ付之ヲ賦課ス
- 第三條 公債又ハ社債ノ利子ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル
- 第四條 左ニ掲グル公債又ハ社債ノ利子ニハ公債及社債利子稅ヲ課セズ
  - 一 朝鮮所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル公債又ハ社債ノ利子
  - 二 利率年四分以下ノ國債ノ利子又ハ利率年四分五厘以下ノ國債以外ノ公債若ハ社債ノ利子
  - 三 朝鮮外貨債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貨債ノ利子
- 第五條 公債及社債利子稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス
  - 甲 國債ノ利子
    - 一 利子金額中利率年四分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五
    - 乙 國債以外ノ公債又ハ社債ノ利子
      - 一 利子金額中利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五

七二〇ノ六ノ三



第六條 公債及社債利子稅ハ利子支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第七條 前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ公債及社債利子稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ利子ノ支拂者ヨリ之ヲ徵收ス

第八條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ公債若ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

第九條 朝鮮所得稅令第六十五條ノ規定ハ公債及社債利子稅ニ付之ヲ準用ス

第十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ公債及社債利子稅ヲ通脱シタル者ハ其ノ通脱シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十一條 第八條ノ規定ニ依リ稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者、帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十二條 道、府邑而其ノ他ノ公共團體ハ公債及社債利子稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十三條 公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ公債及社債利子稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス  
前項ノ規定ハ臺灣、關東州若ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ公債及社債利子

稅又ハ配當利子特別稅法ニ依リ配當利子特別稅ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付之ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮公債及社債利子稅令施行規則

昭和十五年三月三十一日  
朝鮮總督府令第五十三號

朝鮮公債及社債利子稅令施行規則左ノ通定ム

第一條 朝鮮公債及社債利子稅令第六條ノ規定ニ依リ利子ノ支拂者公債及社債利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書又ハ朝鮮總督府選信官署現金受拂規則第八號書式ノ納付書ニ第三號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ選信官署ニ拂込ムベシ

第二條 日本銀行代理店又ハ國庫金ヲ取扱フ選信官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ公債及社債利子稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式又ハ朝鮮總督府選信官署現金受拂規則第八號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ第二號書式又ハ朝鮮總督府選信官署現金受拂規則第八號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スベシ

第三條 第一條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲シタル公債及社債利子稅ニ付過誤納アリタル爲之ガ下戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スベシ

ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(書式省略)

臺灣配當稅令

昭和十五年三月三十一日  
律令第二號

臺灣配當稅令制定ノ件大正十年法律第三號ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

臺灣配當稅令

第一條 臺灣ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益又ハ利息ノ配當ヲ受ケル者ニハ本令ニ依リ配當稅ヲ課ス

第二條 配當稅ハ法人ヨリ受ケル利益又ハ利息ノ配當ニ付之ヲ賦課ス

第三條 利益又ハ利息ノ配當ハ其ノ支拂ヲ受ケベキ金額ヨリ其ノ十分ノ一ヲ控除シタル金額ニ依ル

第四條 左ニ掲ゲル者ノ受ケル利益又ハ利息ノ配當ニハ配當稅ヲ課セズ  
一 臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者  
二 本邦(關東州及南洋群島ヲ含ム)内ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有セザル者

第五條 配當稅ノ稅率ハ利益又ハ利息ノ配當金額ノ百分ノ九トス

第六條 配當稅ハ配當支拂ノ際支拂者ニ於テ之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納付スベシ

第七條 前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ配當稅ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵

收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ支拂者ヨリ之ヲ徵收ス

法人解散シタル場合ニ於テ前項ノ規定ニ依リ徵收セラルル稅金ヲ納付セズシテ殘餘財產ヲ分配シタルトキハ其ノ稅金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第八條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ利益若ハ利息ノ配當ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ對シ質問スルコトヲ得

第九條 臺灣所得稅令第五十二條ノ二ノ規定ハ配當稅ニ付之ヲ準用ス  
第十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ配當稅ノ通脱ヲ圖リ又ハ通脱シタル者ハ其ノ通脱シタル又ハ通脱セントシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ  
第十一條 利益又ハ利息ノ配當ノ支拂ヲ爲スト認ムル者第八條ノ規定ニ依リ稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十二條 第十條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ  
第十三條 州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ配當稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス



### 臺灣配當稅令施行規則

昭和十五年四月一日  
臺灣總督府令第四十六號

臺灣配當稅令施行規則左ノ通定ム

臺灣配當稅令施行規則

第一條 產業組合及漁業協同組合ヨリ受ケル剩餘金ノ分配ニハ配當稅ヲ課セズ

第二條 臺灣配當稅令第七條ノ規定ニ依リ支拂者配當稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ別記第一號書式ノ拂込書及別記第三號書式ノ計算書ヲ添

ヘ之ヲ所轄稅務官署所轄内ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ

第三條 日本銀行前條ノ拂込ヲ受ケタルトキハ別記第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歳入徵收官ニ(稅務出張所ノ分掌區域内ニ於テハ歳入徵收分掌官ヲ經由シ)送付スベシ

附則

本令ハ臺灣配當稅令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式省略)

### 南洋群島配當稅令

昭和十五年三月三十一日  
勅令第九十五號

南洋群島配當稅令

(總理、拓務大臣副署)

第一條 南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益又ハ利息ノ配當ヲ受ケル者

ニハ本令ニ依リ配當稅ヲ課ス

第二條 配當稅ハ之ヲ普通配當稅及超過配當稅ノ二種トス

第三條 普通配當稅ハ内地ニ住所ヲ有スル者及南洋群島、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有セズシテ内地ニ一年以上居所ヲ有スル者ガ南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ヨリ受ケル利益又ハ利息ノ配當ニ付之ヲ賦課ス

第四條 超過配當稅ハ南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ヨリ受ケル利益配當金中配當率年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ニ付之ヲ賦課ス

第五條 利益又ハ利息ノ配當ハ其ノ支拂ヲ受ケベキ金額ニ依ル

第六條 南洋群島所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅又ハ分類所得稅ヲ課セラレザル者ニハ配當稅ヲ課セズ

第七條 普通配當稅ノ稅率ハ配當金額ノ百分ノ九トス

第八條 超過配當稅ノ稅率ハ配當金中配當率年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五トス

第九條 配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十條 前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ配當金ノ支拂者ヨリ之ヲ徵收ス

第十一條 當該官吏ハ調査上必要アルトキハ利益又ハ利息ノ配當ノ支拂ヲ受ケ又ハ其ノ支拂ヲ爲スト認ムル者ニ對シ質問スルコトヲ得

第十二條 南洋群島所得稅令第五十七條ノ規定ハ配當稅ニ付之ヲ準用ス

第十三條 超過配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當ニ付所得稅(第一種所得稅

【輯一〇二】

【輯一〇二】

ヲ除ク)ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ配當金額ヨリ超過配當稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額ト看做ス

第十四條 本令ニ定ムルモノノ外配當稅ニ關シ必要ナル規定ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島利益配當稅令ハ之ヲ廢止ス但シ昭和十五年三月三十一日以前ニ於テ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ利益配當稅ニ關シテハ仍舊令ニ依ル



# ●南洋群島配當稅令施行規則

昭和十五年四月一日  
南洋廳令第十號

南洋群島配當稅令施行規則ノ通定ム

南洋群島配當稅令施行規則

- 第一條 配當金ノ支拂者南洋群島配當稅令第九條ノ規定ニ依リ配當稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第三號様式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ所轄支廳ニ納付スベシ但シ支廳所在地ニ日本銀行代理店アルトキハ第三號様式ノ計算書及第一號様式ノ拂込書ヲ添ヘ之ヲ日本銀行ニ拂込ムベシ
- 第二條 日本銀行ニ於テ配當稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號様式ノ領收證書ヲ拂込者ニ交付シ同號様式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官又ハ歲入徵收分掌官ニ送付スベシ
- 第三條 配當稅ノ過誤納アリタル爲之ガ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ南洋廳長官ニ請求書ヲ提出スベシ
- 前項ニ依リ南洋廳長官ニ提出スベキ書類ハ所轄支廳長ヲ經由スベシ
- 第四條 詐偽其ノ他ノ不正ノ行爲ニ依リ配當稅ヲ逃脫シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ税金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ當該官吏ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ
- 第五條 南洋群島配當稅令第十一條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ四 配當利子特別稅

〔譯一一一〕

南洋群島利益配當稅令施行規則ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行前ニ於テ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ利益配當稅ニ關シテハ仍舊令ニ依ル  
(樣式省略)



### 第四款ノ五 外貨債特別稅

#### ●外貨債特別稅法

昭和十二年三月三十日  
法律第五號

改正 昭和十三年第四號、一五年第二八號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外貨債特別稅法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

(總理、大藏  
大臣副署)

#### 外貨債特別稅法

第一條 本法施行地ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本法ニ依リ外貨債特別稅ヲ課ス  
 本法ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別稅ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス  
 所得稅法第六條(第一項但書ヲ除ク)ノ規定ハ信託財產タル外貨債ノ利子ニ付之ヲ準用ス

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依ル被相續人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ハ之ヲ相續人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ト看做ス

外貨債ニ付元本ノ所有者ニ非ザル者ガ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ元本ノ所有者ガ支拂ヲ受クルモノト看做ス但シ利子ノ生ズル期間中ニ元本ノ所有者ニ異動アリタルトキハ最後ノ所有者ヲ以テ利子ノ支拂ヲ受クル者ト看做ス

看做ス

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別稅ヲ課セズ  
 一 所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子  
 二 利率年四分以下ノ外貨國債ノ利子  
 三 利率年四分五厘以下ノ外貨國債以外ノ外貨債ノ利子  
 四 起債者ガ外貨債利子ニ對スル租稅ヲ負擔スベキ旨ノ約款アル外貨債ノ利子但シ其ノ約款ガ昭和十二年一月一日前定メラレタルモノニ限ル

第五條 外貨債特別稅ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年四分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年四分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘ジタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第六條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

第七條 外貨債利子金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第八條 前條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第九條 外貨債特別稅ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス  
 一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分  
 其ノ年七月三十一日限  
 七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分  
 翌年一月三十一日限

納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ本法施行地外ニ住所若ハ居所

(輯一〇九)

(輯一〇九)

ヲ移ストキ又ハ法人解散シ清算終了セントスルトキハ前項ノ納期ニ拘ラズ直ニ其ノ外貨債特別稅ヲ徵收スルコトヲ得

第十條 收稅官吏ハ調査上必要アルトキハ外貨債ノ利子ノ支拂ヲ受ケ若ハ支拂ヲ爲スト認ムル者又ハ外貨債ノ利子ノ買入ヲ爲スト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 前條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿物件ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ外貨債特別稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十三條 外貨債特別稅ノ調査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ洩洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第十二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第十五條 所得稅法第八十四條第一項及第八十五條並ニ法人稅法第十條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付之ヲ準用ス

第十六條 法人稅法第十條ノ規定ハ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ガ朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ法人稅法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ法人稅法施行地ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル場合ニ付之ヲ準用ス

#### ●外貨債特別稅法施行規則

昭和十二年三月三十一日  
勅令第五十五號

改正 昭和十五年第一三八號

朕外貨債特別稅法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、大藏大臣副署)

#### 外貨債特別稅法施行規則

第一條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ其ノ所有スル外貨債ノ各銘柄ニ付其ノ名稱、額面總額、利率、利子支拂期日、證券所在地、收入利子金額及收入シタル年月日ヲ明記シ一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ七月十五日、七月一日ヨリ十二月三十一日迄

ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セズ

第十七條 北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ外貨債特別稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十八條 外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス

#### 附則

本法ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

#### 附則 (昭和十五年法律第二十八號)

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二條、第四條及第五條ノ改正規定ハ支拂期ガ昭和十五年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス



ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ所轄稅務署ニ申告スベシ

外貨債特別稅法第九條第二項ニ該當スルトキハ前項ノ規定ニ準ジ直ニ申告スベシ

第二條 稅務署長外貨債特別稅法第七條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第三條 收稅官吏外貨債特別稅法第十條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

第四條 所得稅法施行規則第九十九條及第一百零二條乃至第一百四條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付テハ準用ス

第五條 朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ住所ヲ有スル者又ハ外貨債特別稅法施行地ニ住所若ハ一年以上上居所ヲ有セズシテ朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ一年以上上居所ヲ有スル者ノ外貨債利子ニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外外貨債特別稅ヲ課セズ

一 外貨債特別稅法施行地ニ住所ヲ有スル者外貨債利子金額決定後朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二 朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ外貨債利子金額決定前外貨債特別稅法施行地ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 外貨債特別稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生シタルトキ

附則

看做ス

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別稅ヲ課セズ

一 朝鮮所得稅令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債利子

二 利率年四分以下ノ外貨債ノ利子

三 利率年四分五厘以下ノ外貨債以外ノ外貨債ノ利子

四 起債者ガ外貨債利子ニ對スル租稅ヲ負擔スベキ旨ノ約款アル外貨債ノ利子但シ其ノ約款ガ昭和十二年一月一日前定メラレタルモノニ限ル

第五條 外貨債特別稅ハ外貨債利子金額中外貨債債ニ在リテハ利率年四分、外貨債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年四分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第六條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

第七條 外貨債利子金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第八條 前條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第九條 外貨債特別稅ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分

其ノ年七月三十一日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分

翌年一月三十一日限

納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ朝鮮外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキ又ハ法人解散シ清算終了セントスルトキハ前項ノ納期ニ拘ラズ直ニ

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ五 外貨債特別稅

本令ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付テハ適用ス

朝鮮外貨債特別稅令

昭和十二年三月三十一日 制令第四號

改正 昭和十三年第九號、一五年第九號

朝鮮外貨債特別稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮外貨債特別稅令

第一條 朝鮮ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課ス

本令ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別稅ハ外貨債利子ニ付テハ賦課ス

朝鮮所得稅令第四條第一項(但書ヲ除ク)、第二項及第四項ノ規定ハ信託財產タル外貨債ノ利子ニ付テハ準用ス

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依リ被相續人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ハ之ヲ相續人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ト看做ス

外貨債ニ付元本ノ所有者ニ非ザル者ガ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ元本ノ所有者ガ支拂ヲ受クルモノト看做ス但シ利子ノ生ズル期間中ニ元本ノ所有者ニ異動アリタルトキハ最後ノ所有者ヲ以テ利子ノ支拂ヲ受クル者ト

其ノ外貨債特別稅ヲ徵收スルコトヲ得

第十條 稅務官吏ハ調査ニ必要アルトキハ外貨債ノ利子ノ支拂ヲ受ケ若ハ支拂ヲ爲スト認ムル者又ハ外貨債ノ利子ノ賣却若ハ買入ヲ爲スト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

第十一條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ外貨債特別稅ヲ逃脫シタル者ハ其ノ逃脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長ニ申出タル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十二條 外貨債特別稅ノ調査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 第十條ノ規定ニ依リ稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者、帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 朝鮮所得稅令第十二條、第六十二條及第六十四條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付テハ準用ス

第十五條 朝鮮所得稅令第十二條ノ規定ハ外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店ヲ有スル法人ガ外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州、樺太又ハ朝鮮ニ本店ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ朝鮮ニ本店ヲ有スル場合ニ付テハ準用ス

外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上上居所ヲ有スル者ニハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セズ

第十六條 道、府邑面其ノ他ノ公共團體ハ外貨債特別稅ノ附加稅ヲ課スル

第七二〇ノ一一



第十七條 外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)又ハ查本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス

前項ノ規定ハ外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付之ヲ準用ス

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

朝鮮外貨債特別稅令施行規則

昭和十二年三月三十一日  
朝鮮總督府令第三十三號

朝鮮外貨債特別稅令施行規則

第一條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ其ノ所有スル外貨債ノ各銘柄ニ付其ノ名稱、額面金額、利率、利子支拂期日、證券所在地、收入利子金額及收入シタル年月日ヲ明記シ一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ七月十五日、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ所轄稅務署ニ申告スベシ

朝鮮外貨債特別稅令第九條第二項ニ該當スルトキハ前項ノ規定ニ準ジ直ニ申告スベシ

第二條 稅務署長朝鮮外貨債特別稅令第七條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第三條 朝鮮所得稅令施行規則第七十二條、第七十四條乃至第七十六條及第七十八條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付之ヲ準用ス

第四條 外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者又ハ朝鮮ニ住所若ハ一年以上ノ居所ヲ有セズシテ外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ一年以上ノ居所ヲ有スル者ノ外貨債特別稅ニ付テハ左ニ掲グル場合ノ外貨債特別稅ヲ課セズ

附則

一 朝鮮ニ住所ヲ有スル者外貨債利子金額決定後外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二 外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル外貨債利子金額決定前朝鮮ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 朝鮮、外貨債特別稅法施行地、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生シタルトキ

附則

本令ハ朝鮮外貨債特別稅令ノ適用ヲ受クル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

臺灣外貨債特別稅令

昭和十二年三月三十一日  
律令第三號

第一條 臺灣ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上ノ居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課ス

〔輯一〇一〕

本令ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別稅ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依ル被相續人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ハ之ヲ相續人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ト看做ス

外貨債ニ付元本ノ所有者ニ非ザル者ガ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ元本ノ所有者ガ支拂ヲ受クルモノト看做ス但シ利子ノ生ズル期間中ニ元本ノ所有者ニ異動アリタルトキハ最後ノ所有者ヲ以テ利子ノ支拂ヲ受クル者ト看做ス

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別稅ヲ課セズ

- 一 臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子
- 二 利率年四分以下ノ外貨債ノ利子
- 三 利率年四分五厘以下ノ外貨債以外ノ外貨債ノ利子
- 四 起債者ガ外貨債利子ニ對スル租稅ヲ負擔スベキ旨ノ約款アル外貨債ノ利子但シ其ノ約款ガ昭和十二年一月一日前定メラレタルモノニ限ル

第五條 外貨債特別稅ハ外貨債利子金額中外貨債債ニ在リテハ利率年四分、外貨債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年四分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第六條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

〔輯一〇二〕

第七條 外貨債利子金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第八條 前條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第九條 外貨債特別稅ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分 其ノ年七月三十一日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分 翌年一月三十一日限

納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ臺灣外ニ住所若ハ居所ヲ移ストキ又ハ法人解散シ清算終了セントスルトキハ前項ノ納期ニ拘ラズ直ニ其ノ外貨債特別稅ヲ徵收スルコトヲ得

第十條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ外貨債ノ利子ノ支拂ヲ受ケ若ハ支拂ヲ爲スト認ムル者又ハ外貨債ノ利子ノ賣却若ハ買入ヲ爲スト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 前條ノ規定ニ依ル帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前條ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十二條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ外貨債特別稅ノ遺脫ヲ圖リ又ハ遺脫シタル者ハ其ノ遺脫シ又ハ遺脫セントシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務官署



ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十三條 外貨債特別稅ノ調査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第十二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項俱書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ

第十五條 臺灣所得稅令第十二條、第十三條、第五十一條及第五十二條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付テハ準用ス但シ南洋群島ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十六條 外貨債特別稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セズ

第十七條 州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ外貨債特別稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十八條 外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス前項ノ規定ハ外貨債特別稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付テハ準用ス

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付テハ準用ス

### 臺灣外貨債特別稅令施行規則

昭和十二年四月一日  
臺灣總督府令第二十八號

臺灣外貨債特別稅令施行規則左ノ通定ム

臺灣外貨債特別稅令施行規則

第一條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ其ノ所有スル外貨債ノ各銘柄ニ付テ其ノ名稱、額面金額、利率、利子支拂期日、證券所在地、收入利子金額及收入シタル年月日ヲ明記シ一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ七月十五日、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ所轄稅務官署ニ申告スベシ

臺灣外貨債特別稅令第九條第二項ニ該當スルトキハ前項ノ規定ニ準ジ直ニ申告スベシ

第二條 知事又ハ廳長臺灣外貨債特別稅令第七條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第三條 稅務官吏臺灣外貨債特別稅令第十條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ檢査スルトキハ檢査章ヲ携帶スベシ

第四條 臺灣所得稅令施行規則第四十四條及第四十六條乃至第四十八條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付テハ準用ス

第五條 外貨債特別稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者又ハ臺灣ニ住所ヲ有セズシテ外貨債特別稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル者ノ外貨債利子ニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外外貨債特別稅ヲ課セズ  
一 臺灣ニ住所ヲ有スル者外貨債利子金額決定後外貨債特別稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

外貨債ニ付元本ノ所有者ニ非ザル者ガ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ元本ノ所有者ガ支拂ヲ受クルモノト看做ス但シ利子ノ生ズル期間中ニ元本ノ所有者ニ異動アリタルトキハ最後ノ所有者ヲ以テ利子ノ支拂ヲ受クル者ト見做ス

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別稅ヲ課セズ

一 樺太所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子

二 利率年四分以下ノ外貨國債ノ利子

三 利率年四分五厘以下ノ外貨國債以外ノ外貨債ノ利子

四 起債者ガ外貨債利子ニ對スル租稅ヲ負擔スベキ旨ノ約款アル外貨債ノ利子但シ其ノ約款ガ昭和十二年一月一日前定メラレタルモノニ限ル

第五條 外貨債特別稅ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年四分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年四分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第六條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ

第七條 外貨債利子金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第八條 前條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第九條 外貨債特別稅ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス  
一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分  
其ノ年七月三十一日限  
七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分

二 外貨債特別稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者外貨債特別稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ外貨債利子金額決定前臺灣ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 臺灣、外貨債特別稅法施行地、朝鮮、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生シタルトキ

附則

本令ハ臺灣外貨債特別稅令ノ適用ヲ受クル外貨債ノ利子ニ付テハ準用ス

### 樺太外貨債特別稅令

昭和十二年三月三十一日  
勅令第七十五號

改正 昭和十二年第二八四號、一三年第二一六號、一五年第一八四號  
朕樺太外貨債特別稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、拓務大臣副署)

樺太外貨債特別稅令

第一條 樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課ス

本令ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別稅ハ外貨債利子ニ付テハ賦課ス

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依リ被相続人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ハ之ヲ相續人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ト看做ス



昭和十一年三月三十一日限

納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ樺太外ニ住所ヲ移ストキ又ハ法人解散シ清算終了セントスルトキハ前項ノ納期ニ拘ラズ直ニ其ノ外貨債特別稅ヲ徵收スルコトヲ得

第十條 稅務官吏ハ調査上必要アルトキハ外貨債ノ利子ノ支拂ヲ受ケ若ハ支拂ヲ爲スト認ムル者又ハ外貨債ノ利札ノ賣却若ハ買入ヲ爲スト認ムル者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 樺太所得稅令第十二條、第十三條、第五十一條第一項及第五十二條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付之ヲ準用ス但シ南洋羣島ニ本店ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セズ

第十三條 市町村ハ外貨債特別稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第十四條 外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス

前項ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於ケル法令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付之ヲ準用ス

第十五條 本令ニ定ムルモノノ外外貨債特別稅ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

●樺太外貨債特別稅令施行規則

昭和十二年四月三日 樺太廳令第十八號

改正 昭和十五年第三七號

樺太外貨債特別稅令施行規則左ノ通定ム

樺太外貨債特別稅令施行規則

第一條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ其ノ所有スル外貨債ノ各銘柄ニ付其ノ名稱、額面總額、利率、利子支拂期日、證券所在地、收入利子金額及收入シタル年月日ヲ明記シ一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ七月十五日、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

樺太外貨債特別稅令第九條第二項ニ該當スルトキハ前項ノ規定ニ準シ直ニ申告スベシ

第二條 樺太廳支廳長樺太外貨債特別稅令第七條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第三條 稅務官吏樺太外貨債特別稅令第十條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ検査スルトキハ検査章ヲ携帯スベシ

第四條 樺太所得稅令施行規則第四十二條及第四十四條乃至第四十六條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付之ヲ準用ス

第五條 内地、朝鮮、臺灣若ハ關東州ニ住所ヲ有スル者又ハ樺太ニ住所ヲ有シ一年以上居所ヲ有セズシテ内地、朝鮮、臺灣若ハ關東州ニ一年以上居所ヲ有スル者ノ外貨債利子ニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外外貨債特別稅ヲ課セズ

一 樺太ニ住所ヲ有スル者外貨債利子金額決定後内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ住所ヲ移轉シタルトキ

●關東州外貨債特別稅令

昭和十二年十二月八日 勅令第七百十號

改正 昭和十三年第二一〇號、一五年第一七五號

關東州外貨債特別稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理大臣副署)

關東州外貨債特別稅令

第一條 關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ニシテ外貨債ヲ所有スル者ニハ本令ニ依リ外貨債特別稅ヲ課ス

本令ニ於テ外貨債ト稱スルハ外國通貨ヲ以テ表示スル國債及地方債並ニ日本法人ノ發行シタル社債ヲ謂フ

第二條 外貨債特別稅ハ外貨債利子ニ付之ヲ賦課ス

第三條 外貨債利子ハ一月一日ヨリ六月三十日迄及七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ各期間中ニ於テ收入シタル外貨債ノ利子金額ニ依リ被相續人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ハ之ヲ相續人ノ收入シタル外貨債ノ利子金額ト看做ス

外貨債ニ付元本ノ所有者ニ非ザル者ガ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ元本ノ所有者ガ支拂ヲ受クルモノト看做ス但シ利子ノ生ズル期間中ニ元本ノ所有者ニ異動アリタルトキハ最後ノ所有者ヲ以テ利子ノ支拂ヲ受クル者ト看做ス

第四條 左ニ掲グル利子ニハ外貨債特別稅ヲ課セズ

一 關東州所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ノ所有ニ屬スル外貨債ノ利子

二 内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ住所ヲ有スル者内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ於ケル法令ニ依リ外貨債利子金額決定前樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 樺太、内地、朝鮮、臺灣又ハ關東州ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生ジタルトキ

第六條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ外貨債特別稅ヲ遁脱シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ樺太廳支廳長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第七條 樺太外貨債特別稅令第十條ノ規定ニ依リ帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿書類ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 外貨債特別稅ノ調査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第六條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第十條 本令中樺太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第二條ノ規定ヲ除クノ外租稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年一月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス



- 二 利率年四分以下ノ外貨國債ノ利息
- 三 利率年四分五厘以下ノ外貨國債以外ノ外貨債ノ利息
- 四 起債者ガ外貨債利子ニ對スル租稅ヲ負擔スベキ旨ノ約款アル外貨債ノ利子但シ其ノ約款ガ昭和十二年七月一日前定メラレタルモノニ限ル
- 第五條 外貨債特別稅ハ外貨債利子金額中外貨國債ニ在リテハ利率年四分、外貨國債以外ノ外貨債ニ在リテハ利率年四分五厘ニ相當スル金額ヲ超ユル金額ニ十分ノ七ヲ乘ジタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス
- 第六條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ外貨債利子金額ヲ政府ニ申告スベシ
- 第七條 外貨債利子金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス
- 第八條 前條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ
- 第九條 外貨債特別稅ハ左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス
  - 一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分
  - 其ノ年七月三十一日限
  - 七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分
  - 翌年一月三十一日限

- 者ニ質問ヲ爲シ又ハ其ノ帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得
- 第十一條 關東州所得稅令第十條、第十一條、第五十五條第一項及第五十六條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付之ヲ準用ス但シ南洋群島ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 第十二條 外貨債特別稅法施行地、朝鮮、臺灣若ハ樺太ニ住所ヲ有スル者又ハ關東州ニ住所若ハ一年以上居所ヲ有セズシテ外貨債特別稅法施行地、朝鮮、臺灣若ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル者ノ外貨債利子ニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除クノ外外貨債特別稅ヲ課セズ
  - 一 關東州ニ住所ヲ有スル者外貨債利子金額決定後外貨債特別稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ
  - 二 外貨債特別稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者外貨債特別稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依ル外貨債利子金額決定前關東州ニ住所ヲ移轉シタルトキ
  - 三 關東州、外貨債特別稅法施行地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生シタルトキ
- 第十三條 市、會其ノ他ノ公共團體ハ外貨債特別稅ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ
- 第十四條 外貨債特別稅ヲ課セラルル外貨債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利子金額ヨリ外貨債特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ利子金額ト看做ス
- 第十五條 滿洲國駐劄特命全權大使ハ本令ニ定ムルモノノ外外貨債特別稅

〔輯一〇九〕

ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年七月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用ス

〔輯八四〕

### ●關東州外貨債特別稅令施行規則

昭和十二年十二月三十日 關東局令第二百二十八號

關東州外貨債特別稅令施行規則左ノ通定ム

- 第一條 外貨債特別稅ニ付納稅義務アル者ハ其ノ所有スル外貨債ノ各銘柄ニ付其ノ名稱、額面總額、利率、利子支拂期日、證券所在地、收入利子金額及收入シタル年月日ヲ明記シ一月一日ヨリ六月三十日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ七月十五日、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ收入シタル利子ニ對スル分ニ付テハ翌年一月十五日迄ニ所轄稅務署長又ハ民政署長ニ申告スベシ

- 關東州外貨債特別稅令 以下外貨債特別稅令ト稱ス 第九條第二項ニ該當スルトキハ前項ノ規定ニ準ジ直ニ申告スベシ
- 第二條 稅務署長又ハ民政署長外貨債特別稅令第七條ノ規定ニ依リ外貨債利子金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ
- 第三條 關東州所得稅令施行規則第六十四條及第六十六條乃至第六十九條ノ規定ハ外貨債特別稅ニ付之ヲ準用ス
- 第四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ外貨債特別稅ヲ遁脫シタル者ハ其ノ遁脫シタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務署長若ハ民政署長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ
- 前項ノ場合ニ於テ罰金額二百圓ヲ超ユルトキハ二百圓トシ科料額五圓ヲ下ルトキハ五圓トス
- 第五條 外貨債特別稅令第十條ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者、帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第六條 外貨債特別稅ノ調査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査ニ關シ知得シタル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第七條 稅務官吏外貨債特別稅令第十條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ検査スルトキハ別記様式ノ検査章ヲ携帯スベシ

附則

本令ハ支拂期ガ昭和十二年七月一日以後ニ在ル外貨債ノ利子ニ付之ヲ適用



(別記様式)

用紙厚實白紙 縦二寸五分 横一寸五分

表

何 號

檢 査 章

印

何 \*

裏

官 氏 名

### 第四款ノ六 支那事變特別稅

#### ●昭和十五年法律第五十號 (支那事變特別稅法及臨時租稅增徵法廢止法律)

昭和十五年三月二十九日 法律第五十號

除帝國議會ノ協贊ヲ經タル支那事變特別稅法及臨時租稅增徵法廢止法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、大藏大臣副署)

附則

本法ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得稅、營業收益稅、法人資本稅及臨時利得稅、法人ノ昭和十五年三月三十一日以前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ開始シタル相續ニ對スル相續稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ產出シタル礦產物ニ對スル礦產稅及特別礦產稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ爲シタル賣買取引ニ基ク賣買手數料收入金額ニ對スル取引所營業稅、昭和十五年三月三十一日以前ニ竣成シタル家屋ノ建築稅並ニ昭和十五年三月三十一日以前ニ賦課シ若ハ賦課スベカリシ又ハ徵收シ若ハ徵收スベカリシ第二種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅、資本利子稅、酒類ニ對スル造石稅及出港稅、麥酒稅、酒精及酒精含有飲料ニ對スル造石稅、清涼飲料稅、砂糖消費稅、取引稅、印紙稅、利益配當稅、公債及社債利子稅、

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ六 支那事變特別稅

通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅、遊興飲食稅及個人ノ臨時利得稅ニ關シテハ仍舊法ニ依ル  
臨時租稅增徵法第十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ拘ラズ昭和十五年一月一日以後ニ隱居ニ因リ開始シタル家賃相續又ハ同日以後ニ爲シタル相續稅法第二十三條第一項ニ規定スル贈與ニ付テハ之ヲ適用セズ  
昭和十五年一月一日以後昭和十五年三月三十一日迄ニ產出シタル礦產物ニ對スル礦產稅及特別礦產稅ハ昭和十五年六月中ニ之ヲ徵收ス



請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金ノ支拂地ノ所轄  
稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第一號書式(用紙適宜輪廓縱四寸五分  
橫三寸三分)

支那事變特別稅法施行細則

昭和十三年四月一日  
大藏省令第十八號

改正 昭和十四年第一五號

支那事變特別稅法施行細則左ノ通定ム

支那事變特別稅法施行細則

- 第一條 支那事變特別稅法施行規則第三條、第九條、第二十三條及第三十條ノ規定ニ依リ拂込書ハ第一號書式ニ、計算書ハ第三號書式乃至第六號書式ニ依リ調製スベシ
- 第二條 日本銀行ニ於テ利益配當稅、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅及特別入場稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歳入徵收官ニ送付スベシ
- 第三條 利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ノ過誤納アリタル爲之カ拂戻ヲ

利益配當稅(又ハ何々)拂込書

第何號	何年度	大藏省主管	何稅務署
利益配當稅 (又ハ何々)	利益配當稅 (又ハ何々)	利益配當稅 (又ハ何々)	何稅務署
Y 圓			
頭書ノ金額拂込候也			
何縣何郡何町何番地			
何會社 代表者 何 某團			
(其ノ他之ニ準ズ)			
日本銀行何店宛			
昭和何年何月何日			

備考

- 一、本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スベシ
- 二、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅又ハ特別入場稅ノ書式ニ付テハ本書式中利益配當稅トアル箇所ヲ公債及社債利子稅、通行稅、入場稅又ハ特別入場稅ト改記スルモノトス

〔輯一〇九〕

〔輯八五〕

通知書

第何號	何年度	大藏省主管	何稅務署
利益配當稅 (又ハ何々)	利益配當稅 (又ハ何々)	利益配當稅 (又ハ何々)	何稅務署
何縣何郡何町何番地			
何會社 代表者 何 某納			
(其ノ他之ニ準ズ)			
Y 圓			
昭和何年何月何日領收			
日本銀行何店宛			
何稅務署長官氏名殿			

第二號書式(用紙適宜輪廓縱四寸五分  
橫三寸三分二枚接續)

領收證書

第何號	何年度	利益配當稅 (又ハ何々)	何稅務署
何縣何郡何町何番地			
何會社 代表者 何 某納			
(其ノ他之ニ準ズ)			
Y 圓			
昭和何年何月何日領收			
日本銀行何店宛			

備考

- 一、日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得
- 二、公債及社債利子稅、通行稅、入場稅又ハ特別入場稅ノ書式ニ付テハ本書式中利益配當稅トアル箇所ヲ公債及社債利子稅、通行稅、入場稅又ハ特別入場稅ト改記スルモノトス







昭和何年何月分  
入場稅(又ハ特別入場稅)徵收高計算書

區分	總額	內			入場料計 (又ハ特別 入場料計)	非課稅	稅額	摘要
		課		稅				
		通常ノ料 金ノモノ	臨時定期切符 二種ノモノ					
第一種	人員	人員	人員	人員	人員	人員	人員	
何圓ノ モノ								
何十錢 ノモノ								
.....								
二十三錢 ニ滿タザ ルモノ								
計								
何圓ノ モノ								
何十錢 ノモノ								
.....								
二十三錢 ニ滿タザ ルモノ								
計								
第二種								
何々								
.....								
合計								

昭和何年何月何日  
場所 何府縣何市何町何番地  
何某又ハ何會社

備考  
一、區分ノ欄ニハ支那事變特別稅法第二十六條ニ規定スル備物又ハ設備ノ種類  
並ニ通常ノ料金額ヲ掲グルモノトス但シ第二種ノ場所ニ付テハ設備ノ種類ノ  
ミヲ掲グ  
二、總額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ入場料ヲ徵シタル全部ノ人員及入場料金額ヲ掲  
グルモノトス  
三、回数、定期、貸切其ノ他ニ依ルモノノ欄ニハ回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ  
契約ヲ爲シタル者ノ分ヲ各當該等級ノ欄ニ掲グ其ノ明細書ヲ添付スルモノト  
ス  
四、特別入場稅ノ書式ニ付テハ入場稅トアル箇所ヲ特別入場稅ト、入場料トアル  
箇所ヲ特別入場料ト改記シ、區分ノ欄ニハ競技ノ種類並ニ通常ノ料金額ヲ  
掲グルモノトス

第六號書式(用紙適宜輪廓 縱五寸五分 横八寸)

〔輯八五〕

昭和何年何月分  
通行稅徵收高計算書

區分	種別	程	課稅			非課稅	合計	稅額	摘要
			大	小	兒				
			一等	二等	三等				
普通	五十軒未 滿	人	人	人	人	人	人	人	圓
乘	.....								
客	計								
回数	五十軒未 滿	券	券	券	券	券	券	券	圓
乘	.....								
客	計								
定期	五十軒未 滿								
乘	.....								
客	計								
團體	五十軒未 滿	件	件	件					圓
乘	.....								
客	計								
貸切	乘	圓	圓	圓					圓
稅額計									
追徵稅額									
拂戻稅額									
差引拂込稅額									

備考  
一、支那事變特別稅法第十九條所定ノ稅率區別ニ依リ記載スルモノトス  
二、往復又ハ廻遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル者ノ人員ハ往復乘車船ニ付テハ往復各別ニ廻遊乘車船ニ付テハ各區間毎ニ各一人トシテ計算  
スルモノトス  
三、非課稅欄ニハ支那事變特別稅法第二十條各號ニ依リ非課稅ト爲リタル人員、券數、件數又ハ金額ヲ掲グ其ノ内譯ヲ摘要ニ記載スルモノトス  
四、貸切乘車船ニ付テハ其ノ件數ヲ摘要ニ記載スルモノトス

〔輯八五〕

昭和何年何月何日 何會社

第五號書式(用紙縱六寸五分)



●昭和三十二年大藏省令第二十號

(支那事變特別稅法施行規則第六十八條第三項ノ規定ニ依ル檢査章ノ書式)

支那事變特別稅法施行規則第六十八條第三項ノ規定ニ依ル檢査章ノ書式左ノ通定ム  
書式(用紙厚質白紙縦二寸五分)

第何號	何稅務署	官氏名
入場稅	關スル檢査	稅務署印
特別入場稅		
年月日交付		
	何稅務署	

附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●朝鮮北支事件特別稅令

昭和十二年八月十二日  
制令第十四號

改正 昭和十三年第九號

朝鮮北支事件特別稅令明治四十四年法律第三十號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

朝鮮北支事件特別稅令

- 一 所得特別稅
  - 二 臨時利得特別稅
  - 三 利益配當特別稅
  - 四 公債及社債利子特別稅
  - 五 物品特別稅
- 第二條 所得特別稅ハ所得稅ヲ納ムル者ニ之ヲ課ス
- 第三條 第一種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ法人ノ本令施行後一年內ニ終了スル各事業年度ノ所得(清算所得ヲ除ク)ニ付之ヲ賦課シ其ノ所得ニ對スル朝鮮所得稅令及朝鮮臨時租稅增徴令ニ依リ算出シタル第一種所得稅額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス
- 第四條 第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ本令施行後一年內ニ支拂ヲ受クル第二種甲及乙ノ所得(國債ノ利子ヲ除ク)ニ付之ヲ賦課シ其ノ所得ニ對スル朝鮮所得稅令ニ依リ算出シタル第二種所得稅額ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス
- 第五條 第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ昭和十二年分第三種所得ニ付之ヲ賦課シ其ノ所得ニ對スル第三種所得稅額ノ百分ノ七・五ニ相當

(韓九七)

スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第六條 第一種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ第二種所得金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ其ノ稅額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 昭和十二年十一月一日ヨリ三十日限  
第二期 昭和十三年二月一日ヨリ二十八日限

第七條 臨時利得特別稅ハ臨時利得稅ヲ納ムル者ニ之ヲ課ス

第八條 臨時利得特別稅ハ法人ノ本令施行後一年內ニ終了スル各事業年度ノ利得ニ付之ヲ賦課シ其ノ利得ニ對スル臨時利得稅額(朝鮮臨時租稅增徴令ニ依ル增徴稅額ヲ含ム)ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第九條 臨時利得特別稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十條 利益配當特別稅ハ朝鮮ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

朝鮮所得稅令第二十條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ利益配當特別稅ヲ課セズ

第十一條 利益配當特別稅ハ本令施行後一年內ニ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十二條 利益配當特別稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ四 北支事件特別稅

(韓八七)

第十三條 公債及社債利子特別稅ハ朝鮮ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

朝鮮所得稅令第二十條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子特別稅ヲ課セズ

第十四條 公債及社債利子特別稅ハ本令施行後一年內ニ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(朝鮮外貨債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク)ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十五條 公債及社債利子特別稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十六條 第六條第二項、第十二條又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅額ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅額ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十七條 朝鮮所得稅令第十二條、第十三條及第六十二條乃至第六十四條ノ規定ハ所得特別稅及臨時利得特別稅ニ付之ヲ準用ス但シ南洋羣島ニ本店ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 利益配當特別稅ヲ課セララルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子特別稅ヲ課セララルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

第十九條 物品特別稅ハ左ニ掲グル物品ニシテ朝鮮總督ノ定ムルモノニ之







發油」ヲ、揮發油若ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ掲ケル物品」ニ、又ハ揮發油」ヲ、揮發油又ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ掲ケル第二種ノ物品」ニ、又ハ清涼飲料」ヲ、清涼飲料又ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ掲ケル第二種ノ物品」ニ改ム  
朝鮮出港稅令第一條第一號中「及揮發油」ヲ、揮發油及北支事件特別稅法第二十條ニ掲ケル物品」ニ改ム

### ●朝鮮北支事件特別稅令施行規則

昭和十二年八月十二日  
朝鮮總督府令第百九號

朝鮮北支事件特別稅令施行規則左ノ通定ム

朝鮮北支事件特別稅令施行規則

第一條 朝鮮北支事件特別稅令第六條第二項、第十二條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ第二種所得金額、配當金又ハ利子金額ノ支拂者所得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書及第三號乃至第五號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ最寄ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ

第二條 日本銀行代理店ニ於テ前條ノ規定ニ依リ所得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歲入徵收官ニ送付スベシ

第三條 第一條ノ規定ニ依リ拂込ヲ爲シタル所得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ニ付過誤納アリタル爲之ガ下戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ配當金、利子等ノ支拂地ノ所轄稅務署長ヲ經由シテ稅務監督局長ニ請求書ヲ提出スベシ

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ四 北支事件特別稅

〔輯八〇〕

第四條 朝鮮所得稅令施行規則第七十一條、第七十二條及第七十四條乃至第七十六條ノ規定ハ所得特別稅及臨時利得特別稅ニ付之ヲ準用ス  
第五條 朝鮮北支事件特別稅令第十九條ノ規定ニ依リ物品特別稅ヲ課スベキ物品ヲ定ムルコト左ノ如シ

〔輯八〇〕

第一種  
一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品  
イ 貴石、半貴石

ダイヤモンド、ルビー、サファイヤ、アレキサンドライト、トパーズ、スピネル、エメラルド、トールマリソ、ジルコン、クリソライト、ガーネット、オパール、翡翠、水晶、瑪瑙、猫眼石、虎眼石、孔雀石、土耳其玉、月長石及ヘマタイト  
貴石又ハ半貴石ヲ用ヒタル製品

二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品  
イ 天然眞珠及養殖眞珠  
ロ 眞珠ヲ用ヒタル製品

三 貴金屬製品又ハ貴金屬ヲ用ヒタル製品  
イ 貴金屬製品但シ萬年筆用金ペンヲ除ク  
ロ 金鍍又ハ白金鍍ノ時計  
ハ 金屏風

ニ 其ノ他貴金屬ヲ用ヒタル製品  
四 齒甲製品  
五 珊瑚製品

第二種

七一〇ノ二八ノ七



一 寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品

イ 寫眞機但シ航空機用ノモノ及顯微鏡用ノモノヲ除ク

ロ 寫眞引伸機

ハ 映寫機

ニ 寫眞機部分品及附屬品

レンズ(シャッター附ノモノヲ含ム)、暗函(蛇腹ノ有無ヲ別々ズ)、シャッター、フィルムバグホルダー、取替、フアインダ

ー、三脚臺、カラーフィルムター、セルフタイマー、露出計、距離計及寫眞機用又ハ三脚臺用ケース

ホ 寫眞引伸機部分品

暗函、コンデンザー、レンズ及支持臺

ヘ 映寫機部分品及附屬品

コンデンサー、レンズ、發聲裝置、フィルム巻取機、カラー

二 寫眞用乾板、フィルム及感光紙

イ 寫眞用乾板但シ航空機用ノモノ及エックス線用ノモノヲ除ク

ロ 寫眞用フィルム但シ航空機用ノモノ及エックス線用ノモノヲ除ク

ハ 寫眞用感光紙

三 蓄音器及同部分品

イ 蓄音器(ラヂオ聴取裝置ヲ附シタルモノヲ含ム)

ロ 蓄音器部分品

蓄音器匣、サウンドボックス、移動腕金、マグネチックピク

アップ、蓄音器用モーター、同轉盤、動力用センマイ及蓄音器用針

四 蓄音器用レコード(トキー用ノモノヲ含ム)但シ六吋以下ノ紙製

ノモノヲ除ク

五 樂器及同部分品

イ 樂器

ピアノ、オルガン、アコーディオン、ハーモニカ、ヴァイオ

リン、ヴィオラ、セロ、コントラバス、マンドリン、マンド

ラ、マンドリラ、ギター、バラライカ、ウクレレ、パンジョ

ー、フリユート、ビッコロ、クラリネット、オーボエ、バズー

ン、ホルネット、トランペット、トロンボーン、アルト、バ

リトン、チューバ、サクソフオン、スザフオン、ホルン、

木琴、鐵琴、ハープ、リラ、箏、三絃、琵琶、明笛及尺八但

シ器具ト認メラルモノヲ除ク

ロ 樂器部分品

絃樂器用ノ絃、弓及撥

前項ノ場合ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合

金ヲ謂フ

第一種ノ物品ニシテ一箇ノ價格三圓未滿ノモノ又ハ貴石、半貴石、眞珠

若ハ貴金屬ヲ用ヒタル物品ニシテ此等ノ部分ノ價格(二種以上ノモノヲ

用ヒタルモノニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス)ガ全體ノ價格ノ三分ノ一未滿

ノモノニハ物品特別稅ヲ課セズ但シ金鋼又ハ白金側ノ時計及金屏風ニ付

テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ掲グル第一種ノ物品(以下單ニ

第一種物品ト稱ス)ノ小賣業ヲ營マントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名

稱並ニ販賣場ノ位置及販賣スベキ物品ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場ノ所

轄稅務署長ニ提出スベシ

第七條 朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ掲グル第二種ノ物品(以下單ニ

第二種物品ト稱ス)ヲ製造セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱並ニ

製造場ノ位置及製造スベキ物品ヲ記載シタル申告書ヲ製造場ノ所轄稅務

署長ニ提出スベシ

第八條 第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者一月以上販賣又ハ

製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ豫メ之ヲ稅務署長ニ申告ス

ベシ

第九條 稅務署長必要ト認ムルトキハ第二種物品ノ製造者ニ製造場ノ圖面

及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第十條 第六條乃至第八條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ

依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ

遲滞ナク之ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第十一條 第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品ノ製造業ヲ相續シタル者ハ

遲滞ナク其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト

連署シテ遲滞ナク其ノ旨ヲ稅務署長ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消

滅シタル法人ノ第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品ノ製造業ヲ承繼シタ

ルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ遲滞ナ



四 教育用ニ供スルモノ  
前項第四號ニ掲グル物品ハ中等學校又ハ初等學校ニ於テ使用スル寫眞機、映寫機、寫眞用フィルム、ピアノ及オルガンニ限ル

第十七條 第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者物品特別稅ノ免除ヲ受ケントストキハ第一種物品ヲ引渡シ又ハ第二種物品ヲ製造場ヨリ搬出スル前豫メ稅務署長ニ申請シ其ノ承認ヲ受ケベシ

前項ノ場合ニ於テ稅務署長カ物品ノ輸出證明、用途證明、運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非ザレバ物品特別稅ノ免除ヲ受ケルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ第一種ノ輸入物品又ハ第二種ノ輸移入物品ヲ保税地域ヨリ引取ル者カ物品特別稅ノ免除ヲ受ケントスル場合ニ付之ヲ準用ス但シ稅務署長トアルハ稅關長トス

第十八條 第一種物品又ハ第二種物品ノ販賣者ハ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

- 一 受入レタル物品ノ品名、數量、價格及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱
- 二 販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣ノ日竝ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ但シ稅務署長監督上必要アリト認メ其ノ記載ヲ命ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 第一種物品又ハ第二種物品ノ製造者ハ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

- 一 受入レタル材料ノ種類、數量及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱
- 二 使用シタル材料ノ種類、數量及使用ノ日
- 三 製造シタル物品ノ品名、數量及製造ノ日
- 四 販賣シ又ハ搬出シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣又ハ搬出ノ日竝ニ其ノ買受人又ハ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

前條第二項ノ規定ハ前項第四號ニ掲グル事項ノ記載ニ付之ヲ準用ス

第二十條 販賣場ヲ有セズシテ第一種物品ノ小賣業ヲ營ム者ニ付テハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ販賣場ト看做ス

附則  
本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

朝鮮北支事件特別稅令附則第三項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種物品ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ稅務署長ニ提出スベシ

朝鮮間接國稅犯則者處分令施行規則第一條ニ左ノ一號ヲ加フ

八 物品特別稅

大正元年朝鮮總督府令第八號ニ左ノ一號ヲ加フ

〔輯八〇〕

大正八年朝鮮總督府令第七十六號第一條中「又ハ揮發油」ヲ「揮發油又ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ掲グル物品」ニ改メ同令ニ左ノ一號ヲ加フ

第四條ノ二 大正八年例令第十一號第三條ニ依リ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ掲グル第一種ノ輸入物品ニ付關稅ノ納付義務者ヨリ物品特別稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ關稅ノ納付義務者カ第一種物品ノ販賣者又ハ製造者ナルトキハ物品特別稅ハ之ヲ徵收セス

昭和六年朝鮮總督府令第五十號第一條中「又ハ清涼飲料」ヲ「清涼飲料又ハ朝鮮北支事件特別稅令第十九條ニ掲グル物品」ニ「又ハ清涼飲料稅」ヲ「清涼飲料稅又ハ物品特別稅」ニ改メ第三條中「及清涼飲料稅」ヲ「清涼飲料稅及物品特別稅」ニ改ム

國稅徵收令施行規則第一條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 第三種所得特別稅

第一號書式(用紙適宜輪廓 縦十四センチメートル 横十七センチメートル)

〔輯八〇〕

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ四 北支事件特別稅

第二種所得特別稅(利益配當特別稅、拂込書、公債及社債利子特別稅)

管 所 省 拓 年 度 何 號	何 年 度	何 號	第 二 種 所 得 特 別 稅 (利益配當特別稅、公債及社債利子特別稅)	第 二 種 所 得 特 別 稅 (利益配當特別稅、公債及社債利子特別稅)	何 稅 務 署
北支事件特別稅					
Y					

頭書ノ金額拂込候也

何 銀行 代 表 者 氏 名 印

(公共團體又ハ銀行以外ノ會社等之ニ準ズ)

日 本 銀 行 何 代 理 店 宛

年 月 日



通知書

第何號	何年度	拓務省	所管
朝鮮歳入	北支事件特別稅	所得特別稅 (利益配當特別稅、 公債及社債利子特別稅)	第二種所得特別稅 (利益配當特別稅、 公債及社債利子特別稅)

何銀行代表者 氏名納  
(公共團體又ハ銀行以外ノ會社等之ニ準ズ)

Y

年月日領收  
日本銀行何代理店 氏名殿  
何稅務署長官 氏名殿

領收證書

第何號	何年度	第二種所得特別稅 (利益配當特別稅、 公債及社債利子特別稅)
-----	-----	--------------------------------------

何銀行代表者 氏名納  
(公共團體又ハ銀行以外ノ會社等之ニ準ズ)

Y

年月日  
日本銀行何代理店 氏名殿

備考 日本銀行代理店ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

〔輯八〇〕

備考

- 支拂フべき金額ノ額ニハ其ノ月ニ於テ支拂フべき額ノ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲グルモノトス但シ銀行預金利子及貸付信託ノ利益ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルコトヲ得
- 非課稅ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添附スルモノトス
- 貸付信託ニ付テハ朝鮮所得稅令第三十五條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ控除シタル第二種所得稅額ヲ第二種所得稅額ニ外算スルモノトス

何年何月分計算書  
北支事件特別稅徵收高ノ分  
第二種所得特別稅

區分	何公債利子 何社債利子 何債券利子 配當	費與 期金當金 定預特別預金 通預當預	支拂金額		支拂未額	第二種所得稅額	稅額	摘要
			課稅	非課稅				
銀行預金利子								
貸付信託ノ利益								
合計								

第三號書式(用紙縱二十四センチメートル)

〔輯八七〕



備考

- 一 支拂ツベキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂ツベキコトノ確定シタル金額ノ前  
月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲グルモノトス
- 二 非課稅ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

北支事件特別稅徵收高計算書  
「利益配當特別稅ノ分」

支拂ツベキ金額	支拂濟金額		非課稅額	支拂未済金額	稅額	摘要
	限	七分以上ノ金額				
面	面	面	面	面	面	面
面	面	面	面	面	面	面
面	面	面	面	面	面	面
面	面	面	面	面	面	面
面	面	面	面	面	面	面
面	面	面	面	面	面	面
面	面	面	面	面	面	面
面	面	面	面	面	面	面
面	面	面	面	面	面	面

【肆八七】

第四號書式(用紙縱二十四センチメートル)

【肆一一】

備考

- 一 支拂ツベキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂ツベキコトノ確定シタル金額ノ前  
月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲グルモノトス
- 二 非課稅ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

何年何月分  
北支事件特別稅徵收高計算書  
公債及社債利子特別稅ノ分

區分	支拂ツベキ金額	支拂濟稅額		非課稅額	支拂未済金額	稅額	摘要
		四分五厘以下ノ金額	四分五厘超過ノ金額				
何公債利子	面	面	面	面	面	面	
何社債利子	面	面	面	面	面	面	
計	面	面	面	面	面	面	

第五號書式(用紙縱二十四センチメートル)

(公共團體又ハ銀行以外ノ會社等之ニ準ズ)

何 銀 行

年 月 日



### 臺灣北支事件特別稅令

昭和十二年八月十二日  
律令第十四號

改正 昭和十三年第三號

臺灣北支事件特別稅令大正十年法律第三號ニ依リ勅裁ヲ得テ茲ニ之ヲ公布ス

#### 臺灣北支事件特別稅令

- 第一條 北支事件特別稅ハ之ヲ左ノ五種トス
  - 一 所得特別稅
  - 二 臨時利得特別稅
  - 三 利益配當特別稅
  - 四 公債及社債利子特別稅
  - 五 物品特別稅
- 第二條 所得特別稅ハ所得稅ヲ納ムル者ニ之ヲ課ス
- 第三條 第一種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ法人ノ本令施行後一年內ニ終了スル各事業年度ノ所得(清算所得ヲ除ク)ニ付之ヲ賦課シ其ノ所得ニ對スル臺灣所得稅令ニ依リ算出シタル第一種所得稅額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第四條 第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ本令施行後一年內ニ支拂ヲ受クル第二種甲及乙ノ所得(國債ノ利子ヲ除ク)ニ付之ヲ賦課シ其ノ所得ニ對スル臺灣所得稅令ニ依リ算出シタル第二種所得稅額ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第五條 第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ昭和十二年分第三種所得ニ付之ヲ賦課シ其ノ所得ニ對スル第三種所得稅額ノ百分ノ七・五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第六條 第一種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス  
第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ第二種所得金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ  
第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ其ノ稅額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ臺灣外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得特別稅ヲ徵收スルコトヲ得

第七條 臨時利得特別稅ハ臨時利得稅ヲ納ムル者ニ之ヲ課ス  
第八條 法人ノ臨時利得特別稅ハ本令施行後一年內ニ終了スル各事業年度ノ利得ニ付之ヲ賦課シ其ノ利得ニ對スル臨時利得稅額ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第九條 個人ノ臨時利得特別稅ハ昭和十二年分利得ニ付之ヲ賦課シ其ノ利得ニ對スル臨時利得稅額ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十條 法人ノ臨時利得特別稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス  
個人ノ臨時利得特別稅ハ其ノ稅額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ臺灣外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得特別稅ヲ徵收スルコトヲ得

〔輯八七〕

七二〇ノ三三三

第十條 法人ノ臨時利得特別稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ臨時利得特別稅ハ其ノ稅額ヲ二分シ左ノ二期ニ於テ之ヲ徵收ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ臺灣外ニ住所又ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ臨時利得特別稅ヲ徵收スルコトヲ得

前期 昭和十二年十月一日ヨリ二十五日限  
後期 昭和十三年三月一日ヨリ二十五日限

第十一條 利益配當特別稅ハ臺灣ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ利益配當特別稅ヲ課セズ

第十二條 利益配當特別稅ハ本令施行後一年內ニ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十三條 利益配當特別稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十四條 公債及社債利子特別稅ハ臺灣ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子特別稅ヲ課セズ

第十五條 公債及社債利子特別稅ハ本令施行後一年內ニ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(臺灣外貨債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク)ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超

#### 第一種

- 一 寶石若ハ半寶石又ハ之ヲ用ヒタル製品
- 二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品
- 三 貴金屬製品又ハ貴金屬ヲ用ヒタル製品
- 四 藍甲製品

第二十條 物品特別稅ハ左ニ掲グル物品ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノニ之ヲ課ス

第十六條 公債及社債利子特別稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十七條 第六條第二項、第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十八條 臺灣所得稅令第十二條及第十三條ノ規定ハ第一種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅及法人ノ臨時利得特別稅ニ付之ヲ準用ス但シ南洋羣島ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 利益配當特別稅ヲ課セルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子特別稅ヲ課セルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス



五 珊瑚製品

第二種

- 一 寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品
- 二 寫眞用乾板、フィルム及感光紙
- 三 蓄音器及同部分品
- 四 蓄音機用レコード
- 五 樂器及同部分品

第二十一條 物品特別稅ノ稅率ハ價格百分ノ二十トス

前項ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラレル物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

第二十二條 物品特別稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ヨリ、第二種ノ物品ニ付テハ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラレル物品ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第二十三條 第一種ノ物品ノ小賣業者ハ毎月其ノ販賣シタル物品ニ付、第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十日迄ニ提出スベシ

第一種又ハ第二種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ臺灣總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ  
申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第二十四條 物品特別稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第二十二條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

第二十五條 左ニ掲グル物品ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ物品特別稅ヲ免除ス

- 一 輸出スルモノ
- 二 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スルモノ
- 三 其ノ他臺灣總督ノ定ムル用途ニ供スルモノ

第二十六條 第一種ノ物品ノ小賣業者ヲ營マントスル者又ハ第二種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スベシ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第二十七條 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ  
第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十八條 稅務官吏ハ第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ
- 二 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類
- 三 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

〔輯七八〕

〔輯八〇〕

第二十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ所得特別稅、臨時利得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル者ハ其ノ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ料料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務官署ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第三十條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品特別稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル者ハ其ノ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ其ノ五倍ニ相當スル金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第三十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ料料ニ處ス

- 一 第二十三條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者
- 二 政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品ヲ製造シタル者

第三十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ料料ニ處ス

- 一 第二十七條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者
- 二 第二十七條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者
- 三 第二十八條ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ヲ執行ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者

第三十三條 第二十九條又ハ第三十條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ四 北支事件特別稅

第二十二條 財務 第二章 租稅 第四款ノ四 北支事件特別稅

第二十二條 財務 第二章 租稅 第四款ノ四 北支事件特別稅  
第二十二條 財務 第二章 租稅 第四款ノ四 北支事件特別稅

第二十四條 物品特別稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第二十二條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

第二十五條 左ニ掲グル物品ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ物品特別稅ヲ免除ス

- 一 輸出スルモノ
- 二 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スルモノ
- 三 其ノ他臺灣總督ノ定ムル用途ニ供スルモノ

第二十六條 第一種ノ物品ノ小賣業者ヲ營マントスル者又ハ第二種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スベシ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第二十七條 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ  
第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十八條 稅務官吏ハ第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ
- 二 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類
- 三 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

〔輯七八〕

〔輯八〇〕

第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ

第三十四條 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令中物品特別稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス  
第三十五條 州、廳地方費、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ北支事件特別稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第三十六條 本令ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

物品特別稅ニ關スル規定ハ昭和十三年三月三十一日以前ニ於テ物品特別稅ヲ課セラルベキ販賣、製造場ヨリ移出又ハ保稅地域ヨリ引取ヲ爲シタル第一種又ハ第二種ノ物品ニ付之ヲ適用ス  
本令施行前ヨリ引續キ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ第二種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

臺灣北支事件特別稅令施行規則

昭和十二年八月十二日 臺灣總督府令第六十六號

臺灣北支事件特別稅令施行規則

臺灣北支事件特別稅令施行規則左ノ通定ム  
第一條 臺灣北支事件特別稅令第六條第二項、第十三條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ第二種所得金額、配當金又ハ利子金額ノ支拂者所得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ



別記第一號書式ノ拂込書及別記第三號乃至第五號書式ノ計算書ヲ添へ之ヲ所轄稅務官署所轄内ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ

日本銀行前項ノ拂込ヲ受ケタルトキハ別記第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歳入徵收官ニ(稅務出張所ノ分掌區域内ニ於テハ歳入徵收分掌官ヲ經由シ)送付スベシ

第二條 第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ノ過誤納アリタル爲之ガ下戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金等ノ支拂地ヲ管轄スル知事又ハ廳長ニ請求書ヲ提出スベシ

第三條 臺灣所得稅令施行規則第四十三條、第四十四條及第四十六條乃至第四十八條ノ規定ハ第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅及個人ノ臨時利得特別稅ニ付之ヲ準用ス

第四條 臺灣北支事件特別稅令第二十條ノ規定ニ依リ物品特別稅ヲ課スベキ物品ヲ定ムルコト左ノ如シ  
第一種

- 一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品
- イ 貴石半貴石
- イ ヤモンド、ルビー、サファイヤ、アレキサンドライト、トパーズ、スピネル、エメラルド、トールマリン、ジルコン、グリソライト、カーネット、オパール、翡翠、水晶、瑪瑙、猫眼石、虎眼石、孔雀石、土耳其玉、月長石及ヘマタイト
- ロ 貴石又ハ半貴石ヲ用ヒタル製品

〔輯八〇〕

二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品

イ 天然眞珠及養殖眞珠

ロ 眞珠ヲ用ヒタル製品

三 貴金屬製品又ハ貴金屬ヲ用ヒタル製品

イ 貴金屬製品但シ萬年筆用金ペンヲ除ク

ロ 金側又ハ白金側ノ時計

ハ 金屏風

ニ 其ノ他貴金屬ヲ用ヒタル製品

四 釐甲製品

五 珊瑚製品

第二種

一 寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品

イ 寫眞機但シ航空機用ノモノ及顯微鏡用ノモノヲ除ク

ロ 寫眞引伸機

ハ 映寫機

ニ 寫眞機部分品及附屬品

レンズ(シャッター附ノモノヲ含ム)、暗函(蛇腹ノ有無ヲ別タズ)、シャッター、フィルムパックホルダー、取棒、フラインダー、三脚臺、カラーフィルムター、セルフタイマー、露出計、距離計及寫眞機用又ハ三脚臺用ケース  
ホ 寫眞引伸機部分品  
暗函、コンデンサー、レンズ及支持臺  
ハ 映寫機部分品及附屬品

〔輯八〇〕

コンデンサー、レンズ、發聲裝置、フィルム巻取機、カラースクリーン及映寫機用ケース

二 寫眞用乾板、フィルム及感光紙

イ 寫眞用乾板但シ航空機用ノモノ及エフクス線用ノモノヲ除ク

ロ 寫眞用フィルム但シ航空機用ノモノ及エフクス線用ノモノヲ除ク

ハ 寫眞用感光紙

三 蓄音器及同部分品

イ 蓄音器(ラヂオ聴取裝置ヲ附シタルモノヲ含ム)

ロ 蓄音器部分品

蓄音器匣、サウンドボックス、移動腕金、マグネチックピクアップ

ブ、蓄音器用モーター、回轉盤、動力用センマイ及蓄音器用針

四 蓄音器用レコード(トイキー用ノモノヲ含ム)但シ六吋以下ノ紙製ノモノヲ除ク

五 樂器及同部分品

イ 樂器  
ピアノ、オルガン、アコーディオン、ハーモニカ、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、コントラバス、マンドリン、マンドラ、マンドリラ、ギター、バラライカ、ウクレレ、バンジョー、フリユート、ピッコロ、クラリネット、オーボエ、バズーン、ホルネット、トランペット、トロンボーン、アルト、バリトン、チューバ、サ

第七條 第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第六條 臺灣北支事件特別稅令第二十條ニ掲グル第二種ノ物品(以下第二種物品ト稱ス)ヲ製造セントスル者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務官署ニ提出スベシ

第五條 臺灣北支事件特別稅令第二十條ニ掲グル第一種ノ物品(以下第一種物品ト稱ス)ノ小賣業者又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務官署ニ提出スベシ

第四條 第一種ノ物品ニシテ一個ノ價格三圓未滿ノモノ又ハ貴石、半貴石、眞珠若ハ貴金屬ヲ用ヒタル物品ニシテ此等ノ部分ノ價格(二種以上ノモノヲ用ヒタルモノ)ニ付テハ其ノ價格ヲ合算スガ全體ノ價格ノ三分ノ一未滿ノモノニハ物品特別稅ヲ課セズ但シ金側又ハ白金側ノ時計及金屏風ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三條 前項ノ場合ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ謂フ

第二條 第一種ノ物品ニシテ一個ノ價格三圓未滿ノモノ又ハ貴石、半貴石、眞珠若ハ貴金屬ヲ用ヒタル物品ニシテ此等ノ部分ノ價格(二種以上ノモノヲ用ヒタルモノ)ニ付テハ其ノ價格ヲ合算スガ全體ノ價格ノ三分ノ一未滿ノモノニハ物品特別稅ヲ課セズ但シ金側又ハ白金側ノ時計及金屏風ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第一條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務官署ニ申告スベシ



第八條 知事又ハ廳長ハ必要ト認ムルトキハ第二種物品ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第九條 第五條乃至第七條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務官署ニ申告スベシ

第十條 第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品ノ製造業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第十一條 第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品ノ製造業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第十二條 第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者販賣場又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第五條又ハ第六條及前條ノ規定ニ準ズル申告ヲ爲スベシ

第十三條 第一種物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品特別稅ハ之ヲ徵收セズ

第十四條 第一種物品ノ販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

第十五條 臺灣北支事件特別稅令第二十三條第二項ノ規定ニ依ル申告書ノ提出ヲ要セズ

第十六條 臺灣北支事件特別稅令第二十三條第一項ノ規定ニ依ル申告書ハ所轄稅務官署ニ之ヲ提出スベシ

第十七條 臺灣北支事件特別稅令第二十三條第二項ノ規定ニ依ル申告ニ付之ヲ準用ス

第十八條 臺灣北支事件特別稅令第二十五條第三號ノ規定ニ依リ物品特別稅ヲ免除スル物品ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 學術研究用ニ供スルモノ  
二 醫療用ニ供スルモノ  
三 機械用又ハ工業用ニ供スルモノ  
四 教育用ニ供スルモノ

第十九條 臺灣北支事件特別稅令第二十五條第三號ノ規定ニ依リ物品特別稅ヲ免除スル物品ハ中等學校、小學校、公學校、國語講習所又ハ蕃地ニ於ケル教育所ニ於テ使用スル寫真機、映寫機、寫真用フィルム、ピアノ及オルガンニ限ル

第二十條 第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者臺灣北支事件特別稅令第二十五條及前條ノ規定ニ依リ物品特別稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種物品ヲ引渡シ又ハ第二種物品ヲ製造場ヨリ移出スル際豫メ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受ケルベシ

〔轉八〇〕

前二項ノ規定ハ第一種物品又ハ第二種物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ガ臺灣北支事件特別稅令第二十五條及前條ノ規定ニ依リ物品特別稅ノ免除ヲ受ケントスル場合ニ付之ヲ準用ス

第十七條 第一種物品又ハ第二種物品ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 受入レタル物品ノ品名、數量、價格及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二 販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣ノ日並ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ但シ所轄稅務官署監督上必要アリト認メ其ノ記載ヲ命ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 第一種物品又ハ第二種物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 受入レタル材料ノ種類、數量及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二 使用シタル材料ノ種類、數量及使用ノ日

三 製造シタル物品ノ品名、數量及製造ノ日

四 販賣シ又ハ移出シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣又ハ移出ノ日並ニ其ノ買受人又ハ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

前條第二項ノ規定ハ前項第四號ニ掲グル事項ノ記載ニ付之ヲ準用ス

第十九條 販賣場ヲ有セズシテ第一種物品ノ小賣業ヲ營ム者ニ在リテハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ販賣場ト看做ス

第二十條 本令中稅務官署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラレル物品ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號書式(用紙適宜輪廓 縱十四釐 橫十釐)

第何號	何年度	何臺灣總督府歲入	拓務省主管
北支事件特別稅	所得特別稅(利益配當特別稅、公債及社債利子特別稅)	第二種所得特別稅(利益配當特別稅、公債及社債利子特別稅)	稅務官 何 某團
Y			何 會社
頭書ノ金額拂込候也			代表者 何
日本銀行代理店宛			
昭和何年何月何日			

備考 本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スベシ

〔轉八〇〕



領收済通知書

第何號	何臺灣總督府歲入年度	拓務省主管
北支事件特別税	所得特別税(利益配當及社債特別税)	特別税(利益配當及社債特別税)
稅額	何官	稅署

何會社 代表者 何 某 納

昭 and 何年何月何日領收

日本銀行代理店 閣

歳入徴收官 官 氏 名 股

第三號書式(用紙適宜輪廓横十四釐縦十四釐)



領收證書

第何號	何臺灣總督府歲入年度	第二種所得特別税(利益配當及社債特別税)
何會社	代表者 何 某 納	
昭 and 何年何月何日領收		

日本銀行代理店 閣

日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

【記入〇】

【記入〇】

昭和何年何月何日 北支事件特別税徴收特別税 第二種所得特別税

區分	支拂金額	支拂済金額		支拂済金額	第二種所得特別税	稅額	摘要
		課税	非課税				
何公債利子							
何社債利子							
配當							
賞與							
銀行預金利子							
計							
合							

第三號書式(用紙縦二十二釐横十七釐)

備考

- 一 支拂ツベキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂ツベキコトノ確定シタル金額ト前月ノ分支拂未済金額トノ合計ヲ掲ガルモノトス但シ銀行預金利子ニ付テハ現實支拂ヲ爲シタル金額ノミニヨリ調理スルモ妨ナシ
- 二 公債、社債ノ支拂済利札枚數及銀行預金利子ノ支拂済口數ヲ課税非課税ニ區分シ摘要欄ニ記載スルモノトス
- 三 非課税ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス







之ヲ政府ニ納ムベシ

第十一條ノ二 臺灣所得稅令第五十二條ノ二ノ規定ハ利益配當稅ニ付之ヲ準用ス

第十二條 公債及社債利子稅ハ臺灣ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス

臺灣所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子稅ヲ課セズ

第十三條 公債及社債利子稅ハ臺灣ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(臺灣外債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外債債ヲ除ク)ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十四條 公債及社債利子稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十五條 利益配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子稅ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)、資本利子稅又ハ配當稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

前項ノ規定ハ配當利子特別稅法施行地、朝鮮、關東州若ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ配當利子特別稅、利益配當稅若ハ公債及社債利子稅ヲ課セラレ又ハ南洋群島ニ於ケル法令ニ依リ超過配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付之ヲ準用ス

第十二條 相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス  
第十五條ノ六 左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ建築稅ヲ課セズ  
一 建築價額一萬圓未満ノ家屋  
二 公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲州廳、市街庄其ノ他臺灣總督ノ指定スル公共團體ガ建築シタル家屋  
三 其ノ他臺灣總督ノ定ムル家屋  
第十五條ノ七 左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ建築稅ヲ免除ス  
一 災害ニ因リ滅失又ハ損壞シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋  
二 法令ニ依リ收用又ハ使用セラレタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋及法令ニ依ル敷地ノ收用又ハ使用ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋  
三 其ノ他臺灣總督ノ定ムル家屋

第十五條ノ二 建築稅ハ左ニ掲グル家屋ヲ建築(増築及改造ヲ含ム)以下同シ)シタル者ニ之ヲ課ス

一 居住ノ用ニ供スル家屋  
二 料理店業、席貸業其ノ他之ニ類スル營業ノ用ニ供スル家屋ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノ

三 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物(相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム)ノ開催ノ用ニ供スル家屋

四 旅館ノ用ニ供スル家屋  
五 麻雀場、撞球場其ノ他臺灣總督ノ定ムル遊技場ノ用ニ供スル家屋

六 俱樂部、會館其ノ他名稱ノ何タルヲ問ハズ會員其ノ他臺灣總督ノ定ムル者ノ親睦ヲ圖リ又ハ其ノ慰安若ハ娛樂ノ用ニ供スル家屋

第十五條ノ三 建築稅ハ家屋(附屬工作物ヲ含ム)以下同シ)一構毎ニ其ノ建築價額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

前項ノ建築價額ノ算定ニ關シテハ臺灣總督之ヲ定ム  
一構ノ家屋ノ一部ガ前條ノ家屋ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ部分ヲ以テ一構ノ家屋ト看做ス

第十五條ノ四 第十五條ノ二ニ掲グル家屋ヲ新築シタル者新築竣成後一年內ニ其ノ家屋ト一構ト爲ルベキ建築ヲ爲シタル場合ニ於テハ前後ノ建築ヲ通ジテ一建築ト看做シ本令ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課スベキ場合ニ於テ既ニ建築稅ヲ課シタル部分アルトキハ其ノ建築稅ニ相當スル金額ヲ建築稅額ヨリ控除ス

第十五條ノ五 建築稅ハ建築價額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額ノ百分ノ二

第十五條ノ十二 納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキハ建築價額ノ申告、納稅其ノ他建築稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ  
第十五條ノ十三 本令ノ適用ニ付テハ被相續人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ相續人ノ爲シタルモノト看做シ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ爲シタルモノト看做ス  
第十六條 通行稅ハ汽車、乗合自動車及汽船ノ乘客ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

【輯一三一】

【輯一三二】

乗車船區間四十軒以下ナルトキ  
一等 三十錢  
二等 十五錢

乗車船區間八十軒以下ナルトキ  
一等 五十錢  
二等 二十五錢

乗車船區間百二十軒以下ナルトキ  
一等 一圓五十錢  
二等 七十五錢

一等 十五錢  
二等 七十五錢

一等 一圓  
二等 一圓五十錢

第十五條ノ八 建築稅ニ付納稅義務アル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ建築價額ヲ政府ニ申告スベシ  
第十五條ノ九 建築價額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス  
第十五條ノ十 建築稅ハ建築竣成ノ際之ヲ徵收ス  
第十五條ノ十一 建築稅ハ家屋ノ所在地ヲ以テ納稅地トス  
市街庄ノ區域外ニ建築シタル家屋ニ付テハ納稅義務者ハ市街庄ノ區域內ニ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スベシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス



三等 三十錢  
乘車船區間三百料以下ナルトキ

二等 五圓  
一等 二圓五十錢  
乘車船區間五百料以下ナルトキ

三等 七十錢  
二等 三圓五十錢  
一等 七圓  
乘車船區間五百料ヲ超ユルトキ

同數乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス  
一等 五十圓  
二等 一圓

同數二十回以下ナルトキ  
前項稅額ノ五倍

同數五十回以下ナルトキ  
前項稅額ノ十倍

同數五十回ヲ超ユルトキ  
前項稅額ノ二十倍

定期乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス  
前項稅額ノ二十倍

契約期間一月内ナルトキ

契約期間三月内ナルトキ

契約期間六月内ナルトキ

契約期間六月ヲ超ユルトキ

團體乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス  
第一項稅額ノ三十倍

人員五十人以下ナルトキ  
第一項稅額ノ二十倍

人員百人以下ナルトキ

人員二百人以下ナルトキ

人員二百人ヲ超ユルトキ

貨切乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス  
第一項稅額ノ五倍

一等 貨切運賃ノ百分ノ二十  
二等 貨切運賃ノ百分ノ十五  
三等 貨切運賃ノ百分ノ十

前項ノ規定ニ依ル稅額ハ第一項稅額ニ乗客定員數ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ  
第一項乃至第三項ニ規定スル通行稅ハ十二歳未満ノ乗客ニ付テハ其ノ半額トス

前項ノ稅額二十錢ニ滿タザル端數アル場合ニ於テハ其ノ端數ガ五錢以上ナルトキハ之ヲ五錢トシ五錢ニ滿タザルトキハ之ヲ切捨ツ但シ其ノ全額五錢ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條ノ二 急行車船又ハ寢臺車船ニ乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ルノ外左ノ稅率ニ依リ通行稅ヲ課ス  
一等 急行料金又ハ寢臺料金ノ百分ノ三十  
二等 急行料金又ハ寢臺料金ノ百分ノ二十  
三等 急行料金又ハ寢臺料金ノ百分ノ十

前條第八項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ニ付テハ準用ス

第十七條 乗車船區間四十料以下ノ三等乗客及定期乗車船ノ契約ニ依ル三等乗客ニハ通行稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル通行稅ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
陸海軍ノ團體トシテノ乗車船ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノニハ通行稅ヲ課セズ

第十八條 往復乗車船又ハ週遊乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十六條第一項及前條第一項ノ乗車船區間ノ料率ノ計算ハ臺灣總督之ヲ定ム

第十九條 汽車、乗合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第十六條第一項、第五項及第十七條第一項ノ等級ハ臺灣總督之ヲ定ム乗客定員數ノ定ナキ車船ニ付貨切乗車船ノ契約ヲ

爲シタル場合ニ於ケル第十六條第六項ノ乗客定員數ニ付亦同シ

第二十條 通行稅ハ汽車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者（以下運輸業者ト稱ス）運賃、急行料金又ハ寢臺料金領收ノ際之ヲ徵收シ翌月二十五日迄ニ政府ニ納ムベシ

第二十一條 汽車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ムントスル者及運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣セントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第二十二條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ  
運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十三條 入場稅ハ左ニ掲グル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス  
第一種  
一 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物（相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）ヲ催ス場所  
二 競馬場  
三 前二號ニ掲グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀覽又ハ遊戯ニ供スル場所ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノ

第二種  
一 舞踏場、麻雀場、撞球場



二 ゴルフ場、スケート場

第二十四條 入場稅ノ稅率左ノ如シ

第一種ノ場所

入場料ガ一人一回七十五錢未滿ナルトキ

入場料ノ百分ノ十五

入場料ガ一人一回一圓五十錢未滿ナルトキ

入場料ノ百分ノ二十五

入場料ガ一人一回三圓未滿ナルトキ

入場料ノ百分ノ三十五

入場料ガ一人一回四圓五十錢未滿ナルトキ

入場料ノ百分ノ四十五

入場料ガ一人一回四圓五十錢以上ナルトキ

入場料ノ百分ノ六十

回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルトキ

入場料ノ百分ノ三十五

第二種ノ場所

撞球場、スケート場

入場料ノ百分ノ十五

入場料ノ百分ノ二十五

入場料ノ百分ノ四十五

本令ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ

第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ臺灣總督之ヲ定ム

第二十五條 第一種ノ場所ノ入場料ガ一人一回二十九錢ニ滿タザル場合ニ

ハ入場稅ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十六條 第一種ノ催物(第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、

觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同シ)若ハ設備ノ主催者若ハ經營者

又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ

収益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他臺灣總督ノ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テ

ハ入場稅ヲ免除ス

第二十七條 入場稅ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二

種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベ

シ但シ常時開設ニ非ザルモノニ付テハ臺灣總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外

終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第二十八條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ

經營セントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告

スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第二十九條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所

ノ經營者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記

載スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ

臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告ス

ベシ

第三十條 特別入場稅ハ運動競技ニシテ學生生徒又ハ該競技ヲ爲スコトヲ

業トセザル者ノ行フモノニ付觀覽ノ爲競技場ニ入場スル者ヨリ料金ヲ徵

〔輯一三一〕

〔輯一三一〕

スル場合ニ於テ其ノ入場者ニ之ヲ課ス

第三十一條 特別入場稅ノ稅率左ノ如シ

特別入場料ガ一人一回一圓五十錢未滿ナルトキ

特別入場料ノ百分ノ十五

特別入場料ガ一人一回一圓五十錢以上ナルトキ

特別入場料ノ百分ノ二十五

回数、定期又ハ貸切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルトキ

特別入場料ノ百分ノ二十五

本令ニ於テ特別入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ前條ノ競技場ニ入場ス

ル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

第二十四條第三項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

第三十二條 特別入場料ガ一人一回二十九錢ニ滿タザル場合ニハ特別入場

稅ヲ課セズ

第二十五條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第三十三條 特別入場稅ハ運動競技ノ主催者特別入場料領收ノ際之ヲ徵收

シ競技終了後直ニ政府ニ納ムベシ但シ臺灣總督ノ定ムル場合ニ於テハ翌

月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第三十四條 第二十六條、第二十八條及第二十九條ノ規定ハ特別入場稅ニ

付之ヲ準用ス

第三十五條 物品稅ハ左ニ掲グル物品ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノニ之ヲ

課ス

第一種

甲類

- 一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品
  - 二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品
  - 三 貴金屬製品又ハ金若ハ白金ヲ用ヒタル製品
  - 四 釐甲製品
  - 五 珊瑚製品、琥珀製品、象牙製品及七寶製品
  - 六 毛皮又ハ毛皮製品
  - 七 羽毛製品又ハ羽毛ヲ用ヒタル製品
- 乙類
- 八 時計
  - 九 文房具
  - 十 身邊用細貨類
  - 十一 化粧用具
  - 十二 喫煙用具
  - 十三 帽子、杖、鞭及傘
  - 十四 靴及トラング類並ニ行李
  - 十五 履物
  - 十六 書畫及骨董
  - 十七 室内裝飾用品
  - 十八 玩具、遊戲具、搖籃及乳母車類
  - 十九 運動具
  - 二十 照明器具
  - 二十一 電氣器具及瓦斯器具
  - 二十二 圍碁及將棋用具



- 二十三 家具
- 二十四 漆器、陶磁器及硝子製器具ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ
- 二十五 貴金屬ヲ鍍シ又ハ張リタル製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ
- 二十六 皮革製品ニシテ別號ニ掲ゲザルモノ
- 二十七 織物、メリヤス、レース、フェルト及同製品並ニ組物
- 二十八 果物
- 二十九 菓子
- 三十 盆栽、盆石及鉢植類
- 三十一 愛玩用動物及同用品
- 三十二 庭木並ニ庭園用ノ石材及石工品
- 三十三 簾、釣燈籠及提灯類
- 三十四 鐵瓶並ニ茶道及香道用具
- 三十五 扇子及團扇
- 三十六 花輪及花束類
- 三十七 釣用具類
- 丙類
- 三十八 靴
- 三十九 事務用器具
- 第二種
- 甲類
- 一 寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品
- 二 寫眞用ノ乾板、フィルム及感光紙
- 三 蓄音器及同部分品

- 四 蓄音器用レコード
- 五 樂器、同部分品及附屬品
- 六 雙眼鏡及隻眼鏡
- 七 銃及同部分品
- 八 藥莢及彈丸
- 九 ゴルフ用具、同部分品及附屬品
- 十 娛樂用ノモーターボート、スカール及ヨット
- 十一 撞球用具
- 十二 ネオン管及同變壓器
- 十三 喫煙用ライター
- 十四 乗用自動車
- 十五 化粧品
- 十六 爆竹
- 十七 禮拜紙
- 乙類
- 十八 ラジオ機取機及同部分品
- 十九 受信用真空管、マイクrohホン、擴聲用增幅器及擴聲器
- 二十 扇風器及同部分品
- 二十一 暖房用ノ電氣、瓦斯又ハ礦油ストーブ
- 二十二 冷蔵庫及同部分品
- 二十三 金庫及鋼鐵製家具
- 二十四 シャンプー及洗粉
- 二十五 紅茶、烏龍茶、包種茶、珈琲及其ノ代用物並ニココア

〔料一三一〕

〔料一三一〕

- 二十六 嗜好飲料
- 二十七 煙火類
- 二十八 薰物及線香類
- 二十九 大理石及之ヲ原料トスル擬石並ニ陶磁器製タイル
- 丙類
- 三十 電球類
- 三十一 携行用ノ電燈、同ケース及電池
- 三十二 魔法瓶、水筒類及同部分品
- 三十三 計算機
- 三十四 タイプライター、同部分品及附屬品
- 三十五 輪轉寫機及同附屬品
- 三十六 金錢登錄機
- 三十七 タイムスタンブ及同附屬品
- 三十八 ミシン及ミシン用針
- 三十九 板硝子
- 四十 紙及セロファン
- 四十一 齒磨
- 四十二 綠茶
- 四十三 調味料

- 第三種
- 一 燐寸
- 二 飴、葡萄糖及麥芽糖
- 三 サツカリ

同一物品ニシテ第一種及第二種ニ該當スルモノハ之ヲ第二種トシ甲類及乙類若ハ甲類及丙類又ハ甲類、乙類及丙類ニ該當スルモノハ之ヲ甲類トシ乙類及丙類ニ該當スルモノハ之ヲ乙類トス

第三十六條 物品稅ノ稅率左ノ如シ

- 第一種
- 甲類 物品ノ價格百分ノ五十
- 乙類 物品ノ價格百分ノ二十
- 丙類 物品ノ價格百分ノ十
- 第二種
- 甲類 物品ノ價格百分ノ五十
- 乙類 物品ノ價格百分ノ二十
- 丙類 物品ノ價格百分ノ十
- 第三種
- 一 燐寸 千本ニ付 五錢
- 二 飴、葡萄糖及麥芽糖
  - イ 麥芽糖化ノ方法ニ依リ製造シタル飴 百斤ニ付 二圓五十錢
  - ロ 其ノ他ノ飴並ニ葡萄糖及麥芽糖 百斤ニ付 三圓
- 三 サツカリ 一庇ニ付 十圓
- 第三種
- 一 燐寸 千本ニ付 五錢



二 飴、葡萄酒及麥芽糖

イ 麥芽糖化ノ方法ニ依リ製造シタル飴 百斤ニ付 二圓

ロ 其ノ他ノ飴並ニ葡萄酒及麥芽糖 百斤ニ付 二圓五十錢

第三十七條 前條ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ラレル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ税金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス

前項ノ價格及價寸ノ本數ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム  
第三十八條 物品稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ販賣セラレタル物品ノ價格ニ應ジ小賣業者ヨリ、第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出セラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ラレル物品ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ラレタル物品ノ價格又ハ數量ニ應ジ引取人ヨリ之ヲ徵收ス

第三十九條 第一種第十六號ニ掲グル物品ガ入札其ノ他競争ノ方法ニ依リ賣買セララルル場合(強制賣買又ハ之ニ準ズベキ場合ヲ除ク)ハ其ノ札元又ハ之ニ準ズベキ者ガ小賣業者トシテ當該物品ヲ販賣スルモノト看做ス  
第四十條 製造場以外ノ場所ニ於テ販賣ノ爲ニ化粧品、シャンプー、洗粉、嗜好飲料、薰物類、線香類、齒磨又ハ調味料ヲ容器ニ充填シ又ハ改装スルトキハ之ヲ化粧品、シャンプー、洗粉、嗜好飲料、薰物類、線香類、齒磨又ハ調味料ノ製造ト看做ス  
第四十條ノ二 左ニ掲グル場合ニ於テハ嗜好飲料、飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ハ之ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做ス

一 嗜好飲料ヲ製造場内ニ於テ飲用シタルトキ

二 飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ製造場内ニ於テ飴、葡萄酒又ハ麥芽糖以外ノ製品ノ原料トシテ使用シタルトキ

第四十一條 第一種ノ物品ノ小賣業者ハ毎月其ノ販賣シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ、第三種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量ヲ記載シタル申告書ヲ翌月五日迄ニ政府ニ提出ス

第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル者ハ臺灣總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出ス  
申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第四十二條 小賣業者ガ其ノ販賣シタル第一種ノ物品ノ返還ヲ受ケタル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ返還ヲ受ケタル月分以降ノ稅額ヨリ其ノ物品ニ課セラレタル物品稅ニ相當スル金額ヲ控除ス製造場ヨリ移出シタル第二種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シタル場合亦同シ  
製造場ヨリ移出シタル第三種ノ物品ヲ同一製造場内ニ戻入シタル場合ニ於テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出スルモノ更ニ物品稅ノ徵收ヲ爲サズ

第四十三條 物品稅ハ毎月分ヲ翌月二十五日迄ニ納付スベシ但シ第三十八條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ  
臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付物品稅額ニ相當

〔輯一三二〕

〔輯一三一〕

スル擔保ヲ提供シタルトキハ一月内物品稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得  
關稅法第三十四條但書ノ規定ニ依リ保稅地域ヨリ引取ル物品ニ付テハ第一項但書ノ規定ニ拘ラズ輸入免許ヲ受ケタル際物品稅ヲ納付スベシ此ノ場合ニ於テハ引取ノ際其ノ税金ノ擔保ヲ提供スルコトヲ要ス

第四十四條 臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ他ノ製造場又ハ藏置場ニ移入スル目的ヲ以テ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル第二種又ハ第三種ノ物品ニ付テハ第三十八條ノ規定ヲ適用セズ  
前項ノ場合ニ於テハ移出先又ハ引取先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス

第一項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先又ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ製造者又ハ引取人ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ減失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ物品稅ヲ免除ス

第四十五條 臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シ又ハ保稅地域ヨリ引取ル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ付テハ物品稅ヲ免除ス

一 第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スル第二種ノ物品  
二 飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ノ製造ノ用ニ供スル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖  
三 輸出スル菓子、糖果其ノ他臺灣總督ノ定ムル物品ノ製造ノ用ニ供スル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖

前條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ移出先若ハ引取先ニ移入セラレタルコトノ證明ナキモノ又ハ移出先若ハ引取先ニ移入前其ノ用途ヲ變更セラレタルモノニ付之ヲ準用ス

第一項ノ物品ヲ移出先又ハ引取先ニ移入後其ノ用途ヲ變更シタル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場ト看做シ移出先又ハ引取先ノ營業者ヲ以テ製造者ト看做ス  
第一項第三號ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ヲ使用シテ菓子、糖果其ノ他臺灣總督ノ定ムル物品ヲ製造シタル者ガ之ヲ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シタルコトヲ證明セザル場合ニ於テハ製造者ヨリ直ニ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ減失シタルモノニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四十六條 左ニ掲グル物品ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ物品稅ヲ免除ス  
一 輸出スルモノ  
二 學術研究用ニ供スルモノ  
三 其ノ他臺灣總督ノ定ムル用途ニ供スルモノ

第四十四條第三項ノ規定ハ前項ノ物品ニシテ政府ノ指定シタル期間内ニ輸出シ又ハ其ノ用途ニ供セラレタルコトノ證明ナキモノニ付之ヲ準用ス  
第四十六條ノ二 物品稅ヲ課セラレタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ノ原料トシテ製造シタル菓子、糖果其ノ他臺灣總督ノ定ムル物品ヲ輸出シタルトキハ輸出者ニ對シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ原料トシテ使用シタル飴、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付課セラレタル物品稅ニ相當スル金額以下ノ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第四十七條 第一種ノ物品ノ小賣業者管マントスル者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告ス



ベシ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントストキ亦同シ

第四十八條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第四十八條ノ二 遊興飲食稅ハ料理店、席貸、旅館其ノ他臺灣總督ノ定ムル類似ノ場所ニ於ケル遊興、飲食及宿泊ニ之ヲ課ス

第四十八條ノ三 遊興飲食稅ノ稅率左ノ如シ

一 藝妓ノ花代

料金ノ百分ノ九十

二 藝妓ノ花代ニ類スル料金ニシテ臺灣總督ノ定ムルモノ(以下其ノ他ノ花代ト稱ス)

料金ノ百分ノ四十

三 前各號以外ノ遊興飲食ノ料金

料金ノ百分ノ二十

四 旅館ニ於ケル宿泊ノ料金

料金ノ百分ノ二十

前項ノ遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ハ前條ニ規定スル場所ノ經營者ガ遊興、飲食又ハ宿泊ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興、飲食又ハ宿泊ニ付領收スベキ金額ヲ謂フ

遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ノ算定ニ關シテハ臺灣總督之ヲ定ム

第四十八條ノ四 遊興飲食ノ料金ガ一人一回二圓ニ滿タザル場合及旅館ニ於ケル宿泊ノ料金ガ一人一泊五圓ニ滿タザル場合ニハ遊興飲食稅ヲ課セズ但シ左ニ掲グル遊興飲食ノ料金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
一 藝妓ノ花代

二 其ノ他ノ花代

三 藝妓ノ花代又ハ其ノ他ノ花代ヲ伴フ遊興飲食ノ料金  
四 臺灣總督ノ定ムル料理店ニ於ケル遊興飲食ノ料金  
前項ノ一人一回ノ遊興飲食ノ料金及一人一泊ノ宿泊ノ料金ノ計算ニ關シ必要ナル事項ハ臺灣總督之ヲ定ム

第四十八條ノ五 遊興飲食稅ハ第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者ヨリ之ヲ徵收ス

第四十八條ノ六 第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ毎月分ノ遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ヲ記載シタル申告書ヲ翌月五日迄ニ政府ニ提出スベシ但シ經營ヲ廢止シタル場合ニ於テハ直ニ之ヲ提出スベシ  
申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第四十八條ノ七 遊興飲食稅ハ毎月分ヲ翌月二十五日迄ニ納付スベシ但シ經營ヲ廢止シタル場合ニ於テハ政府ハ直ニ之ヲ徵收スルコトヲ得

第四十八條ノ八 第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ毎月分ノ遊興飲食又ハ宿泊ノ料金中其ノ月ニ於テ領收セザルモノニ對スル稅金ヲ其ノ料金ヲ領收シタル月ノ翌月二十五日迄ニ納付スルコトヲ得但シ其ノ經營ヲ廢止シタル場合ニ於テ未ダ納付セザル稅金アルトキハ直ニ之ヲ納付スベシ

前項ノ規定ニ依リ未ダ稅金ヲ納付セザル料金ニシテ領收スルコト能ハザルニ至リタルモノニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ遊興飲食稅ヲ免除ス

〔輯一三一〕

〔輯一三一〕

第四十八條ノ九 第四十八條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營セントスル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントストキ亦同シ

第四十八條ノ十 第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者及經營者ト經營上取引關係アル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ  
前項ニ規定スル者ハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第四十九條 第十一條、第十四條、第二十條、第二十七條又ハ第三十三條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル稅金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ各其ノ徵收義務者ヨリ徵收ス

第五十條 稅務官吏ハ建築稅ニ付家屋ヲ建築シタル者、建築工事請負人、建築工事管理者若ハ建築材料供給者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ家屋、建築ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得  
稅務官吏ハ通行稅ニ付運載業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗車船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

稅務官吏ハ入場稅ニ付第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得  
前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付之ヲ準用ス

稅務官吏ハ物品稅ニ付第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ六 支那事變特別稅

賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ

二 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

稅務官吏ハ遊興飲食稅ニ付第四十八條ノ十第一項ニ規定スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業務ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第五十一條 詐偽其ノ不正ノ行爲ニ依リ利益配當稅、公債及社債利子稅又ハ建築稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル者ハ其ノ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル稅金ノ三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ自首シタル者又ハ稅務官署ニ申出タル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第五十二條 詐偽其ノ不正ノ行爲ニ依リ物品稅又ハ遊興飲食稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル者ハ其ノ逃脫シ又ハ逃脫セントシタル稅金ノ五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

第五十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス  
一 政府ニ申告セズシテ第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營シタル者

二 第四十一條又ハ第四十八條ノ六ノ規定ニ依リ申告ヲ怠リ又ハ詐リタ



ル者

三 政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造シタル者

四 政府ニ申告セズシテ第四十八條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營シタル者

前項第三號ニ規定スル者ニ付テハ直ニ其ノ小賣シタル第一種ノ物品又ハ製造シタル第二種若ハ第三種ノ物品ニ對スル物品稅ヲ、第四號ニ規定スル者ニ付テハ直ニ其ノ遊興飲食稅ヲ徵收ス

第五十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第二十二條第一項、第二十九條第一項、第四十八條第一項又ハ第四十八條ノ十第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

二 第二十二條第二項、第二十九條第二項、第四十八條第二項又ハ第四十八條ノ十第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

三 第五十條第一項、第二項、第三項、第五項又ハ第六項ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者

第五十五條 第五十一條及第五十二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヒズ

第五十六條 第一種、第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令中物品稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

ス

第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者又ハ經營者ト經營上取引關係アル者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本令中遊興飲食稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ經營者又ハ經營者ト經營上取引關係アル者ヲ處罰ス

第五十七條 州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ利益配當稅、公債及社債利子稅、建築稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅及遊興飲食稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

州廳、市街庄其ノ他ノ公共團體ハ第一種ノ場所ノ入場者又ハ第二種ノ場所ノ設備利用者ニ對シ入場稅ノ課稅標準タル入場料ヲ標準トシテ地方稅ヲ課スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ特別入場稅ニ付テハ準用ス

第五十七條ノ二 政府ハ第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者ノ組織スル團體ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ前項ノ團體ニ對シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ交付金ヲ交付スルコトヲ得

第五十八條 本令ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル

第五十八條ノ二 自己又ハ其ノ家族ノ用ニノミ供スル第二種ノ物品又ハ製造スル者ニハ當該物品ニ付本令中物品稅ニ關スル規定ヲ適用セズ

附則

第五十九條 本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ利益配當稅及公債及社債利子稅ニ關スル規定ハ昭和十三年八月十二日ヨリ之ヲ施行ス

【輯一三一】

【輯一三一】

第六十條

所得稅中第一種ノ所得稅ニ付テハ普通所得及超過所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分、清算所得ニ對スル所得稅ハ昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス但シ第六條ノ規定ハ昭和十二年分所得稅ヨリ之ヲ適用ス

法人ノ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル各事業年度分ノ所得ニ對スル所得稅及昭和十三年四月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ北支事件特別稅中ノ第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ之ヲ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ト看做シ臺灣所得稅令第二十五條第二項及第三項ノ規定ヲ適用ス

第六十一條 法人ノ昭和十三年八月十一日迄ニ終了スル各事業年度分ノ普通所得及超過所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第二條及第三條ノ規定ニ依リ算出シタル増徴稅額ヨリ之ヲ控除ス

支拂期ノ昭和十三年八月十一日以前ニ在ル第二種甲及乙ノ所得ニ對スル所得特別稅額ハ當該所得ニ付第四條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ヨリ之ヲ控除ス

第六十二條 法人資本稅ニ付テハ昭和十三年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ヨリ本令ヲ適用ス

第六十三條 本令施行前ヨリ引續キ汽車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者本令施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第二十三條ニ規定スル第一種ノ僱物若ハ設備ヲ開

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ六 支那事變特別稅

僱若ハ經營スル者、同第二種ノ場所ヲ經營スル者又ハ運動競技ヲ開催スル者本令施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第三十五條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

臺灣北支事件特別稅令第二十條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者ニシテ同令ニ依リ其ノ旨ヲ申告シタルモノハ第四十七條前段ノ申告ヲ要セズ

第六十四條 第三十五條ニ掲グル第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同條各號ニ掲グル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユル第二種ノ物品(第一號乃至第五號ニ掲グル物品ヲ除ク)ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ其ノ價額中三千圓ヲ超ユル部分ニ付臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス

前項ノ規定ハ機寸ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ千圓本ヲ超ユル數量ノ機寸ヲ所持スル場合ニ付テハ準用ス

前二項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ



第六十五條 本令ハ支那事變終了後其ノ翌年十二月三十一日迄ニ之ヲ廢止スルモノトス

附則 (昭和十四年律令第二號)

第一條 本令ハ昭和十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 第二條第三項ノ改正規定ハ法人ノ昭和十四年四月一日以後ニ終了スル事業年度分ノ第一種所得稅ヨリ之ヲ適用ス

第三條 建築稅ニ關スル規定ハ昭和十四年四月一日以後ニ竣成スル家屋ノ建築ニ付之ヲ適用ス但シ第十五條ノ四ノ規定ハ新築ガ昭和十四年三月三十一日以前ニ竣成シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第四條 本令施行前ヨリ引續キ第三十五條ノ改正規定ニ依リ物品稅ヲ課スルコトト爲リタル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ第四十七條ノ規定ニ依リ申告シタルモノト看做ス

本令施行前ヨリ引續キ第四十八條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營スル者本令施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ第四十八條ノ八ノ規定ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第五條 改正第三十五條ニ掲グル第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ第一號ノ物品ニ付テハ改正第三十五條各號ニ掲グル品名毎ニ價格三千圓、餉、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付テハ一萬斤ヲ超ユル部分ニ付臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ從前ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課セラレタル物品ニ付テハ其ノ課セラレタル稅額ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第六條 第三十五條ニ掲グル第二種第一號乃至第十七號ノ物品ニシテ同條各號ニ掲グル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユルモノ

二 餉、葡萄酒又ハ麥芽糖ニシテ合計斤數一萬斤ヲ超ユルモノ

前項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所ヲ、餉、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

附則 (昭和十六年律令第十號)

第一條 本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十六條乃至第十七條及第二十條ノ改正規定施行ノ期日ハ臺灣總督府ノ定ム

第二條 改正後ノ臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ二第四號乃至第六號及第十五條ノ五ノ規定ハ本令施行後竣成スル家屋ノ建築ニ付之ヲ適用ス

第三條 本令施行前新築竣成シタル臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ二第一號乃至第三號ニ掲グル家屋ニシテ建築價額一萬圓以上ノモノニ關シ同令第十五條ノ四ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課スル場合ニ於テハ從前ノ規定ニ依リ課セラレタル建築稅額ノ二倍ニ相當スル金額ヲ其ノ建築稅額ヨリ控除ス

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ六 支那事變特別稅

ノ稅額トス

一 改正第三十五條ニ掲グル第二種第十四號、第十五號、第十六號、第十七號、第十九號(擴聲用增幅器ニ限ル)、第二十五號又ハ第二十六號ノ物品ニシテ同條各號ニ掲グル品名毎ニ價格三千圓ヲ超ユルモノ

二 餉、葡萄酒又ハ麥芽糖ニシテ合計斤數一萬斤ヲ超ユルモノ

前項ノ製造者又ハ販賣者ハ第二種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第三種ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月内ニ政府ニ申告スベシ

附則 (昭和十五年律令第八號)

第一條 本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 昭和十二年律令第八號ハ之ヲ廢止ス

第三條 法人ノ本令施行前ニ終了シタル各事業年度分ノ所得稅及法人資本稅、本令施行前ノ解散又ハ合併ニ因ル清算所得ニ對スル所得稅並ニ本令施行前ニ徵收シ又ハ徵收スベカリシ第二種ノ所得ニ對スル所得稅及出港稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

昭和十四年分以前ノ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第四條 第四十六條ノ二ノ規定ハ昭和十五年四月三十日以前ノ輸出ニ係ル菓子、糖果其ノ他臺灣總督ノ定ムル物品ニ付テハ之ヲ適用セズ

第五條 本令施行前ヨリ引續キ第三十五條ノ改正規定ニ依リ物品稅ヲ課スルコトト爲リタル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者本令施行後一月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第六條 第三十五條ニ掲グル第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者

ニ依リ申告シタルモノト看做ス

臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ四ノ規定ハ改正後ノ同令第十五條ノ二第四號乃至第六號ニ掲グル家屋ノ新築ガ本令施行前竣成シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第三條 本令施行前ヨリ引續キ第三十五條ノ改正規定ニ依リ物品稅ヲ課スルコトト爲リタル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品若ハサツカリノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ臺灣支那事變特別稅令第四十七條ノ規定ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第四條 改正後ノ臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第二種ノ物品又ハ餉、葡萄酒、麥芽糖若ハサツカリノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ノ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ從前ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課セラレタル物品ニ付テハ其ノ課セラレタル稅額ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

一 改正後ノ臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第二種ノ物品ニシテ同條各號ニ掲グル品名毎ニ價格二千圓以上ノモノ

二 餉、葡萄酒又ハ麥芽糖ニシテ合計一萬斤以上ノモノ

三 三十斤以上ノサツカリ

前項ノ製造者又ハ販賣者ハ同第一號ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第二號ノ物品又ハサツカリニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

●臺灣支那事變特別稅令施行規則

昭和十三年四月一日

臺灣總督府令第三十五號

改正 昭和十四年第三八號、第七三號、一五年第四五號、一六年第八八號

臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ四ノ規定ハ改正後ノ同令第十五條ノ二第四號乃至第六號ニ掲グル家屋ノ新築ガ本令施行前竣成シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第三條 本令施行前ヨリ引續キ第三十五條ノ改正規定ニ依リ物品稅ヲ課スルコトト爲リタル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者又ハ同第二種ノ物品若ハサツカリノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月以内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ臺灣支那事變特別稅令第四十七條ノ規定ニ依リ申告シタルモノト看做ス

第四條 改正後ノ臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第二種ノ物品又ハ餉、葡萄酒、麥芽糖若ハサツカリノ製造者又ハ販賣者ガ本令施行ノ際製造場又ハ保税地域以外ノ場所ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル物品ノ所持スル場合ニ於テハ其ノ場所ヲ以テ製造場、其ノ所持者ヲ以テ製造者ト看做シ之ニ物品稅ヲ課ス此ノ場合ニ於テハ本令施行ノ日ニ於テ其ノ物品ヲ製造場ヨリ移出シタルモノト看做シ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ物品稅ヲ徵收ス但シ從前ノ規定ニ依リ物品稅ヲ課セラレタル物品ニ付テハ其ノ課セラレタル稅額ニ相當スル金額ヲ控除シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

一 改正後ノ臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第二種ノ物品ニシテ同條各號ニ掲グル品名毎ニ價格二千圓以上ノモノ

二 餉、葡萄酒又ハ麥芽糖ニシテ合計一萬斤以上ノモノ

三 三十斤以上ノサツカリ

前項ノ製造者又ハ販賣者ハ同第一號ノ物品ニ付テハ其ノ品名毎ニ數量、價格及貯藏ノ場所、第二號ノ物品又ハサツカリニ付テハ其ノ品名毎ニ數量及貯藏ノ場所ヲ本令施行後一月以内ニ政府ニ申告スベシ

●臺灣支那事變特別稅令施行規則

昭和十三年四月一日

臺灣總督府令第三十五號

改正 昭和十四年第三八號、第七三號、一五年第四五號、一六年第八八號

第七一〇ノ三四ノ一九



臺灣支那事變特別稅令施行規則ノ通定ム

臺灣支那事變特別稅令施行規則

- 第一條 削除
- 第二條 臺灣支那事變特別稅令第十一條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ配當金又ハ利子金額ノ支拂者利益配當稅又ハ公債及社債利子稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ別記第一號書式ノ拂込書及別記第三號又ハ第四號書式ノ計算書ヲ添ヘ之ヲ所轄稅務官署所轄内ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ
- 第二條ノ二 臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ二第二號ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課スベキ家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ
  - 一 料理店
  - 二 席座敷
  - 三 貨座敷
  - 第二條ノ三 建築價額ハ左ニ掲グル金額ノ合計額ニ依ル
    - 一 家屋ノ建築ニ要シタル金額(壁、建具共ノ他ノ造作ニ要シタル金額ヲ含ム)
    - 二 電氣、瓦斯、水道其ノ他ノ附屬設備ノ設置ニ要シタル金額
    - 三 門、圍障、庭園其ノ他ノ附屬築造物ノ築造ニ要シタル金額
  - 第二條ノ四 臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ六第二號ノ規定ニ依リ左ノ公共團體ヲ指定ス
    - 一 市街庄組合、街庄組合
    - 二 公共埤圳組合、公共埤圳聯合會、官設埤圳水利組合、水利組合、水利組合聯合會
  - 第二條ノ五 臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ六第三號ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課セザル家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ
    - 一 長屋、共同住宅及寄宿舎
    - 二 一時ノ使用ニ供スル家屋
  - 第二條ノ六 臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ七第三號ノ規定ニ依リ建築稅ヲ免除スル家屋ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 土地區劃整理ノ施行ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋
- 二 行政執行法第四條ノ處分ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋
- 第二條ノ七 臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ七ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ建築稅ヲ免除ス但シ其ノ家屋ノ床面積カ從前ノ家屋ノ床面積ヲ超過スル場合ニ於ケル超過部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 前項但書ノ場合ニ於ケル超過部分ノ建築價額ハ新ニ建築シタル家屋ノ床面積ニ對スル該超過部分ノ床面積ノ割合ヲ其ノ家屋ノ建築價額ニ乘ジテ之ヲ計算ス
- 前二項ノ床面積ハ各階(地階ヲ含ム)ノ床面積ノ合計額ニ依リ各階ノ床面積ハ家屋ノ外壁又ハ之ニ代ルベキ柱ノ中心線内ノ面積ニ依ル
- 第二條ノ八 臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ七ノ規定ニ依リ建築稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ同令第十五條ノ九第一項ノ規定ニ依リ建築價額決定前事由ヲ具シ所轄稅務官署ニ申請スベシ
- 前項ノ申請書ニハ從前ノ家屋ノ所在地、用途、構造及床面積ヲ記載スベシ
- 第二條ノ九 建築稅ニ付納稅義務アル者ハ建築竣成後二十日內ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ
  - 一 家屋ノ所在地
  - 二 家屋ノ用途、構造及床面積
  - 三 建築價額
  - 四 建築竣成ノ年月日
  - 五 建築工事請負人又ハ建築工事管理者アルトキハ其ノ住所及氏名又ハ名稱
  - 六 臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ四ニ該當スル建築ニ在リテハ其ノ旨及既ニ建築稅ヲ課セラレタル部分アルトキハ其ノ稅額
- 家屋ノ一部ガ臺灣支那事變特別稅令第十五條ノ二ノ家屋ニ該當スル場合ニ於テハ前項ノ申告書ニハ家屋全部ノ用途、構造、床面積及建築價額ヲ併セ記載スベシ

第二條ノ十 知事又ハ廳長建築價額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

- 第二條ノ十一 建築稅ノ納稅義務者納稅管理人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ
- 第三條 臺灣支那事變特別稅令第十七條第二項ノ規定ニ依リ陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ通行稅ヲ課セザルモノヲ定ムルコト左ノ如シ
  - 一 鐵道軍事供用令ニ依ル乘車
  - 二 軍事上ノ必要ニ依リ貸切ノ契約ニテ爲ス乘船
- 第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ乘車船區間ノ料程ハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス
  - 一 往復乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ料程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス
  - 二 回遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乘車船區間ノ料程ハ各區間毎ニ之ヲ計算ス
- 第五條 汽車、乘合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ臺灣支那事變特別稅令第十六條第一項、第五項及第十七條第一項ノ等級ハ等級ヲ分タザルモノニ在リテハ三等、二等級ニ分チタルモノニ在リテハ二等及三等、一等ノ上又ハ三等ノ下ニ更ニ等級ヲ設ケタルモノニ在リテハ一等又ハ三等トス
- 第六條 乘客定員數ノ定ナキ乘船ニ付貸切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ臺灣支那事變特別稅令第十六條第六項ノ乘客定員數ハ運賃計算ノ基準ト爲リタル人員ニ依ル
- 第七條 削除
- 第八條 臺灣支那事變特別稅令第二十條第一項ノ運輸業者通行稅ヲ徵收シタルトキハ納期限迄ニ別記第一號書式ノ拂込書及別記第五號書式ノ計算

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ六 支那事變特別稅

臺灣支那事變特別稅令施行規則

- 書ヲ添ヘ之ヲ所轄稅務官署所轄内ノ日本銀行代理店ニ拂込ムベシ
- 前項ノ計算書ハ交通局ニ在リテハ其ノ添附ヲ省略スルコトヲ得
- 第九條 汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依リ運輸業ヲ營マントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ營業所所轄稅務官署ニ提出スベシ
  - 一 住所及氏名又ハ名稱
  - 二 營業所ノ所在地及其ノ名稱
  - 三 運輸業ノ種類(汽車、乘合自動車又ハ汽船ニ依リ運輸業ノ區別)
  - 四 線路、路線又ハ航路ノ名稱、起終點ノ地名及料程
  - 五 汽車、乘合自動車又ハ汽船ノ等級區分
  - 六 乘車船券ノ種類
- 第十條 運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ其ノ住所及氏名又ハ名稱、販賣場ノ所在地及運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務官署ニ提出スベシ
- 第十一條 知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ運輸業者ニ左ノ事項ヲ申告セシムルコトヲ得
  - 一 停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及其ノ所在地
  - 二 停車場、停留所又ハ乘船場間ノ料程
  - 三 運賃ヲ料制ニ依リ定メタルトキハ一料當運賃、區間制ニ依リ定メタルトキハ各區間及其ノ運賃、均一制ニ依リ定メタルトキハ均一運賃
  - 四 回数、定期、團體又ハ貸切ノ乘車船ニ付特別ノ運賃ヲ定メタルトキハ其ノ運賃
  - 五 運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ノ住所及氏名又ハ名稱並ニ其ノ販賣場ノ所在地
  - 六 連帶運輸ヲ爲ス運輸業者ノ住所及氏名又ハ名稱並ニ連帶運輸ヲ爲ス線路、路線又ハ航路ノ名稱、其ノ停車場、停留所又ハ乘船場ノ名稱及







別表ニ於テ貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ヲ用ヒタル製品トハ其ノ用ヒタル貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ノ價格(二種以上ノモノヲ用ヒタルモノニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス)ガ三圓以上ノモノヲ謂フ

第三十五條 臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第一種ノ物品中第十六號及第三十號ニ掲グルモノニ付物品稅ヲ課スベキ場合ハ一回ノ賣買總金額ガ一萬圓ヲ超ユル場合ニ限ル但シ強制賣買ノ場合ハ物品稅ヲ課セズ

第三十五條ノ二 臺灣支那事變特別稅令第三十五條第二種第二十五號ニ掲グル物品中烏龍茶及包種茶ニシテ製造場ヨリ移出スル時ノ價格百斤ニ付五十圓ニ滿タザルモノニハ物品稅ヲ課セズ

第三十六條 臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者ハ販賣場及販賣スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務官署ニ提出スベシ

第三十七條 臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第二種又ハ第三種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務官署ニ提出スベシ

第三十八條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第三十九條 知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十條 第三十六條乃至第三十八條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジ

タルトキハ其ノ都度所轄稅務官署ニ申告スベシ

第四十一條 第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務官署ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第四十二條 第一種ノ物品ノ小賣業又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第四十三條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者販賣場又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第三十六條又ハ第三十七條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第四十四條 第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ通常容器ト共ニ販賣セラルルモノノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十五條 保稅地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入ノ際ニ於ケル到着價格ニ當該物品ニ課セラルベキ雜物消費稅及關稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十六條 機寸ノ本數ハ軸木ノ本數ニ依ル但シ二個以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ個數ニ依ル

第四十七條 第一種ノ物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ販賣場又ハ製造場ノ所轄稅務官署ヨリ交付ヲ受ケタル

【七二〇】

【七二〇】

ル販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅關ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ臺灣支那事變特別稅令第四十一條第二項ノ規定ニ依リ申告書ヲ提出スベシ

第四十八條 物品稅ノ免除ヲ受ケズシテ輸出シタル物品ヲ再輸入シ之ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ヲ徵收セズ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 臺灣支那事變特別稅令第四十一條第一項ノ規定ニ依リ申告書ハ所轄稅務官署ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ知事又ハ廳長其ノ申告ヲ相當ト認メタルトキハ知事又ハ廳長其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

前二項ノ規定ハ臺灣支那事變特別稅令第四十一條第二項ノ規定ニ依リ申告ニ付之ヲ準用ス

第五十條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者ガ返還ヲ受ケ又ハ戻入シタル物品ニ付臺灣支那事變特別稅令第四十二條第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量、價格及稅額ニ付所轄稅務官署ノ承認ヲ受ケベシ

第五十一條 第三種ノ物品ノ製造者戻入シタル物品ニ付臺灣支那事變特別稅令第四十二條第二項ノ規定ニ依リ徵收ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量、價格及稅額ニ付所轄稅務官署ノ承認ヲ受ケベシ

第五十二條 擔保物ノ種類ハ金銀又ハ國債ニ限ル

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ六 支那事變特別稅

擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受ケルニ至リタルトキハ知事又ハ廳長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十三條 臺灣支那事變特別稅令第四十三條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ稅金及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

前項ノ規定ハ臺灣支那事變特別稅令第四十三條第三項ノ規定ニ依リ提供シタル擔保ニ付之ヲ準用ス

第五十四條 臺灣支那事變特別稅令第四十四條第一項ノ規定ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受ケベシ

第五十五條 前條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シタル第二種又ハ第三種ノ物品ヲ移出先タル製造場又ハ藏置場ニ移入シタルトキハ移出先ノ營業者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第五十六條 臺灣支那事變特別稅令第四十五條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品又ハ餡、葡萄酒若ハ麥芽糖ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受ケベシ

前條ノ規定ハ前項ノ物品ヲ其ノ移出先ニ移入シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十六條ノ二 輸出スル果實蜜及之ニ類スルモノノ製造ノ用ニ供スル餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付テハ臺灣支那事變特別稅令第四十五條第一項第三



別表ニ於テ貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ヲ用ヒタル製品トハ其ノ用ヒタル貴石、半貴石、眞珠、金又ハ白金ノ價格(二種以上ノモノヲ用ヒタルモノ)ニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス。ガ三圓以上ノモノヲ謂フ

第三十五條 臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第一種ノ物品中第十六號及第三十號ニ掲グルモノニ付物品稅ヲ課スベキ場合ハ一回ノ賣買總金額ガ一萬圓ヲ超ユル場合ニ限ル但シ強制賣買ノ場合ハ物品稅ヲ課セズ

第三十五條ノ二 臺灣支那事變特別稅令第三十五條第二種第二十五號ニ掲グル物品中烏龍茶及包種茶ニシテ製造場ヨリ移出スル時ノ價格百斤ニ付五十圓ニ滿タザルモノニハ物品稅ヲ課セズ

第三十六條 臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營マントスル者ハ販賣場及販賣スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄稅務官署ニ提出スベシ

第三十七條 臺灣支那事變特別稅令第三十五條ニ掲グル第二種又ハ第三種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄稅務官署ニ提出スベシ

第三十八條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第三十九條 知事又ハ廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ第二種又ハ第三種ノ物品ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四十條 第三十六條乃至第三十八條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジ

販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅關ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ臺灣支那事變特別稅令第四十一條第二項ノ規定ニ依リ申告書ヲ提出スベシ

第四十八條 物品稅ノ免除ヲ受ケズシテ輸出シタル物品ヲ再輸入シ之ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ヲ徵收セズ

前條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 臺灣支那事變特別稅令第四十一條第一項ノ規定ニ依リ申告書ハ所轄稅務官署ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ノ提出ナキトキ又ハ知事又ハ廳長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ知事又ハ廳長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

前二項ノ規定ハ臺灣支那事變特別稅令第四十一條第二項ノ規定ニ依リ申告ニ付之ヲ準用ス

第五十條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者ガ返還ヲ受ケ又ハ戻入シタル物品ニ付臺灣支那事變特別稅令第四十二條第一項ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及返還又ハ戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量、價格及稅額ニ付所轄稅務官署ノ承認ヲ受ケベシ

第五十一條 第三種ノ物品ノ製造者戻入シタル物品ニ付臺灣支那事變特別稅令第四十二條第二項ノ規定ニ依リ徵收ノ免除ヲ受ケントスルトキハ當該物品ニ付物品稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケタルコトヲ證明スベキ書類及戻入ノ事實ヲ證明スベキ書類ヲ呈示シテ當該物品ノ品名、數量、價格及稅額ニ付所轄稅務官署ノ承認ヲ受ケベシ

第五十二條 擔保物ノ種類ハ金錢又ハ國債ニ限ル

タルトキハ其ノ都度所轄稅務官署ニ申告スベシ

第四十一條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務官署ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第四十二條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第四十三條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者販賣場又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第三十六條又ハ第三十七條及前條ノ規定ニ準ジ申告ヲ爲スベシ

第四十四條 第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ通常容器ト共ニ販賣セラレタルモノノ價格ハ其ノ容器ノ價格ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十五條 保稅地域ヨリ引取ラレル第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノノ價格ハ輸入ノ際ニ於ケル到著價格ニ當該物品ニ課セラレベキ織物消費稅及關稅ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額ニ依ル

第四十六條 樽寸ノ本數ハ軸木ノ本數ニ依ル但シ二個以上ノ點火裝置ヲ附シタルモノニ付テハ其ノ點火裝置ノ個數ニ依ル

第四十七條 第一種ノ物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種ノ物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品稅ハ之ヲ徵收セズ

前項ノ場合ニ於テハ販賣場又ハ製造場ノ所轄稅務官署ヨリ交付ヲ受ケタ

擔保トシテ金錢又ハ無記名國債證券ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

擔保トシテ登錄國債ヲ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ尙記名國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受ケルニ至リタルトキハ知事又ハ廳長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

第五十三條 臺灣支那事變特別稅令第四十三條第二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ擔保物國債ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ稅金及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

前項ノ規定ハ臺灣支那事變特別稅令第四十三條第三項ノ規定ニ依リ提供シタル擔保ニ付之ヲ準用ス

第五十四條 臺灣支那事變特別稅令第四十四條第一項ノ規定ニ依リ第二種又ハ第三種ノ物品ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受ケベシ

第五十五條 前條ノ承認ヲ受ケ製造場ヨリ移出シタル第二種又ハ第三種ノ物品ヲ移出先タル製造場又ハ藏置場ニ移入シタルトキハ移出先ノ營業者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第五十六條 臺灣支那事變特別稅令第四十五條第一項ノ規定ニ依リ第二種ノ物品又ハ餡、葡萄酒若ハ麥芽糖ヲ製造場ヨリ移出セントスル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受ケベシ

前條ノ規定ハ前項ノ物品ヲ其ノ移出先ニ移入シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十六條ノ二 輸出スル果實蜜及之ニ類スルモノノ製造用ニ供スル餡、葡萄酒又ハ麥芽糖ニ付テハ臺灣支那事變特別稅令第四十五條第一項第三



號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除ス

第五十七條 臺灣支那事變特別稅令第四十五條第一項ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケタル物品ニ付其ノ用途ヲ變更セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申請シ承認ヲ受ケベシ

第五十八條 臺灣支那事變特別稅令第四十六條第一項第三號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除スル物品ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 醫療用ニ供スルモノ但シ第三種ノ物品ヲ除ク
  - 二 機械用又ハ工業用ニ供スルモノ但シ機寸並ニ飲料又ハ食料品ノ製造ノ用ニ供スル糖、葡萄酒及麥芽糖ヲ除ク
  - 三 神社、寺院、祠宇、佛堂、教會所及布教所ニ於テ式典用又ハ禮拜用ニ供スルモノ但シ第二種第十六號、同第十七號及第三種ノ物品ヲ除ク
  - 四 教育用ニ供スルモノ但シ中等學校、國民學校、國語講習所又ハ蕃地ニ於ケル教育所ニ於テ使用スル寫眞機、映寫機、寫眞用フィルム、蓄音器、蓄音器用レコード、ピアノ、オルガン、箏、三柱、ラヂオ聴取機、擴聲用增幅器及擴聲器ニ限ル
  - 五 軍用ニ供スルモノ但シ陸海軍ノ購入ニ保ル毛皮、毛皮製品、帽子、靴、トラング、靴、寢臺、第一種第二十六號ノ皮革製品、織物、織物製品、メリヤス、メリヤス製品、犬、寫眞機、寫眞機部分品、寫眞用乾板、寫眞用フィルム、寫眞用感光紙、雙眼鏡、雙眼鏡、鏡、鏡部分品、藥莢及彈丸ニ限ル
  - 六 通信用ニ供スルモノ但シ無線電信又ハ無線電話（放送無線電話ヲ除ク）ノ用ニ供スルラヂオ聴取機及受信用真空管ニ限ル
- 第五十九條 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ノ製造者臺灣支那事變特別稅令第四十六條及前條ノ規定ニ依リ物品稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種ノ物品ヲ引渡シ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品

ヲ製造場ヨリ移出スル際其ノ旨ヲ所轄警察官署ニ申請シ承認ヲ受ケベシ

第六十條 臺灣支那事變特別稅令第四十五條第一項第三號ノ規定ニ依リ物品稅ヲ免除セラレタル糖、葡萄酒若ハ麥芽糖原料トシテ製造シタル菓子、糖果若ハ果實蜜及之ニ類スルモノ又ハ同令第四十六條第一項第一號ノ物品ニ付輸出ノ證明ヲ爲サントスルトキハ輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

第六十一條 臺灣支那事變特別稅令第四十四條第三項、第四十五條第二項及第四十六條第二項ノ期間ハ知事又ハ廳長之ヲ指定ス

第六十二條 臺灣支那事變特別稅令第四十四條第三項但書、第四十五條第二項及同條第四項但書並ニ第四十六條第二項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第五十四條、第五十六條第一項又ハ第五十九條ノ稅務官署ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ減失シタル場所ガ前項ノ稅務官署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務官署ニ減失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第六十三條 第五十四條乃至第五十六條、第五十七條及第五十九條乃至前條ノ規定ハ臺灣支那事變特別稅令第四十四條乃至第四十六條ノ規定ノ適用ヲ受ケ保稅地域ヨリ引取ラレル第一種若ハ第二種又ハ第三種ノ物品ニ付之ヲ準用ス

【輯一〇五】

實蜜及之ニ類スルモノ

菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノ中ニ含有スル麥芽糖化ノ方法ニ依リ製造シタル糖百斤ニ付

二 其ノ他ノ糖又ハ葡萄酒若ハ麥芽糖ヲ使用シタル菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノ

菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノ中ニ含有スル麥芽糖化以外ノ方法ニ依リ製造シタル糖、葡萄酒又ハ麥芽糖百斤ニ付

第六十三條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ臺灣支那事變特別稅令第四十六條ノ二ノ規定ニ依リ交付金ヲ交付セズ

一 菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノノ輸出後一年ヲ經過シテ交付金ノ交付ヲ請求シタルトキ

二 菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノノ一回ノ輸出數量三百斤ニ滿タザルトキ

第六十三條ノ四 臺灣支那事變特別稅令第四十六條ノ二ノ規定ニ依リ交付金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ輸出ノ際關稅法施行規則第三十四條第一項ノ規定ニ依リ申告ノ外菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノノ種類、每種類ノ數量、使用原料ノ種類、製造者ノ氏名又ハ名稱及製造ノ場所ヲ稅關ニ申告シ糖、葡萄酒又ハ麥芽糖ノ含有量ニ付檢定ヲ受ケベシ但シ第六十三條ノ二但書ノ規定ニ依リ交付金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第六十三條ノ五 臺灣支那事變特別稅令第四十六條ノ二ノ規定ニ依リ交付金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ稅關ノ證明書ヲ添附シテ輸出稅關ニ提出スベシ

第六十三條ノ二但書ノ規定ニ依リ交付金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ前項第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ六 支那事變特別稅

【輯一〇六】

ノ書類ノ外糖、葡萄酒又ハ麥芽糖製造場所轄稅務官署ノ物品稅納稅濟證明書及保稅工場所轄稅關ノ製造證明書ヲ提出スベシ

第六十四條 第一種若ハ第二種又ハ第三種ノ物品ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 受入レタル物品ノ品名、數量、價格及受入ノ日並ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二 販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣ノ日並ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

三 製造シタル物品ノ品名、數量及製造ノ日

四 販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣又ハ移出ノ日並ニ其ノ買受人又ハ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

前條第二項ノ規定ハ前項第四號ニ掲グル事項ノ記載ニ付之ヲ準用ス

第六十六條 販賣場ヲ有セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ム者ニ在リテハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ販賣場ト看做ス

第六十六條ノ二 臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ二ノ規定ニ依リ貨座敷ニ於ケル遊興ニハ遊興稅ヲ課ス

第六十六條ノ三 臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ五ノ規定ニ依リ申告



書ニハ毎月分ノ遊興ノ料金(以下花代ト稱ス)ヲ記載シテ所轄稅務官署ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ヲ提出ナキトキ又ハ知事又ハ廳長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ知事又ハ廳長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

第六十六條ノ四 臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ七第一項ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル者ハ毎月分ノ花代中其ノ月ニ於テ領收セザル花代ヲ記載シタル申請書ヲ前條第一項ノ申告ト同時ニ所轄稅務官署ニ提出シ承認ヲ受ケベシ

前項ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタル花代ヲ領收シタル場合ニ於テハ其ノ領收シタル花代ヲ記載シタル申告書ヲ翌月五日迄ニ所轄稅務官署ニ提出スベシ

第六十六條ノ五 臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ七第二項ノ規定ニ依リ遊興稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ領收スルコト能ハザル事由ヲ具シ所轄稅務官署ニ申請スベシ

第六十六條ノ六 臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營セントスル者ハ其ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

- 一 經營者ノ住所及氏名又ハ名稱
- 二 經營スル場所ノ種類及名稱並ニ所在地
- 三 從業者ノ種類及員數
- 四 開業ノ年月日

第六十六條ノ七 臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

- 一 遊興ヲ爲シタル者ノ數
- 二 花代

三 花代領收ノ年月日

知事又ハ廳長ハ必要アリト認ムルトキハ遊興ヲ爲シタル者ノ住所及氏名ノ記載ヲ命ズルコトヲ得

第六十六條ノ八 藝妓ノ雇主、抱主(自前藝妓ニ在リテハ其ノ世帯主ヲ含ム以下同シ)若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ營業ニ關シ仲介ヲ爲ス者ハ藝妓ノ出先ノ場所毎ニ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

- 一 藝妓ノ名稱
- 二 花代

第六十六條ノ九 藝妓ノ雇主、抱主若ハ之ニ準ズベキ者又ハ其ノ營業ニ關シ仲介ヲ爲ス者ハ毎月分ノ花代ヲ藝妓ノ出先ノ場所毎ニ區分シテ記載シタル申告書ヲ翌月五日迄ニ所轄稅務官署ニ提出スベシ

第六十六條ノ十 臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者其ノ經營ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第六十六條ノ十一 第六十六條ノ六及前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄稅務官署ニ申告スベシ

第六十六條ノ十二 臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄稅務官署ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

〔輯一一〇〕

〔輯一一〇〕

ノ經營者其ノ經營ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄稅務官署ニ申告スベシ

第六十六條ノ十四 臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ二ニ規定スル場所ノ經營者其ノ場所ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第六十六條ノ六及前條ノ規定ニ準ジテ申告スベシ

第六十七條 本令中稅務官署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラレル物品ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第六十八條 稅務官吏臺灣支那事變特別稅令第五十條第一項乃至第三項ノ規定ニ依リ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ臺灣所得稅令施行規則第五十一條ニ定ムル様式ノ検査章ヲ携帶スベシ

第六十九條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七十條 臺灣支那事變特別稅令第六十四條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ課スベキ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十三年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユルトキ	昭和十三年五月及六月
稅額千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至七月
稅額二千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至八月
稅額五千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至九月

第七十一條 臺灣支那事變特別稅令第六十四條第三項ノ規定ニ依リ申告ハ第一種若ハ第二種ノ物品又ハ機寸ノ所在地所轄稅務官署ニ之ヲ爲スベシ

第七十二條 臺灣支那事變特別稅令第六十三條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第九條又ハ第十條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ汽車、乗合自動車又ハ汽船ニ依リ運輸業ヲ營ミ

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ六 支那事變特別稅

七一〇ノ三四ノ二九

又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

臺灣支那事變特別稅令第六十三條第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第一種又ハ第二種ノ場所毎ニ第二十三條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種ノ催物若ハ設備、第二種ノ場所又ハ運動競技ヲ開催若ハ經營スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

臺灣支那事變特別稅令第六十三條第三項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第三十六條又ハ第三十七條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品若ハ機寸ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

附 則 (昭和十四年臺灣總督府令第三十八號)

第一條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 昭和十四年律令第二號附則第五條第一項ノ規定ニ依リ課スベキ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十四年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限之ヲ徵收ス

稅額百圓ヲ超ユルトキ	昭和十四年五月及六月
稅額千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至七月
稅額二千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至八月
稅額五千圓ヲ超ユルトキ	同年五月乃至九月

第三條 昭和十四年律令第二號附則第五條第二項ノ規定ニ依リ申告ハ第二種又ハ第三種ノ物品ノ所在地所轄稅務官署ニ之ヲ爲スベシ

第四條 昭和十四年律令第二號附則第四條第一項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ臺灣支那事變特別稅令施行規則第三十六條ノ規定又ハ同



令第三十七條ノ改正規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ昭和十四年律令第二號施行前ヨリ引續キ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種若ハ第三種ノ物品ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ  
昭和十四年律令第二號附則第四條第二項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第六十六條ノ六ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ昭和十四年律令第二號施行前ヨリ引續キ臺灣支那事變特別稅令第四十八條ノ二ニ規定スル場所ヲ經營スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ

附則 (昭和十五年臺灣總督府令第四十五號)

第一條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
第二條 第六十三條ノ二乃至第六十三條ノ五ノ規定ハ昭和十五年四月三十日以前ノ輸出ニ係ル菓子、糖果又ハ果實蜜及之ニ類スルモノニ付テハ之ヲ適用セズ  
第三條 昭和十五年律令第八號附則第五條ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第三十六條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ昭和十五年律令第八號施行前ヨリ引續キ琥珀製品、象牙製品、七寶製品、菓子、盆裁盆石及鉢植類並ニ愛玩用動物及同用品ノ小賣業ヲ營ムコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄稅務官署ニ提出スベシ  
第四條 昭和十五年律令第八號附則第六條第一項ノ規定ニ依リ課スベキ物品稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十五年五月二十五日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月二十五日限リ之ヲ徵收ス  
稅額百圓ヲ超ユルトキ 昭和十五年五月及六月  
稅額千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至七月  
稅額二千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至八月

稅額五千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至九月  
第五條 昭和十五年律令第八號附則第六條第二項ノ規定ニ依ル申告ハ第二種ノ物品又ハ飴、葡萄糖若ハ麥芽糖ノ所在地所轄稅務官署ニ之ヲ爲スベシ (別表及別記書式省略)

● 昭和十四年臺灣總督府令第四十二號  
二號 (支那事變特別稅法第六十條及附則第五條ノ施行ニ關スル件)

支那事變特別稅法第六十九條及附則第五條ノ施行ニ關スル件左ノ通定ム  
第一條 支那事變特別稅法第六十九條第一項及附則第五條第一項ノ規定ニ依リ課スベキ砂糖消費稅ハ其ノ稅額百圓以下ナルトキハ昭和十四年五月三十一日限、稅額百圓ヲ超ユルトキハ左ノ區分ニ依リ各月ニ等分シ其ノ月末日限リ之ヲ徵收ス  
稅額百圓ヲ超ユルトキ 昭和十四年五月及六月  
稅額千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至七月  
稅額二千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至八月  
稅額五千圓ヲ超ユルトキ 同年五月乃至九月  
第二條 支那事變特別稅法第六十九條第二項及附則第五條第二項ノ規定ニ依ル申告ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在地所轄稅務官署ニ之ヲ爲スベシ  
附則  
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
昭和十三年府令第三十九號 (支那事變特別稅法第六十八條及第六十九條ノ施行ニ關スル件) ハ之ヲ廢止ス  
本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ砂糖消費稅ノ徵收期限期間ヲ定メタルモノニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

● 樺太北支事件特別稅令

昭和十二年八月十二日  
勅令第四百二十二號

改正 昭和十三年第二一六號  
朕樺太北支事件特別稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム (總理、大藏、拓務大臣副署)

樺太北支事件特別稅令

第一條 北支事件特別稅ハ之ヲ左ノ五種トス  
一 所得特別稅  
二 臨時利得特別稅



三 利益配當特別稅  
四 公債及社債利子特別稅  
五 物品特別稅

第二條 所得特別稅ハ所得稅ヲ納ムル者ニ之ヲ課ス

第三條 第一種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ法人ノ本令施行後一年內ニ終了スル各事業年度ノ所得(清算所得ヲ除ク)ニ付之ヲ賦課シ其ノ所得ニ對スル樺太所得稅令及樺太臨時租稅增徴令ニ依リ算出シタル第一種所得稅額ノ百分ノ十二相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第四條 第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ本令施行後一年內ニ支拂ヲ受ケル第二種甲及乙ノ所得(國債ノ利子ヲ除ク)ニ付之ヲ賦課シ其ノ所得ニ對スル樺太所得稅令及樺太臨時租稅增徴令ニ依リ算出シタル第二種所得稅額ノ百分ノ五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第五條 第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ昭和十二年分第三種所得ニ付之ヲ賦課シ其ノ所得ニ對スル第三種所得稅額(樺太臨時租稅增徴令ニ依リ增徴稅額ヲ含ム)ノ百分ノ七・五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第六條 第一種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ第二種所得金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅ハ其ノ稅額ヲ三分シ左ノ三期ニ於テ之ヲ徵收ス  
第一期 昭和十二年十月一日ヨリ三十一日限  
第二期 昭和十三年一月一日ヨリ三十一日限

第三期 昭和十三年三月一日ヨリ三十一日限

第七條 臨時利得特別稅ハ臨時利得稅ヲ納ムル者ニ之ヲ課ス

第八條 法人ノ臨時利得特別稅ハ本令施行後一年內ニ終了スル各事業年度ノ利得ニ付之ヲ賦課シ其ノ利得ニ對スル臨時利得稅額(樺太臨時租稅增徴令ニ依リ增徴稅額ヲ含ム)ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第九條 個人ノ臨時利得特別稅ハ昭和十二年分利得ニ付之ヲ賦課シ其ノ利得ニ對スル臨時利得稅額(樺太臨時租稅增徴令ニ依リ增徴稅額ヲ含ム)ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十條 法人ノ臨時利得特別稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

個人ノ臨時利得特別稅ハ其ノ稅額ヲ三分シ左ノ三期ニ於テ之ヲ徵收ス  
第一期 昭和十二年十月一日ヨリ三十一日限  
第二期 昭和十三年一月一日ヨリ三十一日限  
第三期 昭和十三年三月一日ヨリ三十一日限

第十一條 利益配當特別稅ハ樺太ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受ケル者ニ之ヲ課ス

樺太所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ利益配當特別稅ヲ課セズ

第十二條 利益配當特別稅ハ本令施行後一年內ニ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受ケル利益ノ配當ニ付之ヲ賦課シ配當金中配當率年七分ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十三條 利益配當特別稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

〔輯八六〕

〔輯八五〕

第十四條 公債及社債利子特別稅ハ樺太ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受ケル者ニ之ヲ課ス

第十五條 公債及社債利子特別稅ハ本令施行後一年內ニ支拂ヲ受ケル公債又ハ社債(樺太外貨債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク)ノ利子ニ付之ヲ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十二ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス

第十六條 公債及社債利子特別稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十七條 第六條第二項、第十三條又ハ前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ税金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ支拂者ヨリ徵收ス

第十八條 樺太所得稅令第十二條及第十三條ノ規定ハ第一種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅及法人ノ臨時利得特別稅ニ付之ヲ準用ス但シ南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 利益配當特別稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子特別稅ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付所得稅(第一種所得稅ヲ除ク)又ハ資本利子稅ヲ課スル場合ニ於テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ

第二十條 以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス

第二十一條 物品特別稅ハ左ニ掲ケル物品ニシテ樺太廳長官ノ定ムルモノニ之ヲ課ス

第一種  
一 寶石若ハ半寶石又ハ之ヲ用ヒタル製品  
二 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品  
三 貴金屬製品又ハ貴金屬ヲ用ヒタル製品  
四 藍甲製品  
五 珊瑚製品  
第二種  
一 寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品  
二 寫眞用乾板、フィルム及感光紙  
三 蓄音器及同部分品  
四 蓄音器用レコード  
五 樂器及同部分品  
第二十二條 物品特別稅ノ稅率ハ價格百分ノ二十トス  
前項ノ價格ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ノ販賣價格、第二種ノ物品ニ付テハ製造場ヨリ移出スル時ノ價格トス但シ保稅地域ヨリ引取ララル物品ニシテ引取人ヨリ稅金ヲ徵收スルモノニ付テハ引取ノ際ニ於ケル價格トス  
第二十三條 物品特別稅ハ第一種ノ物品ニ付テハ小賣業者ヨリ、第二種ノ物品ニ付テ製造者ヨリ之ヲ徵收ス但シ保稅地域ヨリ引取ララル物品ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取人ヨリ之ヲ徵收ス



第二十三條 第一種ノ物品ノ小賣業者ハ毎月其ノ販賣シタル物品ニ付、第二種ノ物品ノ製造者ハ毎月其ノ製造場ヨリ移出シタル物品ニ付其ノ品名毎ニ數量及價格ヲ記載シタル申告書ヲ翌月十五日迄ニ政府ニ提出スベシ

第一種又ハ第二種ノ物品ヲ保税地域ヨリ引取ル者ハ樺太廳長官ノ定ムル場合ヲ除クノ外引取ノ際其ノ物品ニ付前項ニ準ズル申告書ヲ政府ニ提出スベシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第二十四條 物品特別稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スベシ但シ第二十二條但書ノ場合ニ於テハ引取ノ際之ヲ納付スベシ

第二十五條 左ニ掲グル物品ニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ物品特別稅ヲ免除ス

- 一 輸出スルモノ
- 二 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造ノ用ニ供スルモノ
- 三 其ノ他樺太廳長官ノ定ムル用途ニ供スルモノ
- 第二十六條 第一種ノ物品ノ小賣業者ヲ管マントスル者又ハ第二種ノ物品ヲ製造セントスル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ政府ニ申告スベシ其ノ小賣業又ハ製造ヲ廢止セントスルトキ亦同シ
- 第二十七條 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ
- 第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造者ハ樺太廳長官ノ定ム

ル所ニ依リ其ノ製造又ハ販賣ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十八條 稅務官吏ハ第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 第一種又ハ第二種ノ物品ニシテ製造者又ハ販賣者ノ所持スルモノ
- 二 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類
- 三 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造、貯藏又ハ販賣上必要ナル建築物、機械、器具、材料其ノ他ノ物件

第二十九條 市町村ハ北支事件特別稅ニ付附加稅ヲ課スルコトヲ得ズ

第三十條 保税地域ヨリ引取ラルル第一種又ハ第二種ノ物品ニ對スル物品特別稅ニ關スル事務ハ稅關ニ委託シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第三十一條 本令ニ於テ保税地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依リ關稅法第三十九條ノ規定ニ依リ運送ハ本令ノ引取ト看做サズ但シ其ノ運送ニ付必要アリト認ムルトキハ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三十二條 本令ニ定ムルモノノ外北支事件特別稅ニ關シ必要ナル規定ハ樺太廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

物品特別稅ニ關スル規定ハ昭和十三年三月三十一日以前ニ於テ物品特別稅ヲ課セラルベキ販賣、製造場ヨリノ移出又ハ保税地域ヨリノ引取ヲ爲シタル第一種又ハ第二種ノ物品ニ付之ヲ適用ス

本令施行前ヨリ引續キ第一種ノ物品ノ小賣業者又ハ第二種ノ物品ノ製造ヲ爲ス者本令施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

樺太北支事件特別稅令施行規則

昭和十二年八月十二日  
樺太廳令第四十七號

樺太北支事件特別稅令施行規則左ノ通定ム

樺太北支事件特別稅令施行規則

- 第一條 樺太北支事件特別稅令第六條第二項、第十三條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ第二種所得金額、配當金又ハ利子金額ノ支拂者所得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第一號書式ノ拂込書及第三號乃至第五號書式ノ計算書ヲ添へ之ヲ最寄ノ日本銀行又ハ郵便官署ニ拂込ムベシ
- 第二條 日本銀行又ハ郵便官署ニ於テ前條ノ規定ニ依リ所得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第二號書式ノ領收證ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書ヲ添附シ之ヲ歳入徵收官又ハ歳入徵收分掌官ニ送付スベシ
- 第三條 第二種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ノ過誤納アリタル爲之ガ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金等ノ支拂地ノ所轄樺太廳支廳長ニ請求書ヲ提出スベシ
- 第四條 樺太所得稅令施行規則第四十一條、第四十二條及第四十四條乃至第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ四 北支事件特別稅

第四十六條ノ規定ハ第三種所得稅ヲ納ムル者ノ所得特別稅及個人ノ臨時利得特別稅ニ付之ヲ準用ス

第五條 樺太北支事件特別稅令第二十條ノ規定ニ依リ物品特別稅ヲ課スベキ物品ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一種
  - 一 貴石若ハ半貴石又ハ之ヲ用ヒタル製品
  - イ 貴石、半貴石
    - ダイヤモンド、ルビー、サファイヤ、アレキサンドライト、トパーズ、スピネル、エメラルド、トルマルリン、ジルコン、クリソライト、ガーンネット、オパール、翡翠、水晶、瑪瑙、猫眼石、虎眼石、孔雀石、土耳其玉、月長石及ヘマタイト
  - ロ 貴石又ハ半貴石ヲ用ヒタル製品
  - ニ 眞珠又ハ眞珠ヲ用ヒタル製品
    - イ 天然眞珠及養殖眞珠
    - ロ 眞珠ヲ用ヒタル製品
  - 三 貴金屬製品又ハ貴金屬ヲ用ヒタル製品
    - イ 貴金屬製品但シ萬年筆用金ペンヲ除ク
    - ロ 金剛又ハ白金剛ノ時計
    - ハ 金屏風
  - ニ 其ノ他貴金屬ヲ用ヒタル製品
- 四 釐甲製品
- 五 珊瑚製品



一 寫眞機、寫眞引伸機、映寫機、同部分品及附屬品

イ 寫眞機但シ航空機用ノモノ及顯微鏡用ノモノヲ除ク

ロ 寫眞引伸機

ハ 映寫機

ニ 寫眞機部分品及附屬品

レンズ(シャッター附ノモノヲ含ム)、暗函(蛇腹ノ有無ヲ別タズ)、シャッター、フィルムパックホルダー、取替、フラインダー、三脚臺、カラーフィルムター、セルフタイマー、露出計、距離計及寫眞機用又ハ三脚臺用ケース

ホ 寫眞引伸機部分品

暗函、コンデンサー、レンズ及支持臺

ハ 映寫機部分品及附屬品

コンデンサー、レンズ、發聲裝置、フィルム巻取機、カラースクリーン及映寫機用ケース

二 寫眞用乾板、フィルム及感光紙

イ 寫眞用乾板但シ航空機用ノモノ及エフクス線用ノモノヲ除ク

ロ 寫眞用フィルム但シ航空機用ノモノ及エフクス線用ノモノヲ除ク

ハ 寫眞用感光紙

三 蓄音器及同部分品

イ 蓄音器(ラヂオ聴取裝置ヲ附シタルモノヲ含ム)

ロ 蓄音器部分品

蓄音器匣、サウンドボックス、移動腕金、マグネチックヒック

アップ、蓄音器用モーター、回轉盤、動力用センマイ及蓄音器用針

四 蓄音器用レコード(トリーキー用ノモノヲ含ム)但シ六吋以下ノ紙製ノモノヲ除ク

五 樂器及同部分品

イ 樂器

ピアノ、オルガン、アコーディオン、ハーモニカ、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、コントラバス、マンドリン、マンドラ、マンドリラ、ギター、バラライカ、ウクレレ、バンジョー、フリユート、ピッコロ、クラリネット、オーボエ、バズーン、ホルネット、トランペット、トロンボーン、アルト、バリトン、チューバ、サクソフオン、スザフオン、ホルン、木琴、鐵琴、ハープ、リラ、箏、三絃、琵琶、明笛及尺八但シ玩具ト認メラルモノヲ除ク

ロ 樂器部分品

絃樂器用ノ絃、弓及撥

前項ノ場合ニ於テ貴金屬トハ金、銀、白金及此等ヲ主タル材料トスル合金ヲ謂フ

第一種ノ物品ニシテ一個ノ價格三圓未満ノモノ又ハ貴石、半貴石、眞珠若ハ貴金屬ヲ用ヒタル物品ニシテ此等ノ部分ノ價格(二種以上ノモノヲ用ヒタルモノニ付テハ其ノ價格ヲ合算ス)ガ全體ノ價格ノ三分ノ一未満ノモノニハ物品特別稅ヲ課セズ但シ金剛又ハ白金側ノ時計及金屏風ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 樺太北支事件特別稅令第二十條ニ掲グル第一種ノ物品(以下第一種物品ト稱ス)ノ小賣業ヲ營マントスル者ハ販賣場及販賣スベキ物品ヲ

定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ販賣場所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第七條 樺太北支事件特別稅令第二十條ニ掲グル第二種ノ物品(以下第二種物品ト稱ス)ヲ製造セントスル者ハ製造場及製造スベキ物品ヲ定メ其ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申告書ヲ製造場所轄樺太廳支廳長ニ提出スベシ

第八條 第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者一月以上販賣又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ時期ヲ定メ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第九條 樺太廳支廳長ハ必要ト認ムルトキハ第二種物品ノ製造者ニ製造場ノ圖面及製造用ノ機械器具ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第十條 第六條乃至第八條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ前條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第十一條 第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品ノ製造業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品ノ製造業ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品ノ製造業ヲ承繼シタルトキハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ其ノ旨

ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第十二條 第一種物品ノ小賣業又ハ第二種物品ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ其ノ旨ヲ所轄樺太廳支廳長ニ申告スベシ

第十三條 第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者販賣場又ハ製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シ第六條又ハ第七條及前條ノ規定ニ準ズル申告ヲ爲スベシ

第十四條 第一種物品ノ販賣者又ハ製造者ガ第一種物品ヲ保稅地域ヨリ引取ル場合ニ於テハ物品特別稅ハ之ヲ徴收セズ

前項ノ場合ニ於テハ販賣者又ハ製造者タルコトヲ證明スベキ書類ヲ所轄稅關ニ提出スベシ

第一項ノ場合ニ於テハ樺太北支事件特別稅令第二十三條第二項ノ規定ニ依リ申告書ヲ提出ヲ要セズ

第十五條 樺太北支事件特別稅令第二十三條第一項ノ規定ニ依リ申告書ハ所轄樺太廳支廳長ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ヲ提出ナキトキ又ハ樺太廳支廳長其ノ申告ヲ不相當ト認メタルトキハ樺太廳支廳長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

前二項ノ規定ハ樺太北支事件特別稅令第二十三條第二項ノ規定ニ依リ申告ニ付之ヲ準用ス

第十六條 樺太北支事件特別稅令第二十五條第三號ノ規定ニ依リ物品特別稅ヲ免除スル物品ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 學術研究用ニ供スルモノ
- 二 醫療用ニ供スルモノ
- 三 機械用又ハ工業用ニ供スルモノ



四 教育用ニ供スルモノ

前項第四號ニ掲グル物品ハ中等學校又ハ小學校ニ於テ使用スル寫眞機、映寫機、寫眞用フィルム、ピアノ及オルガンニ限ル

第十七條 第一種物品ノ小賣業者又ハ第二種物品ノ製造者棒太北支事件特別稅令第二十五條及前條ノ規定ニ依リ物品特別稅ノ免除ヲ受ケントスルトキハ第一種物品ヲ引渡シ又ハ第二種物品ヲ製造場ヨリ移出スル際際メ共ノ旨ヲ所轄棒太廳支廳長ニ申請シ承認ヲ受ケルベシ

前項ノ場合ニ於テ所轄棒太廳支廳長ガ物品ノ輸出證明、用途證明、運搬、搬置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非ザレバ物品特別稅ノ免除ヲ受ケルコトヲ得ズ

前二項ノ規定ハ第一種物品又ハ第二種物品ヲ保税地域ヨリ引取ル者ガ棒太北支事件特別稅令第二十五條及前條ノ規定ニ依リ物品特別稅ノ免除ヲ受ケントスル場合ニ付之ヲ準用ス

第十八條 第一種物品又ハ第二種物品ノ販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

- 一 受入レタル物品ノ品名、數量、價格及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱
- 二 販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣ノ日竝ニ其ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ但シ所轄棒太廳支廳長監督上必要アリト認メ其ノ記載ヲ命ジタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 第一種物品又ハ第二種物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿

四 棒太北支事件特別稅令第二十七條第二項ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者

五 棒太北支事件特別稅令第二十八條ノ規定ニ依ル稅務官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シタル者

第二十四條 第二十一條又ハ第二十二條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ規定ヲ適用セズ

第二十五條 第一種又ハ第二種ノ物品ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ物品特別稅ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

第二十六條 本令中棒太廳支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第十五條第二項ノ規定ヲ除クノ外租稅ノ賦課徵收事務ヲ分掌スル支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス  
棒太北支事件特別稅令附則第三項ノ規定ニ依リ政府ニ申告セントスル者ハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ準ジテ作成シタル申告書ニ同令施行前ヨリ引續キ第一種物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種物品ヲ製造スルコトノ事實ヲ併セ記載シ之ヲ所轄棒太廳支廳長ニ提出スベシ

ニ記載スベシ

一 受入レタル材料ノ種類、數量及受入ノ日竝ニ其ノ引渡人ノ住所及氏名又ハ名稱

二 使用シタル材料ノ種類、數量及使用ノ日

三 製造シタル物品ノ品名、數量及製造ノ日

四 販賣シタル物品ノ品名、數量、價格及販賣又ハ移出ノ日竝ニ其ノ買受人又ハ引取人ノ住所及氏名又ハ名稱

前條第二項ノ規定ハ前項第四號ニ掲グル事項ノ記載ニ付之ヲ準用ス

第二十條 販賣場ヲ有セズシテ第一種物品ノ小賣業ヲ營ム者ニ在リテハ其ノ住所、住所ナキトキハ居所ヲ以テ販賣場ト看做ス

第二十一條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ所得特別稅、臨時利得特別稅、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ヲ逃脫シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ自首シタル者又ハ棒太廳支廳長ニ申出テタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第二十二條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ物品特別稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セシトシタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第二十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 棒太北支事件特別稅令第二十三條ノ規定ニ依ル申告ヲ怠リ又ハ詐リタル者
- 二 政府ニ申告セズシテ第一種ノ物品ノ小賣業ヲ營ミ又ハ第二種ノ物品ヲ製造シタル者

三 棒太北支事件特別稅令第二十七條第一項ノ規定ニ依ル帳簿ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

第一號書式(用紙適宜輪廓縱一〇四釐)

管 所	省 務	拓 務	年 度	何 號	第 二 種 所 得 特 別 稅 (又ハ利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅)
支 廳 (何出張所)	何 支 廳 (何出張所)	第 二 種 所 得 特 別 稅 (又ハ利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅)	第 二 種 所 得 特 別 稅 (又ハ利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅)	第 二 種 所 得 特 別 稅 (又ハ利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅)	第 二 種 所 得 特 別 稅 (又ハ利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅)
Y					
頭書ノ金額拂込候也					
何銀行代表者 何 某 團					
(其ノ他之ニ準ズ)					
日本銀行何店宛					
(又ハ何郵便局)					
昭和何年何月何日					

備考  
一、本書ノ年度ハ拂込ノ日ヲ以テ區別シ記入スベシ  
二、利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ノ書式ニ付テハ本書式ノ所得特別稅又ハ第二種所得特別稅トアル箇所ヲ利益配當特別稅又ハ公債及社債利子特別稅ト改記スルモノトス







第五號書式(用紙縱一七種 橫二四種)

昭和何年何月分 北支事件特別稅徵收高計算書 公債及社債利子特別稅ノ分

Table with columns for '支拂済金額' (Paid Amount), '支拂未済金額' (Unpaid Amount), '課稅' (Taxable), and '非課稅' (Non-taxable). Rows include '何公債利子' (Government bond interest), '何社債利子' (Corporate bond interest), and '計' (Total).

昭和何年何月何日 何銀行又ハ何會社

備考

- 一、支拂フベキ金額ノ欄ニハ其ノ月ニ於テ支拂フベキ額トモ確定シタル金額ト前月分支拂未済金額トノ合計ヲ掲グルモノトス
二、非課稅ノ分ニ付テハ一人別明細書ヲ添付スルモノトス

樺太支那事變特別稅令

昭和十三年四月一日 勅令第二百二十號

改正 昭和十四年第一七二號、一五年第一八五號、一六年第一〇三五號 朕樺太支那事變特別稅令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム(總理、大藏、拓務大臣副署)

- 第一條 當分ノ内本令ニ依リ所得稅ヲ增徴シ利益配當稅、公債及社債利子稅、建築稅、通行稅、入場稅、特別入場稅、物品稅及遊興飲食稅ヲ課ス
第二條 所得稅中法人ノ普通所得及清算所得ニ對スル所得稅ニ付テハ樺太臨時租稅增徴令第二條ノ規定ニ拘ラズ樺太所得稅令第二十五條ニ規定スル稅率百分ノ五ヲ百分ノ十五、百分ノ十ヲ百分ノ二十五トシタル場合ノ差增額ニ相當スル稅額ヲ增徴ス
第三條 所得稅中同族會社ノ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スル稅額ニ付テハ樺太臨時租稅增徴令第四條ノ規定ニ拘ラズ樺太所得稅令第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ノ百分ノ六十三ニ相當スル稅額ヲ增徴ス
第四條 所得稅中第二種ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ樺太所得稅令第二十六條及樺太臨時租稅增徴令第五條ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス
甲 國債ノ利子 百分ノ一
國債以外ノ公債ノ利子 百分ノ四
其ノ他 百分ノ五
乙 利益若ハ利息ノ配當 百分ノ十一
其ノ他 百分ノ十五
丙 所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス

〔輯一〇九〕

〔輯一〇九〕

二萬圓以下ノ金額 百分ノ三・五
二萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ七
十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十八
五十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十七
樺太所得稅令第一條ノ規定ニ該當セザル個人又ハ樺太ニ本店若ハ主たる事務所ヲ有セザル法人ノ第二種甲ノ所得ニ付テハ前項ノ規定ニ拘ラズ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス但シ内地、朝鮮、臺灣又ハ南洋群島ニ住所ヲ有スル個人、此等ノ地域ニ一年以上居所ヲ有スル個人(關東州ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ヲ除ク)及此等ノ地域ニ本店若ハ主たる事務所ヲ有スル法人ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 所得稅中第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ付テハ所得稅額ノ百分ノ二十五ニ相當スル稅額ヲ增徴ス
第六條 樺太所得稅令第二十四條ノ規定ニ拘ラズ第三種ノ所得千二百圓以上ナルトキハ所得稅ヲ課ス
前項ノ所得ハ樺太所得稅令第十六條乃至第十七條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル殘額ニ依リ、戶主及其ノ同居家族ノ所得又ハ戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ハ其ノ合算總額ニ依ル
第一項ノ規定ニ依リ課セラルル所得稅ニ付テハ前條ノ規定ニ拘ラズ所得稅額ノ百分ノ十二ニ相當スル稅額ヲ增徴ス
第七條 削除
第八條 削除
第九條 利益配當稅ハ樺太ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益ノ配當ヲ受クル者

第十二輯 財務 第二章 租稅 第四款ノ六 支那事變特別稅

ニ之ヲ課ス
樺太所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ利益配當稅ヲ課セズ
第十條 利益配當稅ハ前條ノ法人ヨリ支拂ヲ受クル利益ノ配當ニ付テハ賦課シ配當金中配當率年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス
第十一條 利益配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ
第十二條 公債及社債利子稅ハ樺太ニ於テ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受クル者ニ之ヲ課ス
樺太所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレザル者ニハ公債及社債利子稅ヲ課セズ
第十三條 公債及社債利子稅ハ樺太ニ於テ支拂ヲ受クル公債又ハ社債(樺太外貨債特別稅令第一條第二項ニ規定スル外貨債ヲ除ク)ノ利子ニ付テハ賦課シ利子金額中國債ニ在リテハ利率年四分、國債以外ノ公債及社債ニ在リテハ利率年四分五厘ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス
第十四條 公債及社債利子稅ハ利子金額支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ
第十五條 利益配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債及社債利子稅ヲ課セラルル公債又ハ社債ノ利子ニ付テハ其ノ利益配當金額又ハ利子金額ヨリ利益配當稅又ハ公債及社債利子稅相當額ヲ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ配當金額又ハ利子金額ト看做ス
前項ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣若ハ關東州ニ於ケル法令ニ依リ配當利子

七一〇ノ四四ノ三



特別稅、利益配當稅若ハ公債及社債利子稅ヲ課セラレ又ハ南洋羣島ニ於ケル法令ニ依リ超過配當稅ヲ課セラルル利益ノ配當又ハ公債若ハ社債ノ利子ニ付之ヲ準用ス

第十五條ノ二 建築稅ハ左ニ掲グル家屋ヲ建築（増築及改造ヲ含ム）以下同シ）シタル者ニ之ヲ課ス

- 一 居住ノ用ニ供スル家屋
- 二 料理店業、席貸業其ノ他之ニ類スル營業ノ用ニ供スル家屋ニシテ樺太廳長官ノ定ムルモノ
- 三 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物（相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム）ノ開催ノ用ニ供スル家屋
- 四 旅館ノ用ニ供スル家屋
- 五 麻雀場、撞球場其ノ他樺太廳長官ノ定ムル遊技場ノ用ニ供スル家屋
- 六 俱樂部、會館其ノ他名稱ノ何タルヲ問ハズ會員其ノ他樺太廳長官ノ定ムル者ノ親睦ヲ圖リ又ハ其ノ慰安若ハ娛樂ノ用ニ供スル家屋

第十五條ノ三 建築稅ハ家屋（附屬工作物ヲ含ム）以下同シ）一構毎ニ其ノ建築價額ヲ標準トシテ之ヲ賦課ス

前項ノ建築價額ノ算定ニ關シテハ樺太廳長官之ヲ定ム  
一構ノ家屋ノ一部分ガ前條ノ家屋ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ部分ヲ以テ一構ノ家屋ト看做ス  
第十五條ノ四 第十五條ノ二ニ掲グル家屋ヲ新築シタル者新築竣成後一年內ニ其ノ家屋ト一構ト爲ルベキ建築ヲ爲シタル場合ニ於テハ前後ノ建築ヲ通シテ一建築ト看做シ本令ヲ適用ス  
前項ノ規定ニ依リ建築稅ヲ課スベキ場合ニ於テ既ニ建築稅ヲ課シタル部分アルトキハ其ノ建築稅ニ相當スル金額ヲ建築稅額ヨリ控除ス  
第十五條ノ五 建築稅ハ建築價額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額ノ百分ノ二十ニ相當スル金額ヲ以テ其ノ稅額トス  
第十五條ノ六 左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ建築稅ヲ課セズ

一 建築價額一萬圓未滿ノ家屋  
二 公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲市町村其ノ他樺太廳長官ノ指定スル公共團體ガ建築シタル家屋  
三 其ノ他樺太廳長官ノ定ムル家屋

第十五條ノ七 左ニ掲グル家屋ヲ建築シタル場合ニ於テハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ建築稅ヲ免除ス

- 一 災害ニ因リ滅失又ハ損壞シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋
- 二 法令ニ依リ收用又ハ使用セラレタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋及法令ニ依ル敷地ノ收用又ハ使用ニ因リ取毀シタル家屋ニ代ヘテ建築シタル家屋
- 三 其ノ他樺太廳長官ノ定ムル家屋

第十五條ノ八 建築稅ニ付納稅義務アル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ建築價額ヲ政府ニ申告スベシ  
第十五條ノ九 建築價額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス  
建築價額ヲ決定シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第十五條ノ十 建築稅ハ建築竣成ノ際之ヲ徵收ス  
第十五條ノ十一 建築稅ハ家屋ノ所在地ヲ以テ納稅地トス  
納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキハ建築價額ノ申告、納稅其ノ他建築稅ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ  
第十五條ノ十二 本令ノ適用ニ付テハ被相続人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ相続人ノ爲シタルモノト看做シ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ爲シタル家屋ノ建築ハ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ノ爲シタルモノト看做ス  
第十六條 通行稅ハ汽車、乗合自動車及汽船ノ乘客ニ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

〔輯一二九〕

〔輯一〇九〕

乗車船區間四十料以下ナルトキ

- 一等 十錢
- 二等 五錢

乗車船區間八十料以下ナルトキ

- 一等 二十錢
- 二等 十錢
- 三等 二錢

乗車船區間百二十料以下ナルトキ

- 一等 三十錢
- 二等 十五錢
- 三等 五錢

乗車船區間百六十料以下ナルトキ

- 一等 六十錢
- 二等 三十錢
- 三等 十錢

乗車船區間三百料以下ナルトキ

- 一等 一圓二十錢
- 二等 六十錢
- 三等 二十錢

乗車船區間五百料以下ナルトキ

- 一等 一圓八十錢
- 二等 九十錢
- 三等 三十錢

乗車船區間八百料以下ナルトキ

- 一等 二圓四十錢
- 二等 一圓二十錢
- 三等 四十錢

乗車船區間八百料ヲ超ユルトキ

- 一等 三圓
- 二等 一圓五十錢
- 三等 五十錢

回数乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

- 回数二十回以下ナルトキ 前項稅額ノ五倍
- 回数五十回以下ナルトキ 前項稅額ノ十倍
- 回数五十回ヲ超ユルトキ 前項稅額ノ二十倍

定期乗車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

- 契約期間一月内ナルトキ 第一項稅額ノ五倍
- 契約期間三月内ナルトキ 第一項稅額ノ十倍
- 契約期間六月内ナルトキ 第一項稅額ノ二十倍
- 契約期間六月ヲ超ユルトキ 第一項稅額ノ三十倍



人員二百人以下ナルトキ 第一項稅額ノ二十倍  
人員二百人ヲ超ユルトキ 第一項稅額ノ三十倍

貨切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ通行稅ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ課ス

一等及二等 貨切運賃ノ百分ノ十  
三等 貨切運賃ノ百分ノ五

前項ノ規定ニ依ル稅額ハ第一項稅額ニ乘客定員數ヲ乘シタル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第一項乃至第三項ニ規定スル通行稅ハ十二歳未滿ノ乘客ニ付テハ其ノ半額トス

前項ノ稅額ニ十錢ニ滿タザル端數アル場合ニ於テハ其ノ端數ガ五錢以上ナルトキハ之ヲ五錢トシ五錢ニ滿タザルトキハ之ヲ切捨ツ但シ其ノ金額五錢ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條ノ二 急行車船ニ乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ルノ外急行料金ノ百分ノ十ノ稅率ニ依リ通行稅ヲ課ス

前條第八項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ニ付之ヲ準用ス

第十七條 乘車船區間四十軒以下ノ三等乘客ニハ通行稅ヲ課セズ但シ前條ノ規定ニ依ル通行稅ハ此ノ限ニ在ラズ

陸海軍ノ團體トシテノ乘車船ニシテ樺太廳長官ノ定ムルモノニハ通行稅ヲ課セズ

第十八條 往復乘車船又ハ週遊乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十六條第一項及前條第一項ノ乘車船區間ノ軒程ノ計算ハ樺太廳長官之ヲ定ム

第十九條 汽車、乗合自動車又ハ汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第十六條第一項、第五項及第十七條第一項ノ等級ハ樺太廳長官之ヲ定ム乘客定員數ノ定ナキ車船ニ付貨切乘車船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第十六條第六項ノ乘客定員數ニ付亦同シ

第二十條 通行稅ハ汽車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者(以下運輸業者ト稱ス)運賃又ハ急行料金額領收ノ際之ヲ徵收シ翌月末日迄ニ政府ニ納ムベシ

第二十一條 汽車、乗合自動車又ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ムントスル者及運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣セントスル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第二十二條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乘車船券ヲ販賣スル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第二十三條 入場稅ハ左ニ掲グル第一種ノ場所ニ入場スル者又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル者ニ之ヲ課ス

第一種 一 演劇、活動寫眞、演藝又ハ觀物(相撲、野球、拳闘其ノ他ノ競技ニシテ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ目的トスルモノヲ含ム)ヲ催スル場所

二 競馬場

三 前二號ニ掲グルモノヲ除クノ外一定ノ催物又ハ設備ヲ爲シ公衆ノ觀覽又ハ遊戯ニ供スル場所ニシテ樺太廳長官ノ定ムルモノ

第二種

麻雀場、撞球場

第二十四條 入場稅ノ稅率左ノ如シ

第一種ノ場所

入場料ガ一人一回七十五錢未滿ナルトキ 入場料ノ百分ノ十五

入場料ガ一人一回一圓五十錢未滿ナルトキ 入場料ノ百分ノ二十五

入場料ガ一人一回三圓未滿ナルトキ 入場料ノ百分ノ三十五

入場料ガ一人一回四圓五十錢未滿ナルトキ 入場料ノ百分ノ四十五

入場料ガ一人一回四圓五十錢以上ナルトキ 入場料ノ百分ノ六十五

回数、定期又ハ貨切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタルトキ 入場料ノ百分ノ三十五

入場料ノ百分ノ三十五

入場料ノ百分ノ三十五

入場料ノ百分ノ三十五

入場料ノ百分ノ三十五

入場料ノ百分ノ三十五

第二種ノ場所

撞球場 入場料ノ百分ノ十五

麻雀場 入場料ノ百分ノ二十五

本令ニ於テ入場料トハ名義ノ何タルヲ問ハズ第一種ノ場所ニ入場シ又ハ第二種ノ場所ノ設備ヲ利用スル爲ニ支拂フベキ金額ヲ謂フ

前項ノ入場料ノ算定ニ關シテハ樺太廳長官之ヲ定ム

第二十五條 第一種ノ場所ノ入場料ガ一人一回二十九錢ニ滿タザル場合ニハ入場稅ヲ課セズ

前項ノ規定ハ回数、定期又ハ貨切ニテ入場ノ契約ヲ爲シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

第二十六條 第一種ノ催物(第一種ノ場所ニ於ケル演劇、活動寫眞、演藝、觀物、競馬其ノ他ノ催物ヲ謂フ以下同シ)若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ガ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ入場料又ハ收益ノ總額ヲ慈善事業其ノ他樺太廳長官ノ定ムル目的ニ充ツル場合ニ於テハ入場稅ヲ免除ス

第二十七條 入場稅ハ第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者入場料領收ノ際之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ但シ當時開設ニ非ザルモノニ付テハ樺太廳長官ノ定ムル場合ヲ除クノ外終了後直ニ政府ニ納ムベシ

第二十八條 第一種ノ催物若ハ設備ヲ開催若ハ經營シ又ハ第二種ノ場所ヲ經營セントスル者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同シ

第二十九條 第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

第一種ノ催物若ハ設備ノ主催者若ハ經營者又ハ第二種ノ場所ノ經營者ハ樺太廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ